

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.11 1978.1

|                |   |
|----------------|---|
| 国立大学図書館協議会の活動  | 1 |
| カタログ・フォーミニフエラー | 3 |
| 新規購読外国雑誌       | 4 |
| 雑誌復刻版あれこれ      | 5 |
| 文献の入手法         | 6 |

## 国立大学図書館協議会の活動

田 辺 広

本協議会は国立大学の附属図書館を会員とする組織であり、かつては全国国立大学図書館長会議と称していた。全国を9地区に分け、各地区まわり持ちで年1回総会を開いているが、本年度は去る6月2日～3日と2日にわたり東京地区主催で神田の一橋講堂、如水会館を会場に第24回総会が開催された。この会議には図書館長と共に部課長、事務長が出席するので200名以上の出席者となり相当大規模な会議と言ってよいだろう。教官である館長と事務官の合同の会議である点ユニークであるが、始めてこの会議に出席される方々が大かれ少なかれ感ずることは、先づ前後の理事会を入れると3日間ぎっしり日程が組まれ、盛沢山の議題があることであり、次には、事務官が教官と同席して自由に発言することである。

総会で協議されることは、各地区毎の地区協議会で取りあげた協議事項と要望事項をもととし、年に3回程開かれる理事会と更に頻繁に開かれる常務理事会で用意された議題である。それらを3つの分科会すなわち第1分科会（一般事項および運営に関する問題）、第2分科会（予算人事）、第3分科会（サービス及び技術の問題）にわけて検討し全体会議で協議会の決定事項、要望事項にまとめる

わけであるが、本年度の協議題は大問題小問題とりまぜて45件あった。勿論その中には毎年のように繰返し提出される職員増員、予算獲得のようなものもあるが、図書館は解決すべき問題が沢山あると言うことを示している。これらの中で本年度要望事項として関係省庁に提出されたものは次のようなものである。

### 1. 図書館予算について

- (1) 「学生用図書購入費」をさらに増額すること
- (2) 「特別図書購入費」をさらに増額すること
- (3) 「外国雑誌購入費」をさらに増額すること
- (4) 「参考図書購入費」をさらに増額すること
- (5) 「共同利用図書購入費」を新設すること
- (6) 「図書館維持費」を増額すること
- (7) 夜間開館・休日開館に必要な経費を増額すること
- (8) 図書館職員の研修旅費を増額すること
- (9) 冷房設備を設置し、その維持費を予算化すること

### 2. 図書館職員について

- (1) 図書館職員の大幅増員をはかること  
(ア) 学生増および学部・学科、研究所等の新增設が行われる場合には学生・教官の増加に対して一定比率をもって図書館職員の定員を増員するように措置すること。

(イ)参考業務担当職員の増員をさらに推進すること

(ウ)相互協力業務担当職員の確保・増員をはかること

(エ)夜間・休日開館に必要な定員増をはかること

とくに夜間学部を置く大学については、その教官・学生数に見合った図書館職員の定員を増加配分すること

(2) 図書館長、分館長の待遇改善をはかること

(3) 事務部長、課長、事務長の管理職手当の増額をはかること

(4) 課長補佐・事務長補佐・分館事務長の新設・増員をはかること

(5) 図書館職員の等級別定数のわくを拡大すること

3. 大学図書館関係諸基準の改訂とそれを裏づける措置をとること

これらの要望は国立大学協会図書館特別委員会(委員長:北海道大学学長)にも伝えられ表裏一体となって主として文部・大蔵両省に提出される。これらの中で昭和52年度において実現されたものに、1億4千万円にのぼる外国雑誌の購入費がある。

協議会の活動の中で最も活発に動いているのは、調査研究班である。機械化に最も関係深い22館と9名の常任委員からなる図書館機械化調査研究班(主査:千葉大学附属図書館事務部長)は数年にわたって調査研究活動を行っており来年度の総会までに最終報告書を作成する予定である。もう一つの図書館相互協力調査研究班(主査館:千葉大学附属図書館)は、共同利用図書館についての全国的なアンケート調査を始め、その方向性を定めようとしている。また存続はしているが、既に立派な報告書を出し終った大学図書館改善調査研究班(主査:一橋大学附属図書館長)がある。これは昭和27年設定された「国立大学図書館改善要項」の改訂をめざすもので主査を除く司書系部課長10名によって構成された研究班である。

以上のような研究班が主として司書系図書

館職員によって構成されているのに対し、大学図書館基本問題特別委員会(委員長:東京大学附属図書館長)は図書館長11人、部長10人よりなり、まさに大学図書館の基本的な問題を論ずる委員会である。その検討事項は、図書館長の専任の問題、中央の図書館と分館(又は分室)の問題、図書館に教官(専任)定員または専門員をおくことの可否、機械化と学術情報機械化ネットワークの問題、選書体制、共同利用保存図書館の問題等、きわめて微妙な問題もあえて討論される。教官である館長にとっては図書館が問題としていることを知る大変よい機会であり、司書であり事務官である私達にとっても研究者であり館長職にある方々の意見を聞き議論をつくすことのできるよい場である。特別委員会の報告は近く作成されることになっている。

協議会はまた国立大学図書館職員の優れた功績、または研究業績に対し岸本英夫博士(もと東大図書館長)記念基金より国立大学図書館協議会賞を毎年出している。ちなみに本館は昭和50年度の功績として「図書館で学ぶために」の刊行とその利用にともなう図書館活動に対し受賞している。

また協議会そのものではないが、すでに3回を数える日米大学図書館会議を主催する大学図書館国際連絡委員会の中心的な柱としてその活動に関与している。

以上概略を述べたが、その詳細は毎年総会の時に資料として刊行される冊子によっても見られるが、頒布の範囲が限られているので、一般の眼には触れ難い。重要なことについては、各図書館の館報または『大学図書館研究』の各号によっても知ることができる。図書館界内部では実に様々のことが論議され調査や研究も出ているし、研修も盛んであるが、一歩外へ出ると全くと言ってよい程図書館のことは知られていない。ことに図書館と密接な関係にある教官、学生そして大学の事務関係者においてもそうであることは誠に残念である。その意味でこの館報を通じ協議会の活動の一端を知っていただければ幸である。

(附属図書館事務部長)



## 蔵書紹介

## “Catalogue of Foraminifera”

by Brooks Fleming Ellis &amp; Angelina R. Messina.

New York, American Museum of Natural History.

Microfilm. 44 reels.

前田 四郎

生物の進化は誰も疑うことの出来ない事実であり、人間を含め、生物界は未来永劫に流転変化する宿命的存在物である。生物には高等なものもあれば下等なものもある。フォラミニフェラー（有孔虫類）は下等な原生動物であるが、今から約5億年前には既に地球上に出現し、その子孫は現在に続いており、東京湾にのぞむ館山の北條海岸・太平洋岸の勝浦海岸、また沖縄の海岸にも波で打ちあげられているのがありふれてみられる。フォラミニフェラーの盛衰には二つの山があった。栄えた一つの山は古生代後期（石炭・二畳紀）で、他の一つは白亜紀以降・現世に及ぶ時代である。古生代後期に栄えたグループは紡錘虫といわれ、それらは全く絶滅し、わが国・中国南部・ヒマラヤからウラル地方、その他におびただしい数の化石として残る。これらは石灰岩中に含まれることが多く、層序の判定や石灰岩と結びつく金属鉱床等の開発に役立っている。白亜紀以降に栄えたのは有孔虫と称せられ、これはアラビア・北アフリカ・カリフォルニア・メキシコ等の世界のすべての石油、天然ガス、地下水の発見に不可欠の役割を果たしてきている。つまり地層中に含まれるこの微化石はこれを調べることによって地層の連続性、地層の褶曲構造、石油や石炭を埋蔵した堆積盆地の形状等を知ることが出来るので、この微化石は地層学の諸現象の解明の重要な一指示物となっている。

有孔虫の大きさは稀れには大きなものもあるが、一般には1ミリ以下から数ミリに及ぶ。現今、自然科学の対象としての地球は学術的には以前よりかなり狭ばまると共に、次第に未詳のことが多い海洋底の研究が旺盛となりつつある。さて深海底の資料（泥）を採集するとなると費用がかさむ。しかし有孔虫は微

小な化石であるから僅少の資料（泥）の中にも研究に足り得るデーターが得られるので、海洋底の生成年代、その他の基礎的研究にはこの有孔虫研究が不可欠となっているのが、近代海洋科学の実情である。油田開発、海底探査の方面のみならず、諸方面に亘り、世界各国でこのたぐいの化石の研究が血まなこになって進められ、この学問はフォラミニフェラー学とさえ云われる。そんな事情で世界中に有孔虫類の新属新種が年々増える一方であるから、各国独自による学問の進展に伴ってそこには注意すべき事項も当然起ってくる。すなわち学名の混乱がそれである。

第二次世界大戦中、わが国では人びとが生活に苦しんでいた頃、アメリカではいち早くこの弊害に着目し、世界中の有孔虫類に関してそれ迄に報告されていた文献の集大成を手がけ、有孔虫類の戸籍謄本を完成したのであった。それは1949年で、この戸籍謄本がカタログ・フォラミニフェラーである。この集大成には多大な労力を要したであろうが、一旦完成された以降は毎年、世界中の資料が1巻ないし2巻のマイクロフィルムに集録され、これらはアメリカ自然史科学博物館（ニューヨーク市）から当カタログ購入先に自動的に配付される仕組みとなって、研究者にとっては極めて好都合となっている。因みにカタログの分量は種数が数万、頁が数万頁に及ぶ。

房総の地質（海成層）は表日本の代表であるばかりでなく、国際的に重要な一模式地で、先年国際的エクスカージョンも開催されたが、図書館所蔵のこのカタログ・フォラミニフェラーが教育と研究に多大な役割を果たしつつあるのは、まことに喜びに堪えないことである。

（理学部教授 地質学）

## 新規購読外国雑誌について

~~~~外国雑誌購入費による~~~~

「図書館の本」No.10で、外国雑誌購入費についてお知らせしましたが、本学に対する配分額は 175万円  
で、『外国で生産される自然科学系一次資料の学術雑誌で、本学において重複することなく、図書館に備  
えつけて学内共同利用に供する』という方針のもとに各部局図書委員会から提出された雑誌79種のうち、  
次の 67種を決定しました。これらの雑誌は、時期的には若干遅れますが、一応1977年度分(一部分につい  
ては1976年度分)から、本館、医学部図書館、園芸学部図書館に備えつけられる予定です。(医、園の表  
示以外は本館備付け)(受入係)

Acta Crystallographica. Sec.B.  
Aging. (医)  
Agricultural Water Management. (園)  
American Alliance for Health Physical  
Education and Recreation Research  
Quarterly.  
Australian Journal of Biological  
Sciences.  
Australian Journal of Experimental  
Biology and Medical Science.  
Berichte der Deutschen Botanischen  
Gesellschaft. (園)  
Burlington Magazine.  
Canadian Journal of Botany. (園)  
Carbon.  
Child.  
Child and Family. (医)  
Children Today. (医)  
Community Mental Health Journal. (医)  
Comprehensive Psychiatry. (医)  
Comptes Rendus Hebdomadaires des  
Séances de l'Académie des Science.  
Ser.A.  
Comptes Rendus ... Ser.B.  
Computer Networks.  
Current Problems in Pediatrics.  
Design for Industry.  
F. E. B. S. Letters. (医)  
Family Health.  
Food Technology. (園)  
Gazzetta Chimica Italiana.  
Geological Magazine.  
International Gymnast.  
International Journal of Systems Science.  
Journal of Agricultural Science. (園)  
Journal of the American Dietetic  
Association. (医)  
Journal of Applied Behavioral Science. (医)  
Journal of Chemical Research.  
Synopsis.  
Journal of Chemical Research.  
Microfiche and Miniprint.

Journal of Chemical Thermodynamics.  
Journal of Experimental Biology. (医)  
Journal of Library Automation.  
Journal of Lipid Research. (園)  
Journal of Mathematical Psychology.  
Journal of Mechanical Engineering  
Science.  
Journal of Neurological Sciences. (医)  
Journal of Psychosomatic Research.  
Journal of Research and Development in  
Education. (医)  
Landscape Industry. (園)  
Library Resources and Technical  
Services.  
Membrane Biochemistry. (医)  
Midwives Chronicles. (医)  
Mineralogical Magazine.  
Mycopathologia et Mycologia Applicata.  
with Suppl. (医)  
Nature.  
Nature Annual Index.  
Naturwissenschaften.  
Naval Research Logistics Quarterly.  
Oeil.  
Operational Research Quarterly.  
Organic Preparations and Procedures  
International.  
Pädiatrische Praxis.  
Review of Palaeobotany and  
Palynology.  
Science.  
Science News.  
Scientific American.  
Software: Practice and Experience.  
Soviet Physics. Solid State.  
Studio International.  
Supervisor Nurse. (医)  
Theory and Decision.  
Turnen und Sport.  
Urban Ecology.  
World Environmental Report.



## 雑誌復刻版あれこれ

最近図書館で受入れた雑誌の復刻版を紹介します（学術情報係）

**明六雑誌** 1(明7)～43(明8) 明六社  
(立体社) (02書庫)

日本における最初の近代的文化団体である明六社の機関誌。明六社は明治6年森有禮・梟朝後、国民啓蒙運動のために西村茂樹、福沢諭吉、中村正直・加藤弘之等とともに結成。

**学芸志林** 1(明10)～17(明18) 東京大学  
(原書房) (04書庫)

「東京帝国大学」に改組されるまでの「東京大学」時代約8年間に刊行された全学部共同編集の紀要。我国最初の高度な総合的学術専門誌といえる。

**国学院雑誌** 1(明27)～30(大13)(第一書房)  
(04書庫)

明治・大正・昭和三代にわたって国学、国文、国語、漢文、言語、教育、国史、神道、仏教等の各分野に秀れた論文を収録。各巻の巻頭に総目録が新たに編纂して附してある。

**思想月報** 1(昭9)～109(昭19) 司法省  
刑事局(文生書院) (10書庫)

治安維持法等、戦前における思想取締まりの官側資料で極秘で出版された幻の資料の復刻版。総目次あり。

**ヒストリア** 1(昭26)～42(昭40) 柳原書店  
(柏書房) (20書庫)

研究体制の中央集権の傾向に対して各地域の学問的興隆を期して組織された大阪歴史学会の機関誌。

**産業組合** 第一期 1(明38)～230(大13)  
大日本産業組合中央会(日本経済評論社) (33書庫)

我国産業組合運動の機関紙で、昭和18年、455号まで刊行されたうちの第一期の分。各地組合の経験交流、識者の意見紹介などによって産業組合の普及発達をはかることを目的とした。

**社会事業研究** 10(大11)～32(昭9) 大阪社会  
事業研究会事務所(文京出版)  
(36書庫)

『救済研究』の改題。

**戦旗** 1(昭3)～4(昭6) 全日本無産者芸術連盟  
本部(戦旗復刻版刊行会) (90書庫)

昭和3年の3・15事件の嵐の中で日本プロレタリア芸術連盟と前衛芸術家同盟とが合同して全日本無産者芸術連盟(ナップ)を結成。プロレタリア芸術運動を結束して戦おうとした。『戦旗』はその機関誌。小林多喜二の「蟹工船」徳永直の「太陽のない街」などプロレタリア文学の主要な作品を収録。

▼以下は日本近代文学館復刻発行(90書庫)

**青年文学** 1(明24)～17(明25) 青年文学会

明治23年に遅塚金太郎・中村修一・国木田独步等が発起人となり結成された民友社系青年文学会の機関誌。

**よしあし草・関西文学** 1(明30)～26(明33)  
1(明33)～6(明34) 浪華青年文学会

『よしあし草』は浪華青年文学会の機関誌。関西における新しい文学運動の先駆として、中村吉蔵・高須梅溪が発起して発行。『関西文学』はその改題誌名。与謝野鉄幹、晶子・永井荷風の作品も収録。

**ホトトギス** 2(明31)～15(明45) ほととぎす  
発行所

正岡子規主宰の下に柳原極堂が創刊した俳句誌。最初松山発行だったが、21号(明31)から東京で高浜虚子編集となる。夏目漱石の「吾輩は猫である」が明治38年7月より連載。

**人間** 1(大8)～4(大11) 玄文社

里見弴・久米正雄・吉井勇・田中純を編集同人として創刊。スバル派、新思潮派、白樺派の人々が関係、里見の「父親」が収録。

**山繭** 1(大13)～4(昭4) 黙示社

石丸重治、木村庄三郎・永井龍男・小林秀雄等によって創刊。同人としては波多郁太郎、青木晋(竹山道雄) 堀辰雄、滝口修造等。

**青空** 1(大14)～3(昭2) 青空社

三高出身の東大生、稲森宗太郎・梶井基次郎・忽那吉之助・小林馨・外村繁・中谷孝雄の六名によって創刊された同人誌。創刊号の巻頭に梶井の「檸檬」がある。

**辻馬車** 1(大14)～3(昭2)波屋書房

「傾斜市街」の後身として小野勇、神崎清、田中健三、中川六郎、上道直夫、藤沢恒夫等による同人誌。後に武田麟太郎らが加わる。

「文芸時代」を中心とする新感覚派の文学運動の一翼を担う。

**文藝市場** 1(大14)～3(昭2)文藝市場社

大正後期、梅原北明、金子洋文、村山知義等によって一種の反体制的な試みを目指した同人誌。

**白痴群** 1(昭4)～5(昭5) 青省堂

河上徹太郎、中原中也を中心に村井康男、古谷綱武、大岡昇平らが同人となって創刊した同人誌。中原の詩篇、河上の論文に注目すべきものがある。

**文科** 1(昭6)～4(昭7)春陽堂

牧野信一が主宰して創刊。同人には井伏鱒二、坪田譲治、小林秀雄、河上徹太郎、坂口安吾等。坂口の「竹藪の家」掲載。

**文学界** 1(昭8)～3(昭11) 文化公論社

文芸復興の盛んな機運のもとで小林秀雄、林房雄、武田麟太郎、川端康成、深田久弥、広津和郎、宇野浩二の七名の同人によって創刊。昭和9年2月号でいったん休刊し、6月から文圃堂書店、昭和11年7月からは文藝春秋社発行となる。

**鶴** 1(昭9)～2(昭9) 鶴社

古谷綱武、檀一雄を中心に創刊した同人誌。太宰の「葉」「猿面冠者」が収録。

## 文 献 の 入 手 法

前号で国内にない文献を入手するための“BLD複写サービス”を紹介しましたが、この機会に学内および学外にある文献の入手方法について事務手続を中心にお知らせします。所蔵を調べるための目録は最後に一覧表にしておきました。

### 1. 学内にある文献

#### ①西千葉地区にあるもの

現在本館のある西千葉地区には、薬学部図書室、工業短期大学部図書室の他に各学部研究室が約200あります。これらの研究室に所蔵されている図書を利用したい時は、各研究室で決められた規則に従って閲覧又は貸出を受けて下さい。なお本館の利用法については『図書館で学ぶために』および館内掲示等を参考にして下さい。

#### ②亥鼻地区・松戸地区にあるもの

これらの地区に直接行けない人のためにサービスします。

a. 雑誌論文を入手したい人には複写物を取りよめます。複写料金は1枚40円(公費20円)です。

b. 単行書を入手したい人には貸出を受けます。

### 1. 学外にある文献

#### ①国内にあるもの

##### a. 閲覧

本学にない文献を他大学図書館等で閲覧したい人には紹介状を発行します。

##### b. 貸出

直接貸出を受けられるのは次の二機関です。

##### i. 国立国会図書館

「国立国会図書館図書館間貸出制度」により一館10冊まで貸出を受けられます。希望者には「貸出申込票」を発行します。貸出を受けた図書は図書館の閲覧室で利用して下さい。

##### ii. 放射線医学総合研究所図書室

当該図書室の好意により貸出が受けられます。「貸出依頼状」を発行します。

##### c. 複写

国立国会図書館\* 日本科学技術情報センター\*\*所蔵のものは除き、他の諸機関所蔵のものについて行ないます。

##### i. 公費で申し込む時

「国費支出文献複写申込書」に記入して申込者が所属する学部の会計係の承認を受け郵送料50円をそえて申し込んで下さい。複写物の引渡は学部会計係を通じて行ないます。ただし国立の機関が所蔵する文献に限ります。

##### ii. 私費で申し込む時

郵送料50円をそえて申し込んで下さい。申込館から複写料金の連絡があります。複写物の到着は、国立大学の場合料金払い込み後になります。

\*昭和52年5月27日付文書で利用者が直接国会図書館へ行って申し込むよう通知がありましたのでご協力下さい。なお公費払を希望される方には「国立国会図書館文献複写申込

書」が用意してありますので、申込者が所属する学部会計系の承認を受けて持つて行くと手間ははぶけます。

\*\* 申込書は参考調査係にあります。

②国内にないもの

前号紹介の「BLLD複写サービス」を利用して下さい。(参考調査係)

### 文献の所蔵を調べるための目録一覧

1977. 12. 1 現在

|                             | 国 内                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                         | 国 外                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                             | 学 内                                                                                                                                                                            | 学 外                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 図<br>書                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎カード目録<br/>著者、書名、分類</li> <li>◎冊子目録<br/>●蔵書目録 和漢書編<br/>昭和40～45年</li> </ul>                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国立国会図書館蔵書目録</li> <li>●新収洋書総合目録<br/>1958～ (年刊)</li> <li>●他機関から寄贈を受けた目録</li> </ul>                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>●Library of Congress.<br/>The national union<br/>catalog. 1956-1967.<br/>125v. 1971- (Annual)</li> </ul>                                                                                                                                                                  |
| 雑<br>誌                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎カード目録</li> <li>◎冊子目録<br/>●雑誌総合目録 1970年版</li> <li>●学術雑誌総合目録<br/>自然科学欧文篇 1976年1月現在</li> <li>●購読雑誌所在目録 1974</li> <li>●同補遺 1975</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学術雑誌総合目録 4冊</li> <li>●国立国会図書館所蔵<br/>和雑誌目録<br/>欧文雑誌目録</li> <li>●日本科学技術情報センター<br/>逐次刊行物目録</li> <li>●他機関から寄贈を受けた<br/>目録</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●Library of Congress.<br/>New serial titles.<br/>1950-1970. 4v.<br/>1971- (Irreg.)</li> <li>●Union list of serials in<br/>libraries of the United<br/>States and Canada.<br/>1965. 5v</li> <li>●British union-catalogue<br/>of periodicals. 1968-<br/>1970. 6v</li> </ul> |
| 目録<br>の<br>備<br>付<br>場<br>所 | 図書---目録室 (3階)<br><br>雑誌---雑誌室 (2階)                                                                                                                                             | 参考室 (2階)                                                                                                                                                                | 参考室 (2階)                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

### 教官(職員) 寄贈著書

昭和52年4月～12月に寄贈された著書

清水川繁雄 (人文)

経済分析の理論と方法 清水川繁雄等著 世界書院  
昭52

田中英明 (人文)

ダイナミック経営 A. グーテンバーク、E. リッ  
チマン共著 田中英明訳 泉文堂 昭52  
労務管理 森五郎編 法学書院 昭51

原田敏一 (人文)

西側世界への警鐘 A. Solzhenitsyn著  
K. Harada, I. Shigeyama編 愛育社 昭52  
ハブワース16, 1924 J.D.サリンジャー著 原田敏  
一訳 荒地出版社 昭52

村山元英 (人文)

経営文化論 ぎょうせい 昭52

空港をめぐる魅力ある成田をつくるには—市民懇  
談会— 成田青年会議所 昭52

宇佐美寛 (教育)

論争・道徳授業 井上治郎、宇佐美寛著 明治図書  
昭52

城丸章夫 (教育)

新しい教育技術 1-7 城丸章夫監修・編 日本  
標準 昭51-52

地域子ども会 草土文化 昭52

谷川彰英 (教育)

社会科の新展開 1-3 小林信郎、溝上泰、谷川



彰英編 明治図書 昭52

沼田真 (理学)

Proceedings of the International Symposium  
on Environmental Education. Ed. by M. Numata  
and others. Chiba, 1977.

本間三郎 (医学)

Understanding the stretch reflex. Ed. by S.  
Homma. (Progress in brain research. Vol. 44)  
Amsterdam, Elsevier, 1976.

運動制御の原理 R. Grint著 本間三郎、渡部士  
郎共訳 医歯薬出版 昭49

佐藤哲男 (薬学)

薬理遺伝学 I. Szórády著 木下安弘、佐藤哲男訳  
地人書館 昭52

鈴木徳治 (薬学)

薬物のバイオアベイラビリティ 薬業時報社 昭51

津田稜 (薬学)

フォトポリマー フォトポリマー懇談会・フォトポ  
リマー編集委員会編 シーエムシー 昭52

川瀬太郎 (工学)

地絡保護と接地技術 オーム社 昭52

川俣正一 (工学)

印刷業実態調査報告書 全日本印刷工業組合連合会  
昭52

鈴木伸 (工学)

窒素酸化物 日本化学会編 丸善 昭52

角田隆弘 (工学)

フォトポリマー フォトポリマー懇談会・フォトポ  
リマー編集委員会編 シーエムシー 昭52

田辺広 (図書館)

西洋をさずいた書物 J. カーター、P.H.ムーア編

西洋書誌研究会訳 雄松堂 昭52

日本目録規則 新版 予備版 日本図書館協会目録  
委員会編 昭52

## 学術情報データベースとその利用

### —講演とデモ—

9月12日、東京大学理学部藤原鎮男教授、  
図書館情報学センター根岸正光助手の両氏が  
来館され、表記の題で講演された後TOOL-IR  
(Tokyo university On-Line Information  
Retrieval system) による情報検索のデモが  
行なわれた。参会者は本学教官や図書館関係  
者など10数名であった。

このシステムは、化学、結晶構造など莫大  
な量の情報を電算機を利用して、正確・迅速  
に検索できるというものである。データベー  
スは東京大学大型計算機センターにあり、利  
用者は通信回線とつなぐごく簡単な端末装置  
によって、遠隔地でも文献の書誌的情報を入  
手することができる。

デモでは電話回線を使用してセンターを呼  
び出し、CAS (Chemical Abstracts Service)  
データベースとつなぎ、音響カプラ付端末に  
よってオンライン検索が行なわれたが、必要  
な情報が即座に検索できた。なお千葉大学では、  
工学部電子計算機室を通じて利用でき、現在は電  
話使用料程度の負担である。将来は図書館に端末  
装置をもち利用に供することが考えられている。

## 生物活性研究所分館の移転について

昨年10月24日より亥鼻キャンパスの新建物  
で業務を再開しました。同研究所2階の北側  
にあります。

新住所：千葉市亥鼻1丁目8番1号

Tel. (22)7171 内線5053

## 定年退官の教官および卒業生の閲覧について

◎3月で定年退官される教官で退官後も図書  
館を利用したい方は参考調査係 (内線2216)  
までご連絡下さい。閲覧証を発行します。

◎3月卒業予定の学生で卒業後も図書館を利  
用したい方は、指導教官の紹介状又は卒業証  
明書を同係までとどけて下さい。閲覧証を発  
行します。

## ■■■■■■■■開館時間について■■■■■■■■

|               |                                 |
|---------------|---------------------------------|
| 公式の授業・試験期間    | 月～金 9:00～19:00<br>(試験期は20:00まで) |
|               | 土 9:00～14:30<br>(試験期は16:00まで)   |
| 上記期間以外(休業期間等) | 月～金 9:00～16:30                  |
|               | 土 9:00～12:00                    |

臨時休館 3月1日～14日

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.12 1978.5

|                 |   |
|-----------------|---|
| 亥鼻分館の設立         | 1 |
| 東洋医学古書コレクションの紹介 | 3 |
| 図書を選定収集         | 4 |
| 複写と著作権          | 5 |
| 新着資料案内          | 6 |
| 図書館の機械化計画       | 7 |

## 亥鼻分館の設立

田 辺 広

大学図書館は附属図書館と称せられるように当該大学全体の成員に奉仕するもので、その機能は大学の目的に添うものでなければならない。すなわち大学は大別して教育と研究の2つの機能をもつものであるから、図書館もまた大学の教育と研究に役立つものでなければならない。しかるに本学のみならず多くの大学図書館は建物こそ一応整えられたものの、学生の教育の面だけ考えられた学習図書館であるにすぎない。研究用の図書館資料は西千葉地区はもとより分館においても殆んどが研究室に備えられている。研究室に備える図書・雑誌を購入し整理し利用に供することも勿論図書館の研究者に対する奉仕であるがそれだけでよいのだろうか。また学習図書館にしても、学生に学習の場を与え、要求されたものだけに応ずる書庫の番人に甘んじていてよいのだろうか。図書館が脱皮をしなければならないのはこれらの問いかけに対して、対応できる体制を創らなければならないからである。

大学の教官・研究者にとって図書館があってもなくてもよいのであれば、大学図書館は

半分しか機能していないことになる。

「千葉大学生物・医学情報図書館(仮称)計画」が昭和50年度の重要な図書館将来構想として当時の石田館長から提案されたのは、正に本学に新しい研究図書館を創ろうという考え方の現れに他ならなかった。ここにおいて考えられた図書館は、従来の図書館の機能を高め将来の情報化社会における生物学、医学を中心とする千葉地区の学術情報のセンターとして研究図書館の役割を果そうとするものである。現在研究図書館として最も活発な動きをしているのは各大学の医学図書館であり、国の内外を問わず独自のネットワークを組み医学情報の交換、相互協力を行っている。学内組織としては殆んどが独立の図書館機能をもつ医学分館あるいは薬学、歯学等と合同して複合分館を形成している。

この構想を検討するために、第三小委員会の諒解のもとに、第1回生物・医学情報図書館企画委員会が昭和50年10月15日石田館長主催のもとに開かれた。この委員会は附属図書館、医学部、看護学部、生物活性研の教官・事務官からなるもので51年1月までに5回、

委員会が開かれ、「千葉大学生物・医学情報図書館(仮称)計画」が発表された。

この計画の推進は、三浦図書館長に引継がれ、附属図書館運営委員会、第3小委員会、評議会の議を経て、委員会設置要項が定められ、生物・医学情報図書館設立準備委員会が発足し、第1回は昭和51年7月19日相磯学長のあいさつをもって始まった。その委員構成は次のようなものである。附属図書館長、同事務部長、医学、園芸、活性研の各分館長、医学臨床、看護、薬学、理、工、教育、教養の各1名の教授および事務局長の13名である。準備委員会はその後4回開催された。この間その後も引続き亥鼻地区の整備は着々と進み、看護学部、活性研、新病院と相次いで新築工事が完成した。第4回(昭和52年1月28日)の委員会は、将来的には西千葉地区、松戸地区、更には地域の学術情報のセンターとなるべき生物・医学情報図書館を目指すことには変りはないが、現実の状況をふまえて亥鼻地区に医学、看護、活性研、病院の4部門に主として奉仕するための亥鼻複合分館をつくるのが先決であると考えたとの決定をし、亥鼻分館設立の概算要求をすることになった。

この設置案は52年4月、医学部長、病院長看護学部長、活性研所長名で附属図書館長宛に提出されたもので、その骨子となるものは増築(医学分館の書庫部分)、事務機構(事務長および3係制)、増員(9名)の3つであった。これを受けた附属図書館長は図書館運営委員会の議を経て附属図書館より概算要求の第1順位として提出した。

以上のうち53年度認められたものは事務機構であり、事務長制をとる亥鼻分館が可能となったが、これは全国で東北大学医学分館に次いで第2番目のものである。建物も旧医学分館そのまゝを使わざるを得ないが引継ぎ概算要求をすることになる。これらのうちで最も困難なものは人員である。図書館は学生増、学部、学科、研究所等の新增設が行なわれてもそれに見合う定員増はなく多くの非常勤職員をかかえ、それでも定員削減の対象になっている。今回の場合各方面のご努力により、

事務長1、総務係長1、臨職1が加えられ、総員14名で出発することとなった。

色々不満足な問題があったにしても、とにかく生物・医学情報図書館への踏台を一つ昇ったことになり、亥鼻地区の研究図書館としての第1歩をふみ出したことになる。図書館ばかりではないが、その容れものや人員の大小よりも如何に良く機能するかが問題でありそれは全く今後の運営の如何にかかっている。

学術情報は今や紙と印刷というメディアばかりでなく、様々な方法で氾濫し、化学関係のものは年間50万件もあると言われている。このように多量のものは普通の方法では処理できないので電算機による蓄積と伝達が考えられるようになった。従来書誌情報のみを対象としてきた図書館も情報検索と言われる内容情報をも考えなければならない時代であり電算機をはじめ、テレファクシミリ、マイクロフィッシュ等を極力利用して行かなければならない。それと共に図書館職員もその資質と地位の向上が必須であり、本省、大学当局教官各位の配慮が切望される。

本学、さらに広くわが国の学問水準のレベルアップが図書館の活動に期待されるようになること、それが図書館の願いであり、欧米諸国においてははっきりその方向性が打出されている。亥鼻分館はその萌芽であると考えているので各方面よりの御援助を期待してやまない。

(附属図書館前事務部長)





## 東洋医学古書コレクションの紹介

「東洋医学の図書は重要なものを殆ど網羅して七千余冊ある。之は大正末年から今日迄鋭意努力して収集したものであって、京都大学図書館の富士川本を除いて全国大学に比儔を見ない。」

これは昭和24年に文部省に提出された、千葉医科大学東洋医学研究所設置趣意書（伊東弥恵治教授草）のなかの「東洋医学古書コレクション」に関する一文である。

このコレクションの収集の過程についてはこれまで『伊東弥恵治先生』や『千葉大学医学部東洋医学研究会三十年史』などに断片的に記されてはいるが、全体について書かれたものがないので、その詳しい由来について改めて調査し記録に残したいと考え、この小文を綴った次第である。

このコレクションの第一歩は、本学の眼科学の教授伊東弥恵治博士（1891-1958）が医史学の研究に役立てる目的で、大正末年に古医書を収集し始めたことにはじまる。

昭和13年、それまでに収集された古医書の目録を千葉医科大学文芸部が医学史の研究のために作成し、部機関誌の『大学文化』第30号に「日本医学史に関する文献——本学所蔵和漢医書に就いて」と題して掲載されている。

伊東教授の収集はその後も続き、とくに昭和17、18年には当時の鈴木宜民講師（現名誉教授）と協力して、コレクションの半分に当たる大量の古医書を東京の古書店から購入している。戦時下に数千冊にも及ぶ大量の古医書を収集できたのは、当時外国図書の購入が不可能であったこと、また研究の方も思うように出来なかったことから、教室費および図書費の残りは殆ど東洋医学古書の購入に当てたため、古医書を専門に扱う書店では、手許に集まるとまず千葉医大の伊東教授の処に持って行くという有様であったという。またその収集ぶりも、綿密に系統を立て先ず基本的な本を主として、漸次稀覯本までも集めていったそうである。

コレクションの中に二群の大きな寄贈本がある。一つは、戦争末期に茂原の上永吉にある眼科医第6代目の千葉弥次馬氏（1891-1947）から、同家に代々伝わる約1000冊の古医書、（主として江戸時代の漢方医学書）を譲り受けたものである。氏は戦争に負けた暁には、貴重な古医書もどうなるかわからない、大学に置けば永久に残るであろうというところから寄贈を申し出たそうである。なかなか常人には出来ないことで、これが「千葉本」と呼ばれているものである。

もう一つは、昭和25年に佐倉の順天堂医院4代目院長の佐藤恒二博士から佐倉順天堂蔵書（400冊ほどの古医書）を譲り受けたものである。そのなかには18-19世紀初頭にかけてのオランダ語の医書が何冊もある。佐倉順天堂は1843年佐藤泰然が、佐倉本町に初めて順天堂の堂号を用いて学生塾を開き、診療と西洋流の医学教育をわが国で最初に行った由緒ある病院で、佐藤恒二博士は晩年に本学で医史学の講師をしておられた。

その他に、江戸末期の広島有名な医家、三宅春齡（牛痘種法の普及に貢献した人、1814-1859）の著書10点が、春齡の孫・三宅しづ氏から、当時本学の医史学講義を担当されていた東京大学名誉教授永井潜氏（広島県出身1876-1957）の紹介で昭和26年に寄贈されている。これも本コレクションのなかで重要なものとなっている。

以上が本コレクションの収集の経過についての概略である。コレクションの内容は、明治以前の和漢医書・本草書ならびに西洋医学書であり、それらのなかには、今後再び入手できない貴重なものが何冊もある。更に一般歴史に関するものも少なくない。現在、約5500冊が千葉大学附属図書館にあり、眼科関係の本と佐倉順天堂本の原書だけは、医学部眼科学研究室にある。

故伊東教授はじめ、収集に関係された方々の長年の努力を無にすることのないように、



また家宝とも言ふべき先祖伝来の古医書を寄贈された篤志家の御好意に報いるためにも、ぜひその目録を千葉大学附属図書館として編纂したいと考えている。

おわりに、この文をまとめるにあたり、鈴木宜民名誉教授にお話を伺ったこと、また原稿を訂正加筆していただいたことを付記する。

(前整理係長 高橋喜一郎)

## 図書の選定収集

### ——西千葉地区を主として——

利用者の希望する図書を、一大学図書館ですべて揃えることはまず考えられない。大局的には全国的・国際的規模で広範な図書館活動のネットワークを形成し、相互利用を通じてそれらの希望を充す努力が必要であろう。それはそれとして現実には図書館に備えつけられる図書雑誌は、いくつかの経路で選定収集される。ここでは、主として西千葉地区における状況を記す。

まず一例として、学生希望図書についてその流れを追ってみよう。現在、図書館に申し出られた学生希望図書は、主に教養部の一般教育図書選定委員会(教養部図書委員会小委員会)で月1回検討される。学生希望図書の大半を占める広義の一般教養書は、大体、同委員会の購入計画に組入れられ図書館に備えつけられている。希望図書の中に若干見られる専門的な内容をもつ図書については、関係部局(学部)図書委員会へ回され検討される。

いずれの場合も希望図書がすべて購入されるとは限らず、予算上の制約のほか、学内に同一または類書を所蔵する場合、図書の内容または価格など個人購入がふさわしいと考えられる場合などは原則的に採用されない。これら採否の結果は判明の都度館内に掲示され採り上げられた図書は、直ちに入手の手続きが進められ、整理の済み次第利用できるよう配架される。

学生希望図書のほか、図書館に備えつけられる図書の種類のいくつかについて以下簡単にふれる。

●一般教育図書： 教養部学生のため教養部によって計画され、一般教育図書選定委員会(前出)が毎月選定する一般教育向図書(雑誌を含む)。

●指定図書： 前項同様、教養部によって計画されるもので、毎年学年開始前に、教養部各教官が講義に関連した必読書として、教養部学生のために指定するもの。

●前項にやや類似するが、人文学部・教育学部の教官有志が、学生のためそれぞれの研究費によって購入し、講義に関連する図書として関係学生に利用させる例がある。

●学生専門図書： 各学部図書委員会の選定に基き、専門課程学生のため附属図書館が計画するもの。

●教育学部共通図書： 教育学部学生のため教育学部が計画し、教育学部図書委員会が選定するもの。現在は雑誌が主である。

●工学部学生用図書： 工学部学生のため工学部が計画し、工学部図書委員会が選定するもの。単行書のみでなく雑誌を含む。なお、校費以外に同様趣旨で工学部後援会から新刊和雑誌が寄贈される。

●共通基本図書： 附属図書館が計画し、共通基本図書選定委員会が全学的な観点から選定する学習・調査・研究の参考に資する共通基本的なもの。いわゆるレファレンス・ツールの類。

●なお、学内外の関係者から著書、出版物の寄贈が相当量にのぼる。本学教官の著書、各部局の出版物、学外では、大学、研究所、試験機関、官公庁、会社、各種団体の出版物などがある。

●さらに前記のほか、館内の実務的な図書選定委員会では図書館の蔵書構成の現状に基き新刊情報、見計り図書、備えつけ希望、などを把握し、各図書委員会への収書計画・調整計画の提案を行っている。

(受入係長 萩谷和義)

## 複 写 と 著 作 権

複写機の発達に伴ない鮮明な複写がボタン一つで簡単にとれるようになりました。学内いたる所に複写機があります。友達のノートを借りて複写するのはともかく他人の著作物を複写する際には気をつけねばならないことが沢山あります。図書館で文献の複写を依頼する際「文献複写申込書」に住所・氏名・文献名等を記入しなければなりません。この目的は会計法上の理由の他に著作権上の意味もあるのです。現在の著作権法は昭和46年1月1日から施行されています。この法律の第一条には「…作者の権利……を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ著作権者等の権利の保護を図る…」としています。図書館における文献複写もこの条文に基づいて新しく認められたものと考えられます。具体的には著作権法第31条（図書館等における複製）第1項で「……利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合」と規定されています。しかもこのような複写ができる所は、同施行令第1章に記載された施設で、複写を担当する職員は同施行規則にきめられた図書館員を置かねばならないことになっています。著作権法はこのように他人の著作物の権利を保護しながらその公正な利用をはかっているのです。文化庁では著作権法のこのような趣旨を周知させるため毎年図書館職員等を対象に「著作権に関する講習」を行なっています。本学図書館でもこの講習を受けた人が複写の受付等に当たっています。

さて最近窓口で聞いた皆さんからの質問・要望で最も多かった次の二つの具体例について考えてみましょう。

◎質問：この本を買いたいので出版社にも問い合わせましたが絶版になっているので全頁を複写したいのですができますか。

先に説明したように著作権法第31条で認められているのは公表された著作物の一部分の複写です。従って全頁の場合は著作権者（著

作者が著者ではなく権利継承者である場合もある）の許可が必要です。出版社の許可は必要ありません。その理由は著作物を出版する権利は著作権者だけが持つもので（著作権法第21～28条、59条）出版社は著作権者から許可を得て時間を限ってその権利の一部分を使わせてもらっているにすぎません。（同63条）従って出版契約にその期間が明記されていないれば出版権（出版社が著作物を出版する権利）はなく、又かりにあったとしても出版権は3年間で消滅する（同83条2項）からです。なお著者が故人の場合は死後50年で著作権はなくなります。

◎質問：図書館で複写を頼むと複写料金が高いのでこの雑誌を借り出して文具店の複写機で複写したいのですができますか。

著作権法第30条（私的使用のための複製）では個人的に複製することが認められていますが、使用する複写機は自己管理下のものに限るとされています。従って図書館所蔵の本、自分が持っている本とを問わず自分が所有している複写機で複写するのはさしつかえありませんが、町の複写業者等へ依頼することは著作権法上認められていません。同様の理由でこの質問とは関係がありませんが自分が持っている本等を図書館で複写してもらうこともできないことになります。ご質問の場合はその雑誌を所蔵している図書館に複写を依頼しなければなりません。又複写料金1枚40円は文部省による全国統一料金ですから、もし他の国立大学図書館等で安い料金で行なっている所があれば、これは会計法上認められていないことをしていることになります。

以上日頃よくある複写に関連した著作権の問題を考えてみました。他にもまだ問題となる点は沢山ありますが、お互に他人の著作物を利用する際はその使用法に留意し、著作権法の間を守ることが大切です。上記の説明については『著作権法ハンドブック』（文化庁）その他を参考にしました。

（前参考調査係長 中垣三郎）

## 新 着 資 料 案 内

昨年度受入の本館備付参考図書類は約1000冊です。これらは共通基本図書購入費（本誌No.10参照）によるものが大半ですが、ここに紹介するものは、それ以外に購入されたもの、および寄贈されたものの中からとりあげました。

### ●書 目●

**大政類典目録 下** 国立公文書館 1977

大政類典の目次部分を収録したもの。全3巻の索引も刊行される。

**英米法研究文献目録** 田中英夫、堀部政男編 東京大学出版会 1977

1867～1975年に我国で公刊された英米法に関する著書・論文の分類目録。

**本草関係図書目録** 国立国会図書館支部上野図書館所蔵 改訂増補 つかさ書房 1976

旧上野図書館昭和27年刊に若干の訂補を加えて復刻したもの。

**住民運動・市民運動資料目録 定期刊行物編** 住民図書館編 1977

わが国の住民運動によって生み出された520種の定期刊行物を収録。

**国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 1976年** 国文学研究資料館 1977

同館がマイクロ写真によって収集した約9000点の目録。

**明治新聞雑誌文庫所蔵新聞目録** 東京大学法学部明治新聞雑誌文庫編 東京大学出版会 1977

昭和52年4月現在、同文庫所蔵の新聞1856タイトルを収録。

**日本関係欧文図書目録** 国立国会図書館所蔵 国立国会図書館編 紀伊国屋書店 1977

昭和23～50年に同館が収集した日本関係欧文資料約7800点を収録。

**成田図書館蔵書分類目録 仏教部** 成田図書館編 1977

大正2～昭和50年に同館が収蔵した約2万部の仏教書目。

**尾崎久弥コレクション目録 第1集** 名古屋市蓬左文庫編 名古屋市教育委員会 1977

故尾崎氏旧蔵の江戸文学古書4400余点の目録。

**バリ・コミュニケーション蔵書（洋書）目録** 大仏次郎記念会編 1977

故大仏氏旧蔵のバリ・コミュニケーション関係文献目録。

**対外交渉史文献目録 近世編** 京都外国語大学附属図書館編 雄松堂書店 1977

1868～1975年に刊行された、国内外の近世日欧交渉史ならびにキリシタン・洋学関係の文献を収録。

**洋楽の本 明治期以降刊行書目** 小川昂編 民音音楽資料館 1977

明治から昭和50年末までに我国で刊行された西洋音楽に関する図書7620点を収録。

**全集・叢書細目総覧 古典編索引** 国立国会図書館編 紀伊国屋書店 1977

古典編（1973年刊）の内容細目（書名）を項目とした索引。

### ●辞典・名鑑●

**公害・労災・職業病年表** 飯島伸子編著 公害対策技術同友会 1977

『公害および労働災害年表』（1970年刊）の全訂版 1975年までを収録。

**国語学研究事典** 佐藤喜代治編 明治書院 1977

国語学各分野における研究事項編と重要な資料を解説した資料編から成る。

**コールド・チェーンハンドブック** 食品流通システム協会編 日刊工業新聞社 1977

コールド・チェーンについて体系的に解説した便覧。

**日本漢学年表** 斯文会編 大修館書店 1977

『日本儒学年表』（大正11年刊）の増補改訂。昭和45年までを収録。

**日本近代文学大事典 1～6** 日本近代文学館編 講談社 1977～78

人名、事項、新聞・雑誌、索引編から成る。

**日本国勢地図帳** 建設省国土地理院編 日本地図センター 1977

**世界科学大事典 1～19** 講談社 1977

McGraw-Hill encyclopedia of science and technology（第3版）および1971、72年版の日本語版。

**世界旗章大図鑑** ホイットニー・スミス著 平凡社 1977

1975年5月1日の時点でまとめられた原著の日本語版。

**全国学協会総覧 昭和51年版** 日本学術会議事務局編 大蔵省印刷局 1977

全国の学会・協会1175について昭和51年3月現在で調査したもの。

**全国博物館総覧** 日本博物館協会編 ぎょうせい 1978

一般公開されている1491の博物館園を紹介したもの。

**全国神社名鑑** 全国神社名鑑刊行会 1977

8万余社の名簿編と著名神社約6千社を紹介したもの。

**全国民俗博物館総覧** 観光資源保護財団編 柏書房 1977

約450の民俗資料収蔵施設を紹介したもの。

### ●資料集●

**大東急記念文庫善本叢刊 近世篇 8～12, 別巻** 大東急記念文庫 1977

大東急文庫の近世文学コレクションの中から選択された善本影印版。全13巻完結。

**日本農民運動史料集成 3** 青木恵一郎編・解題 三一書房 1977

大正10～昭和24年における史料で、全3巻完結。

**日本庶民文化史料集成 13** 芸能史研究会編 三一書房 1977

芸能史料集で全16巻。第3巻、別巻は未刊。

**日本都市生活史料集成 1,2,9** 学習研究社 1977

近世都市関係の史料集で全10巻完結。

**大正農民騒擾史料・年表** 全3巻 青木虹二編 巖南堂書店 1977

**禪籍抄物集** 松ヶ岡文庫所蔵 第2期 岩波書店1977  
『虚堂録抄』『五家正宗賛抄』の2点。

**図録日本医事文化史料集成 2** 日本医史学会編 三一書房 1977

第2巻は解剖・外科編で当館所蔵の2点が掲載されている。全5巻で他の巻は未刊。

**明治前期産業発達史資料** 補巻1～110 明治文献資料刊行会 1972～73

#### ●復刻版雑誌●

京都帝国大学文学部考古学研究報告1(大6)～16(昭18)

(臨川書店)。(04書庫)

大正5年日本の大学として初めて考古学講座が、濱田耗作教授の下に開設され、そこで刊行された貴重な研究報告。

**経済評論** 1(昭9)～38(昭12)全12巻

叢文閣(白石書店)(33書庫)

戦前の治安維持法下の暗黒時代に発行された唯一のマルクス主義経済理論誌。

**国史学** 1(昭4)～60(昭28)全6巻

国史学会(第一書房)(20書庫)

**新興文学** 1(大11)～2(7)(大12)

新興文学社(日本近代文学館)(90書庫)

伊藤恣主宰、山田清三郎編集発行のプロレタリア文学専門の商業雑誌。震災前におけるプロレタリア文学の勃興に大きな役割を果たす。

**雑記帳** 1(昭11)～2(11)(昭12)

綜合工房(「雑記帳」復刻刊行委員会)(90書庫)

松本竣介編集発行のデッサンとエッセイの月刊誌。

知人の画家たちにデッサンや原稿を依頼するとともに自らの詩、随筆などを掲載。

## 図書館の機械化計画

昭和53年度の国立大学図書館事務機械化特別予算配当の内示をうけて、附属図書館では54年稼動を目指して準備をすすめている。当初は西千葉地区(本館)の機械化になるが、近い将来、亥鼻分館とも結んで情報検索オンライン化などの構想をもっている。

機械化対象業務の主なものは次の通りである。

### 1. 閲覧関係

貸出・返却・予約・問合せ・延滞の督促など、利用者カードと図書コードをスキャン(走査)することによって貸出返却処理を即時に行う。現在の貸出票の記入、カードファイルの検索という時間のかかる作業はなくなり、カウンター前に行列ができるという事態は解消されよう。

これから逐次お知らせするので、掲示・館報等注意してみてほしい。

### 2. 雑誌の所在検索

文献情報の所在検索は研究を推進する上で大切なステップの一つであろう。

千葉大学の雑誌の所蔵状況——ある雑誌はいつからあるか、この雑誌の最新号はどこにいつ入っているかなどとの問合せについて、ディスプレイ上に検索結果を表示するシステムを導入する予定である。西千葉地区所蔵のものから順次全学の所蔵雑誌に及ぶ計画である。

### 3. 図書予算管理

教室・講座で購入される図書雑誌に関する予算の現況はどうであるか、例えばどのくらい図書費を使い年度予算がどれくらい残っているかの問合せに即時に応じられる。教室などでの購入計画の一助になろう。(学術情報係)



## 教 官 寄 贈 著 書

昭和53年1～3月に寄贈された著書

井浦芳信（人文）

芸能と文学 井浦芳信博士華甲記念論文集 井浦芳  
信博士華甲記念論文集刊行会編 笠間書院 1977

村山元英（人文）

地域主義の源流 “成田” 住民の研究 村山元英著  
千葉学術出版会 1978

宇佐美寛（教育）

教授方法論批判 宇佐美寛著 明治図書 1978

浅井 晃（理学）

入門数理統計学 P.G. ホーエル著 浅井晃, 村上  
正康共訳 培風館 1978

渡辺昭次（工学）

三省堂化学小事典 第2版 三省堂編修所編 三省  
堂 1976

養護教諭養成所

千葉大学養護教諭養成所のあゆみ 千葉大学養護教  
諭養成所 1978

### 端末装置による化学情報の検索

TOOL-IRの名称で知られる、東京大学大型計算機センターのデータベースを端末装置を用いて検索できるようになった。これは、図書館備付の音響カプラ内蔵のポータブルプリンタを利用して、センターのデータベースを呼び出し、指定のキーワード等で文献を検索するものである。利用の詳細については、学術情報係（内線2219, 2214）まで問合せられたい。（学術情報係）

### BLLDクーポン券の購入について

昨年9月から一部の学部で購入していただいたBLLDクーポン券は昭和53年度から本館で一括して購入し経費の移し替えをすることになりました。申込手続は公費払による文献複写申込法と同様です。（参考調査係）

### 工学部の図書室について

昭和46年度以降開設されていた工業短期大学の図書室は、短大の廃止に伴い昭和53年4月1日付で現状のまま附属図書館に移管された。

この図書室は主としてBコースの学生を対象に従来どおり閲覧と貸出の業務を続け、9時から20時30分まで開室している。

現在附属図書館職員を2名配置し、閲覧業務を行っている。今後はこれに加えて、工学

部の購入雑誌の受付及び照会などをこの図書室で処理できるような準備を進め、更に学術情報を中心とした教官へのサービス向上をめざしている。

### 人 事 異 動

#### ●附属図書館長の異動

3月31日 三浦義彰館長退任

4月1日 竹田厚太郎（教養部教授）就任

#### ●亥鼻分館長の新設

4月1日 萩原弥四郎（医学部教授）就任

#### ●係長以上の異動

## 非 公 開

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.13 1978. 12

|                    |   |
|--------------------|---|
| 雑感片々               | 1 |
| TOOL-IRサービスの実施について | 2 |
| JOISオンライン情報検索      | 3 |
| BLLD文献複写サービスについて   | 4 |
| 共通基本図書購入書目         | 5 |
| 教官寄贈著書             | 7 |

## 雑 感 片 々

竹 田 厚 太 郎

わたくしが千葉大学に来たのは昭和24年である。そのときは学芸学部という名であった。教育学部も独立してはいなかった。授業は附属中学校を借りてやったようにおぼえている。翌年小仲台町に引越した。このとき文理学部ができたはずであろう。この辺のことは30年史にゆづった方がよい。

稲毛に引越して、また軍隊に召集されたような錯覚をおぼえた。建物のせいである。旧軍隊の兵舎はあれで仲々丈夫なものであったが、それは大部分、復員者関係の留守業務部のもので、大学で使用できたのは本部だけであった。あとの教室も研究室も文字通りのバラックで厩のあとに建てたという話であった。厩といえどもイエス・キリストの誕生にゆかりがあるからばかにはできないが、大たい便利な場所にはない。東北の農家では一つ屋根の下に厩も同居しているところがあるけれど軍隊ではそうはゆかない。講義にも食事にもさてはWCにも雨がふれば傘をさしてゆく。教室では雨もりで使えない場所がいくつもある。…いや今は昔の貧乏ばなしをしている場合ではないが、そのキャンパスで異様な建物が目立っていた。図書館の書庫である。もと

高射砲学校のあとだというキャンパスにただ一つのこったコンクリートの建物は、たしかに倉庫むきではあったが、その屋上のクレーンに似た鉄骨の構造物は今もって何のために使われたのか見当がつかない。ただの倉庫ではなかったのであろうが、書庫となれば本来の目的はひとつしかない。いまの図書館にこの時代、この建物に勤務された方がいるならば当時の話を伺いたいと思っている。

閲覧室も同様のバラックで利用する気になれなかったが、研究用図書はすべて図書館のお世話になっていたのだから、かわかりがなはいとはいえない。稲毛にいる間この状態はそのままつづいたと思う。38年に西千葉移転、ここで一棟独立の図書館が出来たわけであるが、それならばそれなりに整備の苦勞は一とおりではなかったと察しられる。

わたくしは「館長就任の弁」を書くように求められているのだが、歴代の館長の苦心をおもうとそれどころではないのである。その苦心というのも自分が館長になってからはじめて考えるようなわけであって、それまでの私は冷たい傍観者にすぎなかった。良心に問えばまことに恥かしい次第である。もとより

大学人として図書館に関心をもたないものはないがそれには限度があって会社の一株株主のようなものである。経営者の苦勞とは縁がないのだ。その「一株」が経営者になったのと、心境がいくらか似ているといったらわかっていただけるかも知れない。

はなはだ情ない告白になったが、図書館内部の人間になって何よりも心づよく感じたのは、職員の書物に対する情熱である。誰しも自分の蔵書は愛惜する。しかし書籍一般に対する愛情はなかなか身につかないものであり更にそれを具体的に示すこともむずかしいがここでは自然にそれが実現されていることに感じいったのである。

「何をなすべきか」をいまは語るまい。ただ書籍は人間のためにあるのだからつねに人間を媒介にしてものを考えたい。いまの教官、学生と図書館との結びつきはどのようなものか、もっとはっきり知りたい。戦前のはなしで、ある大学図書館の調査では学生の5パーセントが閲覧票をもっていないという結果が出たそうである。すれば在学中一度も図書館を利用しないで終るものもいることになるが閲覧票を持っても足を入れないものもあるだろう。故牧野英一博士は在学中図書館に

入らなかった日は一日もないということであったが、こうなるともはや人の問題であろう。故久松潜一博士は毎日酒落本を一冊づつ読み上げられたそうである。これらはすでに伝説となりおわった。あたらしい人間と図書の結びつきをつくりたいものである。

魯迅が老子を扱った小品に「出関」というのがある。老子が隠退しようとして函谷関を過ぎたとき関守が老子に「館長」と呼びかけている。考えてみると老子は「周の守蔵吏たり」と史記にあるのによったものであろう。守蔵吏はたしかにいまの図書館長である。「学を絶てば憂無し」などといった老子が図書館にいたこともおもしろいが、あるいは彼はこの役目を通じて書物のむなしさを知ったのかもしれない。

突然歴史をさかのぼったが「館長」には老子もかぞえられるとすれば、私ごときは物のかずではない。ただ老子の上に引いた句のすぐあとに来る句を大事にしようとおもう。

「人のおそるる所はおそれざるべからず」  
(そうはいっても、世の人々がおそれるところはやはりおそれなくてはならない。世間のことは荒漠として終りを知ることができないからである。)  
(附属図書館長)

## TOOL-IRサービスの実施について

「図書館の本」No.12でお知らせしていた東京大学大型計算機センター(以下東大センターという)によるTOOL-IRシステムを利用するためのTSS端末使用の実施態勢が整い12月1日より試行することになった。

### TOOL-IRとは

TOOL-IR(Tokyo University On-Line Information Retrieval)システムは東大センターで開発され、全国の研究者に公開されているオンライン情報検索システムである。現在利用できるデータベースはCAC(Chemical Abstracts Condensates), XDC(X線結晶解析データ), INSPEC(計算機、自動

制御関係の文献情報)等であるが、今後追加されるようである。

当図書館ではポータブルプリンターを設置して本学研究者の方達に東大センターのデータベースから電話回線を使用して、TSS方式(Time Sharing System)によるオンライン文献検索を行なっていただくというものである。

### 利用方法

このシステムを利用するには東大センター利用の手続が必要である。各利用者が支払責任者登録申請書、計算機利用申請書及びTOOL-IR利用申込書を東大センターの総合受付か共同利用掛へ提出し、東大センターの



承認を受ける必要がある。申請が承認された利用者は東大センターに登録され、課題番号とパスワードが与えられる。パスワードは特に重要なもので他人に知られない配慮をしてほしいということである。利用資格のある者は国公立大学の教員及びこれに準ずる者等なので、院生を含む教官の方達には利用できることになっている。各種申請用紙は図書館学術情報係に用意してあるので利用して下さい。

### 利用料金

コンピュータ使用時間及び使用料金は使用の度毎に端末装置に打出され、この料金は課題番号毎に加算され大学の経理責任者を通じて請求され支払うことになっている。計算方法は7円×演算時間(秒) + 3円×経過時間(分)である。この他に電話使用料金も必要であるが、昭和54年1月末までは試行期間として図書館で負担することになっている。

### 検索方法

まず受話機をとり東大センターを呼出し、つながると受話機を音響カブラーに押込み、端末番号と自分の課題番号、パスワードをタイプする。その後検索したいデータベース名をタイプ(主コマンド)する。この後検索したい著者名、キーワードをタイプ(サブコマンド)する。使用するキーワードは自然語で

長い時は頭8文字とし、同時に語尾8文字も逆順にとってある。キーワードは一つだけでなく、複数のキーワードを組合せて、論理和論理積など論理結合関係を用いた検索もできる。また複数の文献集合を用いた二次検索等様々な検索方法があるので詳しくは「T O O L - I R 利用者マニュアル」(上・下)などの資料を参考にして下さい。そして満足できる結果がでたら、検索結果を端末上に表示させる。これでE N Dにすると使用時間と使用料金が打出される。操作方法は簡単で慣れてくると短時間で検索結果が得られるようになるので、大いに利用して下さい。

利用時間 平日 9:30~16:30

土曜 9:30~12:00

(参考文献)

1. 東京大学大型計算機センター利用の手引き、改訂版 1978年5月
2. 津田稷, 笈川節子, 公衆電話回線による化学情報の検索 ファルマシア Vol.13 No.5 (1977)
3. 中野英彦, 電子計算機による文献検索 生化学 第50巻第2号 (1978)
4. 山本毅雄, 根岸正光, 藤原鎮男, T O O L - I R ドクメンテーション研究 Vol.28, No.10 (1978)

(学術情報係)

## JOIS オンライン情報検索

亥鼻分館では9月4日よりオンライン情報検索サービスを開始しました。日本科学技術情報センター(JICST)が開発したオンラインシステム(JICST On-Line Information System)をJOIS といいます。亥鼻分館に備付けの端末機とJICSTの電子計算機を公衆回線で結び情報を探します。データファイルはJICST理工学文献ファイル, CAC化学文献ファイル, MEDLARS 医学文献ファイル, それにクリアリング情報ファイルの四つがあります。JICST理工学文献ファイルは、「科学技術文献速報」に対応するものでカタカナ

で出てきます。CACはChemical Abstractsに、MEDLARSはIndex Medicus にそれぞれ対応するファイルです。最後のクリアリングファイルは、国内の公共試験研究機関における現在進行中の研究課題情報のファイルでOn going のもののみ整理されていますが、History ファイルを指定すると古い研究課題も合わせて検索することができます。ただし各ファイルの使用できる曜日が決められていますので注意が必要です。これらのファイルから、キーワードや分類、著者名などを検索語(検索タグ)として必要な文献をさがしま



す。ブラウン管の画面とプリンターに打ち出される回答件数を見ながら質問を自由に変えて検索ができる会話型システムであることが一つの特徴です。検索の結果プリントアウトできるのは文献の書誌データだけで抄録は打ち出されません。

今まで研究者は必要とする文献を手作業によって探していました。機械検索は、マニュアルで年刊版を一冊一冊くっていく手間を省き、それに要する時間と労力を研究にふり向けさせました。特に遡及的な検索を行なう場合に偉力を発揮します。同時に関連する別の二次資料（データファイル）を二重に検索することで検索もれの文献を少なくすることも可能になりました。

亥鼻分館では下記の表のように受け付けをしています。初めての試みのため現在のところは校費移替（公用のみ）とし、利用対象者は原則として亥鼻地区教職員ということになって

います。利用者からは私費でもできるようにしてほしいという意見も多く出されています。それについては図書館の将来の方向に照らし合わせ前向きに考えていきたいと思っています。なおJOISについては、「JOIS利用の手引き」「JOISコマンド解説集」「公衆回線サービスのご案内」等のパンフレットがあります。いずれもJICSTの発行で亥鼻分館においてあります。この文も多くはそれによりました。（亥鼻分館）

|         | 月     | 火     | 水   | 木     | 金     |
|---------|-------|-------|-----|-------|-------|
| AM10-12 | JICST | JICST | CAC | JICST | JICST |
| PM 1-4  | MED   | CAC   | MED | MED   | CAC   |
|         | CLEAR | CLEAR | —   | CLEAR | CLEAR |

（注） JICSTは、JICST理工学文献ファイル  
CACは、CAC化学文献ファイル  
MEDは、MEDLARS医学文献ファイル  
CLEARは、クリアリングファイルを示します。  
（JICST資料より）

## BLLD文献複写サービスについて

BLLD(British Library Lending Division)についてはこの館報にもたびたび掲載しましたが、このたびBLLD 文献複写サービスの実施要領ができ、西千葉地区の各部局宛に配布しましたのでその概略をお知らせします。

### クーポンの購入方法

従来、各部局で購入されていましたが、これからは各部局の依頼に基づいて図書館で一括して購入し、管理します。

### 申込方法

申込者は「BLLD文献複写申込書」用紙により、当該部局等会計係の承認を経て、参考調査係へ申し込みます。

複写物が到着しましたら、参考調査係は申込者へ連絡しますから、申込者は「BLLD文献複写交付台帳」に記帳し、複写物を直接受け取って下さい。

### 複写料金

クーポン1枚当りの価格（10頁につきクーポン1枚使用）とBLLDへの複写申込郵送料（実費）との合算額となります。

複写物の郵送料はクーポンの代金に含まれています。

BLLD文献複写にかかる経費は年に2回経費の移替をします。

以上が概略ですが、このサービスは現在のところ公費を使用する場合のみです。

BLLDは全世界の資料を利用者の要求に応じて提供し、現在ではその要求を大体満たすことができるようになっているようです。

日本で手に入りにくい資料も所蔵しておりまた複写サービスを専門に扱っているので処理期間も短かく、最近では大分利用されているようです。ちなみに本学での今年度の利用状況は西千葉地区のみで9月末現在で43件です。（参考調査係）

## 共通基本図書購入書目

全学部で拠出している全学共通の共通基本図書購入費により、昭和52年度におきまして下記の図書を購入しました。

これらの図書は本館、亥鼻分館または園芸学部分館に備えつけてありますので、御利用下さい。  
(亥、園の表示以外は本館備付け)

なお今回は新設の看護学部の資料を充実させるために、図書購入の配慮をいたしました。

### 継続刊行物

#### 和 書

##### 1 書 誌

1. 出版ニュース
2. 出版年鑑 (本・亥・園)
3. 日本総合図書目録
4. 日本古書通信
5. 月刊文献ジャーナル
6. 日本雑誌総覧
7. 現行医学雑誌所在目録 (亥)

##### 2 記事索引

1. 雑誌記事索引 人文・社会
2.       "       科学技術 (本・亥)

##### 3 地 図

1. 新日本分県地図
2. 東京都地図地名総覧
3. 千葉市住宅地図

##### 4 名鑑・要覧

1. 職員録
2. 人事興信録
3. 著作権台帳 (本・亥・園)
4. 全国大学職員録
5. 千葉県学事関係職員録
6. グイヤモンド会社職員録
7. 外国会社要覧
8. 全国試験研究機関名鑑 (本・亥・園)
9. 医学研究者名簿 (亥)

##### 5 年鑑・白書・統計書 約100種

##### 6 法令集

1. 六法全書 (岩波・有斐閣・三省堂)
2. 法令全書
3. 現行日本法規
4. 判例体系速報
5. 教育関係法令集
6. 千葉県法規集

### 7 資料集

1. 大日本史料
2. 大日本古文書
3. 新聞記事資料集成
4. 朝日新聞 縮刷版
5. 日本経済新聞 縮刷版
6. 日本読書新聞 縮刷版
7. 日本古典文学館
8. 天理図書館善本叢書 和書之部

### 8 図書館

1. 図書館雑誌
2. 現代の図書館
3. 図書館界
4. 情報管理
5. ドキュメンテーション研究
6. 参考書誌研究
7. レファレンス
8. 図書館の仕事シリーズ
9. Library and information science.
10. 大学図書館研究
11. 書誌索引展望

継続刊行物

洋書

1 BIBLIOGRAPHY

1. National union catalog.
2. Cumulative book index. (本・亥)
3. New serial titles.
4. Ulrich's international periodicals directory.
5. EBSCO bulletin of serials changes.
6. Books in print.
7. British books in print.
8. American book publishing record.
9. British national bibliography.
10. Verzeichnis lieferbarer Bücher.
11. Répertoire des livres de langue française disponibles.
12. Deutsche Bucherverzeichnis.
13. Les livres de l'année-biblio.
14. Medical books in print. (亥)
15. NLM current catalog. (亥)
16. Vital notes on medical periodicals. (亥)

2 INDEX AND ABSTRACT

1. Bibliographic index.
2. Index translationum.
3. Readers's guide to periodical literature.
4. Internationale bibliographische Zeitschriftenliteratur.
5. Biography index.
6. Social sciences index.
7. Humanities index.
8. International political science Abstracts.
9. Applied science and technology index.
10. Facts about nursing.
11. International nursing index. (亥)
12. Dissertation abstracts international. (亥)
13. Information science abstracts.
14. International abstracts of biological science. (亥)
15. Horticultural abstracts. (園)
16. Pollution abstracts. (園)

3 ENCYCLOPEDIA

1. Encyclopedia of library and information science.
2. Meyers neues Lexikon.
3. Lessico universale italiano.
4. Bol'shaia sovetskaia entsiklopediia.
5. Great Soviet encyclopedia.

4 BIOGRAPHY

1. International who's who.
2. Who's who.
3. Who's who in America.
4. Who's who in Germany.
5. Who's who in France.
6. Contemporary authors.
7. Neues deutsche Biographie.

5 DIRECTORY

1. World of learning. (本・亥・園)
2. European research index.
3. American medical directory. (亥)

6 GOVERNMENT PUBLICATION

1. Monthly catalog of U.S. Government publications.
2. Canadian government publications. monthly catalog.
3. United Nations documents index.

7 ALMANAC

1. Europa year book.
2. Statesman's year book.
3. Whitaker's almanac.
4. Yearbook of world affaires.

8 LANGUAGE DICTIONARY

1. Oxford Latin dictionary.
2. Middle English dictionary.
3. Trésor de la langue française.
4. Grande dizionario della lingua italiana.

9 MISCELLANEOUS

1. Landolt-Börnstein Zahlenwerte...
2. Handbuch der physik.
3. Loeb classical library.

10 LIBRARY SCIENCE

1. Library literature.
2. Library journal.
3. UNESCO bulletin for libraries.
4. American libraries.
5. College and research libraries.
6. Journal of library automation.
7. Library resources and technical services.
8. Harvard library bulletin.
9. Yale University bulletin.

## 単行書 (昭和52年度)

## 和 書

1. ゲッチンゲン医学古典文庫目録 全2巻(亥)
2. 日本国勢地図帳(亥・園)
3. 科学技術情報センター逐次刊行物所蔵目録(亥)
4. 岩波 理化学辞典 第3版(亥)
5. 岩波 生物学辞典 第2版(亥)
6. 看護国際総覧
7. 臨床看護マニュアル(亥)
8. 看護白書(亥)
9. 助産婦業務要覧 法令解説編(亥)
10. 看護六法(亥)
11. 看護・医学事典(亥)
12. 最新看護用語辞典(亥)
13. 臨床看護便覧シリーズ 全11冊(亥)
14. 1975年 農業センサス(園)
15. 実測図 日本の名園 続(園)
16. 万有百科大事典(園)

## 洋 書

1. Russisches Etymologisches Wörterbuch. Bd. 1-3.
2. Rückläufiges Wörterbuch der Deutschen Gegenwartssprache. 3.
3. McGraw-Hill Encyclopedia of Science and Technology. 4th Ed. (亥) Vol. 1-15.
4. Merk Index. 9th Ed. (亥)
5. Biographical History of Medicine. (亥)
6. NLM Current Catalog. 1071-1975. (亥)
7. Writer's Guide to Medical Journals. (亥)
8. Nursing Studies Index. I-IV. (亥)
9. Nutrition and Diet Therapy, Reference Dictionary. (亥)
10. Taber's Cyclopedic Medical Dictionary. 12th. Ed. (亥)
11. A Bibliography of Nursing Literature (1859-1960), (亥) with Historical Introduction.

## 教 官 寄 贈 著 書

昭和53年4月～9月に寄贈された著書

## 清水川繁雄 (人文)

現代資本主義の基本問題 清水川繁雄編 世界書院 昭53

## 下村由一 (人文)

ファシズムとコミンテルン 下村由一ほか著 東大出版会 昭53

## 田中英明 (人文)

生産管理(入門経営学叢書6) 田中英明編 法政書院 昭53

## 宇佐美寛 (教育)

授業にとって「理論」とは何か 宇佐美寛著 明治図書 昭53

## 四宮 晟 (教育)

学習指導案の書き方 千葉大学教育学部附属小学校著 新光閣書店 昭53

## 榎本勝之 (教育)

農学における生物化学 広保正, 田村五郎編 文化書房博文社 昭53

## 飯田稔 (教育・附属小)

伸びる芽・育つ子 飯田稔著 明治図書 昭53

## 井上勝也 (理学)

生活の中の洗剤・活性剤 井上勝也編 研成社 昭53

## 久保走一 (工学)

スライド作成技術 久保走一, 荒井宏子共著 写真工業出版 昭53

## 須賀恭一 (工学)

一般教育化学実験 大学自然科学教育研究会編著 東京教学社 昭52

## 渡辺昭次 (工学)

一般教育有機化学 大学自然科学教育研究会編著 東京教学社 昭52

## 美多勉 (工学)

システム制御理論演習 古田勝久, 美多勉共著 昭晃堂 昭53

## 小原二郎 (工学)

法隆寺を支えた木 西岡常一, 小原二郎著 日本放送出版協会 昭53

## 広保正, 田村五郎 (園芸)

農学における生物化学 広保正, 田村五郎編 文化書房博文社 昭53

## 三澤彰 (園芸)

図説生活環境と緑の機能 G・O・ロビネッティ著 三澤彰, 山本正之訳, 産業技術センター 昭53

## 石川格 (園芸)

庭園学概論 石川格著 誠文堂新光社 昭53

## 島田良二 (教養)

世界文学に現われた女性像 島田良二編 笠間書院 昭53

## 中島平三 (教養)

現代の英文法 5 今井邦彦, 中島平三著 研究社 昭53



## 昭和53年度及び54年度における外国 図書の新書計画について

去る9月9日付で、文部省主管課より、事務上の参考としたいとして、1セット当りの購入価格が500万円以上の資料の新書計画の有無について照会があり、急拠、教官各位に購入希望の資料名のご提出をお願いしたことは記憶に新しいことと思います。

従来、このような高額な資料購入費は認められておらず、新聞紙上ではドル減らしの緊急輸入の一環として補正予算案に盛り込まれたとして報じているものです。

照会しました結果、本学では昭和53年度 Judaic-Collection ほかに13点、1億2,382万円 昭和54年度 British Parliamentary Papers ほかに4点、5,776万円の多額にのばりました。本館はこれを取りまとめの上、急ぎ主管課あて提出しました。

これに対し、最近文部省から、Sammlung der Verhandlungen der Deutschen Tage (ドイツ議会議事録および議会資料) 1セット (人文学部提出)の購入費として490万円の示達がありました。この内容、整理方法等については次号でお知らせします。

## 開館時間の延長について

最近、教職員、学生の利用が急激に増加しまた開館時間延長の要望もあり、9月から学生の休業日等を除き暫定的に、下記により実施しておりますので、ご利用ください。

(附属図書館本館)

平日 9:00~20:00

土曜 9:00~16:30

(同工学部分室)

平日 9:00~20:30

土曜 9:00~12:30, 17:00~20:30

(亥鼻分館)

平日 9:00~20:00

土曜 9:00~16:30

## 行事日誌

6月18日 千葉県大学図書館連絡会

於：千葉工業大学

6月14日~16日 第25回国立大学図書館協議

会総会 於：筑波大学

7月5日 図書館運営委員会

8月4日 共通基本図書選定委員会

9月6日 館長・分館長会議

## 人事異動

非公開

## あとがき

今日のように情報量が増大してくると、いや応なしに図書館の利用態様が変わって来ざるを得なくなる。図書館は読書場であるというよりは、むしろ調査の場へと変わりつつあるようだ。最近の傾向として入館者の出入のばげしいこと、そして入館者の激増、コピー申込者がふえていること等々、これらの現象がこのことを如実に裏付ける。

今回は期せずして文献情報サービスの紹介で埋まってしまった感がある。以前紹介した記事に多少重複するきらいもないではないが十分ご理解ねがうために、あえて詳報することに努めた次第である。

今号より編集委員が交代した。不慣れなせいもあって大分刊行が遅れたことをお詫びする。

編集委員 久保田誠二、森岡多恵子  
長島重俊、市東勇次郎

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.14 1979.7

|                                                      |   |
|------------------------------------------------------|---|
| この1年間を振り返って                                          | 1 |
| Sammlung der Verhandlungen<br>der deutschen Tageについて | 2 |
| 図書館業務の機械化スタート                                        | 4 |
| 文献複写業務の新方式について                                       | 5 |
| 年鑑・白書・統計書紹介                                          | 6 |

## この1年間を振り返って

杉山 裕

千葉大学附属図書館にとって、この1年間は大へん忙しい年であった。情報化時代に対処するための多数の新規事業が同時に実施段階に入り、関係各位の非常な御盡力、御協力により、それぞれの事業について、今後の発展のための土台が築かれた年であったとも言えるであろう。

以下これら新規事業の進行状況を概観して大方の御理解と今後のひき続いての御協力を願う次第である。

### 1. 本館におけるコンピューターの導入

昭和53年度予算で承認されたコンピュータは、昨年12月15日据付けを終り、本年4月から、まず第1段階として、図書の貸出・返却関係業務が電算化された。これによって、利用者（本学の教職員、学生等）は、従来より遙かに手軽に図書の貸出を受けることができるようになった。この間、機種選定委員会の御盡力、館内の機械化ワーキング・グループの苦斗、大量の職員研修、約6万冊に及ぶ開架図書へのラベル貼り、学内各部局の御協力による利用者カードの作成配布作業等、いずれも思出の深いものがあるが、その詳細は別に譲る。

今年度の計画としては、学術雑誌業務の電算化と、受入れ業務の電算化がある。これらは、当該業務全般の効率化を目的とすることは言うまでもないことであるが、特に利用者の立場でのメリットをあげてみると、

- 各教室ごとの図書購入予算の残額の照会
- ある学術雑誌の納入状況（現在第何号まで納入されたか）、所在（図書館、研究室）、その他書誌の事項（出版社、創刊年等）の照会
- ある学問分野において本学の所蔵する学術雑誌のリストの照会

等に対して、図書館は瞬時にお答えできるようになる筈である。

さらに、将来計画としては、各分館に端末機を置いて全学的システムを完成すること、整理業務及び参考調査業務の電算化、等があり、また、大学図書館間の相互協力及び全国的システムへの参加等も近い将来具体化される情勢であるから、今年度はその検討を開始する必要がある。

### 2. 亥鼻分館の新設整備

昨年4月新設された亥鼻分館は、亥鼻地区4部局（医学部、看護学部、活性研、附属病院）との緊密な連絡のもとに、附属図書館の

一環として、整備されてきた。

全国的に見ても医学分野の図書館は、研究図書館として優れた機能をもつ図書館が多く、耳鼻分館も、医学部分館時代からあった共通図書制度、コンテンツシート・サービス等を拡充するとともに、昨年から日本科学技術情報センターによるJOIS計画に参加し、Medline等の学術情報検索サービスを開始している。

予算の確保は深刻な問題であったが、今年度から、活性研及び附属病院からの予算の拠出が、学内の年度当初の予算配分に公式に組み込まれることとなり、今後の発展の基盤は一応確立されたと言えよう。(ただし、本館、分館を通じての維持運営費の絶対額の不足の問題はなお残っている。)

その他今後の問題としては、生物医学情報図書館構想のより具体的な検討、来年度の書庫の拡充、将来の新築計画等がある。

### 3. 本館の増築

数年来の懸案であった本館の増築は、昭和54年度予算で承認され、今年秋着工、明年秋完成の予定となった。増築といっても、増築部分の面積は5,160㎡(現在の本館は4,427㎡)で、本館が一挙に2倍以上になる大きな増築であるので、その具体案の作成については、昨年末以来、図書館運営委員会建築小委員会の開催、専門家の意見聴取等により、施設部とともに慎重に検討を進めている。

基本構想としては、従来の本館が学生のための学習図書館の色彩が強かったのに対し、研究者のための研究図書館的機能を大巾に拡充すること(学術雑誌室、情報検索室、教官

閲覧室の整備等)を重視し、その他、視聴覚室、談話室、身障者対策等の新しい考え方もとり入れるよう努力している。定員増が非常に難しい現在、できるだけ小人数で管理できるよう工夫することも基本的に重要である。

この増築が完成すれば、現在各研究室に溢れている稀用図書を図書館に吸収することはもちろんのこと、学内で納得のいく形での図書館資料の集中管理の可能性も高まるものと思われる。

以上の3点は、予算規模も大きく、いずれも一応の完成を見るのに2～3年はかかるという意味で、私は当面の3大事業と称しているのであるが、これ以外にも、昨年は、開館時間の延長(平日午後8時まで、土曜日午後4時30分まで)も実施されることとなり、またいわゆる学術情報検索サービスの第1段階として、TOOL-IRサービス、JOISサービスも開始された。さらに、外国為替相場の大きな変動に対し、関東ブロックの当番校として、外国図書・雑誌の価格改訂にも苦勞するなど、詳細は省略せざるを得ないが、まことに激動と建設の年であった。このうち特に学術情報検索サービスについては最近文部省の学術審議会の中間報告も発表され、今後数年のうちに、図書館を含む日本の学術情報体制の飛躍的發展をもたらす筈である。

今後1～2年は、なお激動が続くであろうが、この1年間に築いた土台の上に立って、よりきめ細かな論議をつくり、学内のニーズに密着しつつ、新時代にふさわしい図書館システムを作っていくべき時と思われる。

(附属図書館事務部長)

## Sammlung der Verhandlungen der deutschen Tage について

手塚和彰

昨年秋の補正予算で予算化された昭和53年度外国図書収書計画として、本学から下記の資料他13点が提出されたが、Sammlung der Verhandlungen der deutschen Tage (ドイツ議会議事録および議会資料)1セットの購入が認められた。そこで、この資料の

内容の概略と資料の意義についての紹介ならびに資料の整理の方法、利用方法等につき若干の紹介を行ない、本学および、学外の利用者の便に供したい。

この資料は、19世紀半ばを経て、ビスマルクを政治的リーダーとするプロイセンを中心



に成立した北ドイツ連邦(die Norddeutschen Bund), 普仏戦争(1870~71年)を経てこれに南ドイツ諸邦等を加えて成立したドイツ帝国(das Deutsche Reich), 更には, 1918年第一次大戦の敗北とドイツ革命を契機に, 皇帝の退位後成立したドイツ共和国(das Deutsche Reich)とそれが成立する場となった国民議会(die Deutsche Nationalversammlung)時代, ヒットラーの政権掌握(1933年)によるドイツ共和国の崩壊後第二次大戦によるナチスの崩壊までのライヒ議会の機能停止期を除き, 第二次大戦後の東西ドイツ分裂後の西ドイツすなわちドイツ連邦共和国(die Bundesrepublik Deutschland)の全期間を通じての議会(二院制をとる場合はその双方の)の記事速記録ならびに議案, モチーフ(法案理由書)等の付属資料である。(資料リスト1~4)

これとならんで重要なのは, 第二帝政期(1871~1918年), ヴァイマール期(ドイツ革命後ナチの政権掌握に至る過程)に, 最も有力かつ重要な役割を果たしたプロイセンの議会議事録を合わせ完備した。(資料リスト5~6)

第二帝政期ドイツにおいて, プロイセンは, 連邦参議院(Bundesrat)に17の議席(全体で58議席)をもち, その議長を宰相が兼ね, ほぼ自らの方針を貫徹しえたのである。それゆえ, この時期, 国民の代表からなる帝国議会(Reichstag)は, その議員に法案提出権がなく, もっぱら, プロイセン国王すなわち皇帝の意を受けた宰相(Reichskanzler, これは原則としてプロイセン首相が兼任し皇帝に任免権がある)により法案が提案され, 帝国議会(Reichstag)でなく各邦(Land)代表からなる連邦参議院に法律, 予算等の議決優先権が与えられていたことを考え合わせると, プロイセンのドイツ国内での比重の大きさが首肯できよう。その意味で, 第二帝政期とはプロイセン邦議会(Landtag, 勅選によるHerrenhausと称する上院と例の三級選挙により選出されたAbgeordnetenhausと称する下院から成る)での議論が帝国レベルでの立法に決定的影響をもち, プロイセン邦議会での議論集約抜きには, 帝国レベルの立法(ごくわずか, 憲法

上ライヒの権限とされたものを除く)は考えられなかったのである。

ドイツ共和国成立後において, この関連は, ややうするが, ラント(ことにプロイセン)とライヒとの二重構造は一貫して多くの問題を生じている。このライヒとラントの関係はライヒの権限を独裁制として強化することにより, ドイツの大恐慌からの回復, 強国としてのドイツの復活を掲げるヒットラーナチス(国家社会主義労働党)により一気にくつがえされたのである。だが結局のところこの狂気の独裁国家を否定した第二次大戦後のドイツ(西ドイツ)は, 連邦共和国として再度ラントを基底として連邦(Bund)制をとるに至った。

以上のドイツ国家の中核となる立法府としてのドイツ議会議事録を全巻完備するのはわが国においては国会図書館, 法務省図書館などしかなく, しかも前者にはプロイセンの議事録は完備されていない。この貴重な資料をマイクロ化し, 全体として完備することは, 法律・政治・経済・歴史等の諸学問領域にとって極めて大きい要請であったといえよう。本学ではこの資料の内容目録を作成し, 研究者の利用の便に供するべく作業を目下行いつつある。この夏頃までには, 資料の整理, 内容の目録, 索引化を行ない, 全研究者に公開できるよう準備を完了する予定である。

(人文学部 助教授)

Sammlung der Verhandlungen der deutschen Tage, lset.

(in microform ed.) ドイツ議会議事録ならびに議会資料(マイクロ版)

- 1 STENOGRAPHISCHE BERICHTE UBER DIE VERHANDLUNGEN DES REICHSTAGS DES NORDDEUTSCHEN BUNDES. Legislaturperiode. Session 1867-70. 12v. in 9. 北ドイツ連邦帝国議会の速記録事録, 1867-70年.
- 2 Die Deutsche Reich, Reichstag. VERHANDLUNGEN DES REICHSTAGS. v. 1-450. 1871-1933. ドイツ帝国議会議事録, 1871-1933年
- 3 DIE DEUTSCHE NATIONALVERSAMMLUNG IN JAHRE 1919 UND 1920 IN IHRER ARBEIT FÜR DEN AUFBAU DES NEUEN DEUTSCHEN VOLKSSTAATES. 9v. ドイツ国民議会議事録, 1919-20年
- 4 Bundestag. VERHANDLUNGEN. STENOGRAPHISCHE BERICHTE. 1-112. 1945- ドイツ連邦議会議事録, 1-112, 1945-
- 5 Preussen. Landtag. STENOGRAPHISCHE BERICHTE. 1849-1933. プロイセン邦議会議事録, 1849-1933.
- 6 Preussen. Landtag. Haus der Abgeordneten. SAMMLUNG SAMMTLICHER DRUCKSACHEN. 1855/56-1866. プロイセン邦議会上院議事録



## 図書館業務の機械化スタート

附属図書館では、業務専用電算機を導入しその第一段階として、貸出・返却を中心とする閲覧業務の機械処理を4月より開始しました。国立大学図書館では全国で11番目（横浜国立大学と共に）の電算機導入になりました。利用者の皆さんに最も関係深い部分を機械処理し、これまで以上に図書館と本を利用していただきたいと思います。

### 1. 貸出・返却

貸出返却の手つづきを簡単に述べますと、貸出には利用者カードと本とをカウンター係員に出す、返却には本だけをカウンター係員に渡す、ということです。カウンターでは係員がセンター機械とオンラインで結ばれた端末機を用いて、貸出では利用者コードと図書コードを、返却では図書コードをOCRハンドスキャナ（光学文字読取装置）で走査します。

貸出冊数と期限は

|         |     |     |
|---------|-----|-----|
| 学生1～3年生 | 3冊  | 2週間 |
| 学生4年生   | 8冊  | 1ヶ月 |
| 大学院生等   | 10冊 | 1ヶ月 |
| 教官・職員   | 10冊 | 1ヶ月 |

となっており、貸出の際に機械的にチェックされます。冊数を越えたり、返却期限日に遅れたりすると借りることはできませんので、ご注意ください。

このほか、貸出予約、問合せ（利用者、図書に関して）、延滞者返却督促、閲覧統計の業務が機械処理されます。

利用者の方々にとっても、図書館側にとっても手続が簡単になりました。これまでのように、借りるのに何度も氏名を書くなどの面倒がなくなりましたので、今後も大いに利用していただきたいと思います。職員の省力化された分は、よりきめ細かい、そして充実したサービスができるよう努力してゆきます。

### 2. 利用者カード

本の貸出手続が簡単になったといっても、

利用者カードがないと貸出すことはできません。それには「利用者カード交付手続票」というマーク式カードを記入し提出していただきます。

記入事項は次の通りです（一はマーク事項）  
①氏名、フリガナ②身分③学部、入学年、学生証番号（下4桁）④帰省先⑤現住所

マークカード提出後、一週間で利用者カードは出来上りますので、学生証提示の上、受けとってください。5月末現在約7100名の方が登録されています。

この利用者カードは、有効年月（卒業予定年月）まで使うことになりますので、なくさないよう大事に取扱ってください。

### 3. ハードウェアとソフトウェア

この閲覧システムを動かしているハードウェアは下記の通りです。

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| 機種     | NEAC200                  |
| 中央処理装置 | 192KB                    |
| 補助記憶装置 | 磁気ディスク200HB<br>磁気テープ装置2台 |
| 出力機    | ラインプリンタ                  |
| 端末機    | データ作成用、閲覧業務用、雑誌管理用       |
| その他    | カードリーダー                  |

機種選定に際しては、選定委員会を設け、14名の教官のご協力を得ました。

システム設計は図書館員とメーカーSEが協力して行いましたが、これまでに開発されている図書館システムをできる限り活用し、COBOLによるプログラムを組み、図書館員にとっても利用者にとっても親しみやすいシステム化をめざしてきました。予算の配当、機種選定、据付調整、閲覧システムの開発などをほぼ一年間のうちに行ってきました。

### 4. 今後の計画

図書館の中では、本や雑誌が到着してから利用していただける状態になるまで、さまざまな複雑なプロセスを経ています。これらの仕事のある部分は機械処理が可能で、すでにい

くつかの大学図書館で実用化されています。

千葉大学では、自然科学、科学技術系の分野に研究者が多く一つの特徴となっておりと同時に、人文社会科学分野の研究教育面でも充実してきています。従って図書は当然のことながら学術雑誌も多方面の、莫大な種類のものを受入し所蔵しています。

図書館業務機械化の第二段階としては、情報（源）を速く正確に利用できるよう、学術雑誌管理のシステム化をめざしています。次の業務を行う予定です。

- |          |         |
|----------|---------|
| 1) 契約・発注 | 4) 目録作成 |
| 2) 受付・検収 | 5) 所在検索 |
| 3) 支払・精算 |         |

このシステムが完成されれば、千葉大学所蔵の雑誌の所在検索が即時にできるようになります。また雑誌所蔵目録（冊子体）もこれまで作成に大変な労力と時間を要しましたが、短期間サイクルで出すことも可能になります。

第三段階として、図書管理システムが計画されています。

- 1) 予算管理
- 2) 図書の発注
- 3) 検収・受入
- 4) 支払
- 5) 整理（目録・分類・装備）

整理作業については、英小文字、漢字の扱いに問題があるため、一部分の機械化になることが予想されます。

図書を購入する場合、予算の残高が常になりませんが、この図書管理システムは予算残高の現況をディスプレイ表示あるいはプリントできるよう組まれますので、より有効な購入計画がたてられ、年度末に残高の過不足に悩むことがいくらかでも解消できると思われます。

業務機械化の計画は、これまでの手作業と併行して行われますし、移行時には多少の混乱も生じるかと思われますが、極力そのようなことのないよう努力してゆきます。

## 文献複写業務の新方式について

近年における学術情報の急増に対処し、研究者の情報要求に即応するためには、全国の大学図書館等のもつ情報資源を合理的に活用する必要があります。このため、各大学等図書館間における複写による文献の相互利用業務はきわめて重要な役割を担っています。ところが現状では、複写料金の支払・収納方法が複雑なため、その業務および利用は必ずしも円滑に行なわれているとはいえません。

そこでこの現状を改善するために、昭和54年度から国立大学および国立高等専門学校の図書館間における文献複写業務は「国立大学等図書館間相互における文献複写業務実施要項」に則って行なわれることになりました。

この新方式による主な改善点は文献複写料金の決済等の方式が合理化されたことです。従来の方式ですと複写料金の徴収にかかる会計事務が煩雑であり、それに消費される時間も長く、特に私費による依頼の場合には、受

付側の債権が消滅した後でなければ複写物の発送ができず、従って複写物が申込者本人の手に到達するまでの時間が長くならざるを得ませんでした。新方式では、各大学図書館の複写データを処理センターで集中的に処理し、予算の振替によって、料金の精算を行なうことになります。即ち、受付側においては1件毎の債権管理・歳入事務が省かれ、依頼側では、1件毎の支出負担行為事務が省かれ、それぞれ、学内的には予算の学内移算で処理されることになります。さらに新方式のもうひとつの特質は、私費による依頼の場合にはその料金の徴収・歳入事務を依頼側で行なうことです。これは従来受付側で行なっていたものです。

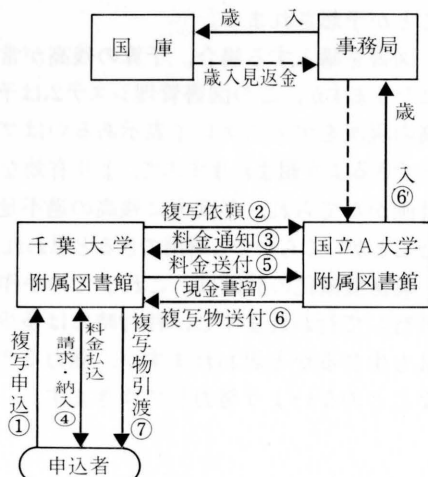
上記のような方式改善により、利用者の方は学術情報のよりスムーズな利用が可能となるでしょう。また事務処理面からみても、わずらわしい手間が省かれることになります。

なお、今回の改善の対象は、国立大学、国立高等専門学校に限られているのでその他の機関については従来通りの方式で行なわれます。

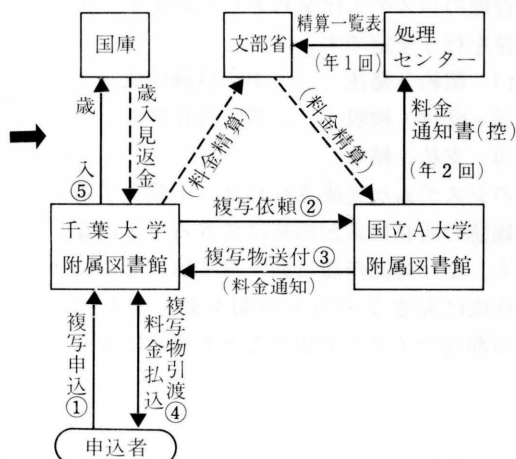
この新方式に伴って、附属図書館では文献

### 私費支弁の場合

(旧方式)



(新方式)



## 年鑑・白書・統計書紹介

図書館三階の参考図書と表示されているところに年鑑・白書・統計書類が別置して配架されています。これらの図書はほぼ毎年発行され、その年の状況や統計がわかり、各種の調査・研究に役立つようになっています。利用者の皆さんがある年の社会情勢を知りたいとか年毎の統計を調べたいというときにはここにきて閲覧して下さい。

これらの年鑑・白書・統計書類は全学的な共同利用体制をはかる目的でつくられた共通基本図書費により購入されたものが大部分です。

ここにある年鑑・白書・統計書類の所蔵状況をまとめてみました。

配列はABC順、所蔵には途中欠号のものもあります。

1. アジア動向年報 (1971— )
2. アジア太平洋経済社会年報 (1975— )
3. アジア太平洋統計年鑑 (1969— )
4. 朝日年鑑 (昭8— )
5. 防衛白書 (昭51— )
6. 防衛年鑑 (1959— )
7. 防災白書 (昭53— )
8. 文芸年鑑 (昭45— )
9. 千葉県統計年鑑 (昭27— )
10. 地方財政白書 (昭44— )
11. 地域経済総覧 (昭50— )
12. 中小企業白書 (昭38— )
13. 中東・北アフリカ年鑑 (1970— )
14. コンピューター白書 (1969—1976)
15. 演劇年報 (1972— )
16. 英語年鑑 (1972— )
17. 婦人労働の実情 (昭44—昭53— )

18. 外国経済統計年報 (1969— )
19. 原子力白書 (昭37— )
20. 原子力年鑑 (1957— )
21. 犯罪白書 (昭38— )
22. 時事年鑑 (1940—1978)
23. 科学技術白書 (昭37— )
24. 化学工業年鑑 (昭45—52)
25. 海外市場白書 (1964— )
26. 海上保安白書 (昭41— )
27. 会社年鑑 (1955— )
28. 家計調査年報 (昭40— )
29. 観光白書 (昭41— )
30. 環境白書 (昭47— )
31. 過疎白書 (昭52— )
32. 経済統計年鑑 (1963— )
33. 経済統計年報 (昭45— )
34. 経済要覧 (1964— )
35. 建設白書 (昭38— )
36. 企業規模別経営分析 (昭46—49 )
37. 気象年鑑 (1969— )
38. 工業統計表 品目編 (昭47— )
39.     "     用地用水編 (昭48— )
40.     "     企業編 (昭46— )
41.     "     市町村編 (昭49— )
42.     "     産業編 (昭47— )
43. 公害年鑑 (1973—1978)
44. 国土利用白書 (昭52— )
45. 国民衛生の動向 (昭46— )
46. 国民医療年鑑 (昭41— )
47. 国民の経済白書 (昭45— )
48. 国民政治年鑑 (1962— )
49. 国民生活白書 (昭31— )
50. 国民生活統計年報 (昭45— )
51. 国民所得統計年報 (昭41— )
52. 国際経済要覧 (1969—1977)
53. 国際連合貿易統計年鑑 (1958— )
54. 国際連合世界人口年鑑 (1967— )
55. 厚生白書 (昭31— )
56. 公正取引委員会年次報告 (昭37— )
57. 交通安全白書 (昭53— )
58. 交通年鑑 (1970— )
59. 毎日年鑑 (昭15— )
60. 民力 (1965— )
61. 日本美術年鑑 (昭43— )
62. 日本工業年鑑 (1970— )
63. 日本国勢図会 (1963— )
64. 日本教育年鑑 (昭50— )
65. 日本農業年鑑 (1960— )
66. 日本労働年鑑 (大9— )
67. 日本新聞年鑑 (1966— )
68. 日本統計年鑑 (昭24— )
69. 日本都市年鑑 (昭42— )
70. 音楽年鑑 (1967— )
71. 労働白書 (昭37— )
72. 労働統計要覧 (1970—1978)
73. 精神薄弱者問題白書 (1967— )
74. 青少年白書 (昭31— )
75. 世界経済白書 (1959— )
76. 世界年鑑 (1941— )
77. 世界統計年鑑 (1965— )
78. 社会保障年鑑 (1971— )
79. 新中国年鑑 (1963— )
80. 消防白書 (昭41— )
81. 商業統計表 産業編 (昭43— )
82.     "     品目編 (昭43— )
83. 消費と貯蓄の動向 (昭45— )
84. 主要企業経営分析 (昭48—49 )
85. 主要産業の設備投資計画 (昭45—53 )
86. ソビエト年報 (1967— )
87. 都道府県別経済統計 (昭45— )
88. 東南アジア要覧 (1970— )
89. 通商白書 (1962— )
90. 運輸白書 (昭41— )
91. 運輸経済図説 (昭44—53 )
92. 運輸経済統計要覧 (昭42—53 )
93. 我が国の教育水準 (教育白書) (昭34— )
94. 世論調査年鑑 (昭41— )
95. 財政統計 (昭45— )
96. 図でみる中小企業白書 (昭44—52 )
97. 図説 農業白書 (昭45—51 )
98. 図説 林業白書 (昭45— )



## 教官寄贈著書

昭和53年10月～54年3月に寄贈された著書  
**村上元英**（人文）  
Culture and Management in Japan, by M. Murayama. Chiba Academic Press, 1978.  
騒音地域（芝山町）の振興計画調査研究報告書  
村山元英ほか著 千葉地域科学研究所 昭53  
**谷川彰英**（教育）  
社会科理論の批判と創造 谷川彰英著  
明治図書 昭54  
**城丸章夫**（教育）  
やさしい教育学 上 城丸章夫著 あゆみ出版  
昭53  
**宇佐見寛**（教育）

論理的思考 宇佐見寛著 メヂカルフレンド社  
昭54  
**浅井晃**（理学）  
現代統計実務講座1, 2（文部省認定社会通信教育）  
浅井晃ほか著 実務教育研究所 出版年不明  
**河西宏祐**（教養）  
少数派労働組合運動論 河西宏祐著 海燕書房  
昭52  
**中森義宗**（教養）  
ペスト後のイタリア絵画 M. ミース著 中森義宗訳  
中央大学出版部 昭53  
ヒューマニズム建築の源流 R. ウィットコウワー  
著 中森義宗訳 彰国社 昭46

### 附属図書館の増築

数年来要求し続けてきた図書館の増築計画が、このたびようやく認められ、昭和54、55年の両年度にわたって実施されることとなった。工事は本年10月着工、翌昭和55年度中には完成の運びとなる。

現図書館は昭和43年3月、旧基準により建設されたもので、その後の利用者増、蔵書の著しい増加にともない、施設は満杯となり、早急な増築がまかれたところであった。

増築面積は5.160㎡で、現有面積を1.000㎡弱上回る。増築については、当然、上記の事情をふまえ、既設面積を加えた総面積9,587㎡の中で計画することとなる。

現在、図書館建築小委員会の意向をもとにその具体化をいそいでいるが、増改築の場合、現図書館の機能をそこなわずに施設の拡充をはかるため、かなりの制約があり、それだけに慎重な計画が必要となる。増築に当っては、従来になかった機能をも盛り込む予定であり、御期待いただきたい。

### 故小寺駿吉名誉教授蔵書について

5月7日、故小寺名誉教授が生前収集された蔵書全部を、長年お世話になった千葉大学

に寄贈したいとの御意向をご遺族がお持ちであることが、福富園芸学部図書分館長から披露された。

故小寺教授は造園史の権威者であり、約3,500点に及ぶ蔵書の中には、古地図をはじめ、造園に関する貴重な文献が含まれ、斯学の発展に寄与するところ甚だ大であるといわなければならない。

本来なら、生前先生がご在籍になった園芸学部部に備え、研究に資すべき性質の資料であるが、協議した結果、大方の閲覧に供するためにも、これを附属図書館において、末永く保存することが至当であろうという結論に達した。

故小寺教授の蔵書は、本館増築を機に整理の上、小寺文庫と名づけ公開される予定である。

### 人 事 異 動

非 公 開

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.15 1979.12

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 附属図書館と保健センターと私の出会い              | 1 |
| 文献検索雑感                          | 3 |
| オックスフォード大学図書館                   | 3 |
| 附属図書館本館の増築について<br>—増え続ける蔵書への対策— | 4 |
| 共通基本図書購入書目                      | 5 |
| 教官寄贈著書とその紹介                     | 7 |

## 附属図書館と保健センターと私の出会い

木下安弘

二十年前のことでもあろうか。私は異邦人の持つ憧れに似た気持ちにみちて、ボストンの街かどに立っていた。ここハーバード大学のキャンパスでは、珍し気に豪古人種の私を振り返って見る人はいなかった。澄み切った紺碧の秋空に抜けたように白いチャペルと木々に囲まれた荘重なたたずまいの図書館を見たときに、求めていた学問というもの、今ここにあるという感慨が胸をついた。当時、日本の経済復興は、まだ、なかった。医学部にいた私は、黒色の迷彩の残る千葉大学旧附属病院2階にあった千葉大学附属図書館医学部分館分室を想った。

それは、伊藤忠雄前医学部事務長と故人になられた黒川昭雄事務官のご盡力によって、それまではただ平机と椅子しかなかった室に、十ほどの個人用閲覧機が入ったと人々が喜んだ図書館であった。彼我の国力の差はいかんともし得なかった。学問を尊ぶ気持ちに優劣はなくても、砂漠に徒手空拳で立つ空しさがあった。静かな暮色と共に無限の淋しさが押寄せてきた。落葉を踏みしめながら、確かに日本は貧しく、書く紙は吹けば飛ぶようなものであろう。しかし、この世に生をうけた一人

の人間が精魂こめて書き記した事象は、ピラミッドにもまさる重さもある。いつの日にか、この秋空に輝くハーバード大学図書館に保存されるような雑誌に論文をのせようと、老い易い少年（実はもう中年であったが）は夢を見た。

時は流れて昭和52年、保健管理センターの建物が着工となり、やがて私はそこにお世話になることとなった。旧い学制のために、教養部はいうまでもなく、西千葉キャンパスに何があるかさえもよく知らなかった私は、ある時、朝日の中にそそり立つ大きな建物が、千葉大学附属図書館であることを知ったとき長い航海のあと、初めて陸地を見たコロンブスにも似た感激にみたまされた。と同時に、ここに学ぶ学生諸君の幸せを思った。これが附属図書館と私との第一の出会いであった。

さて諸方面のお力添えにより新築になった保健管理センターで診療を開始するうちに、附属図書館の正面階段で足をすべらせ捻挫したという学生がくるようになった。大抵は、雨の日で長靴をはいた女子学生であった。

やがて、また、図書館の書棚で頭を打ったという学生もくるようになった。シックに

見える図書館の階段にもすべり止めが、また、館内では交通整理が必要かと思う時もあったが、これが附属図書館と保健管理センターとの実際的な出会いとなった。

そのうちに、多くの学生諸君が診療とか、健康相談のために保健管理センターを訪れるようになり、次のような事例にぶつかることとなった。①風邪を引いて熱があるが、皆とドライブに行きたいので、すぐ下熱薬か、注射をしてほしい（“確かに青春は短い。しかし、家に帰り温まって寝るのが一番良い”と私は思う）。②キャンパスで足を怪我したから診てと泥足のままやってくる（“まず水道の流水で泥を洗い落すのが常識”と私は考える）。③生理痛で遊びに行けないので痛み止めを欲しい（“家で静かに勉強していたら”と思う）。④コンパで昨夜飲み過ぎて目がまわる。授業に出たいので何とかして（“その精神は立派である。何とかしよう”と私は考える）。これらは、すべて微笑ましい若さの発露であり、また、環境も整備され、予防接種も行きとどき、抗生物質もあるという有難い世に生れ、育った恩恵でもあろう。しかし、このように不十分な医学的知識を授けたこれまでの社会教育にも、不足するところがあろうかと考えていた矢先、附属図書館から、せっかく保健センターもできたことだから、実際のニーズも考慮して、何か学生諸君の医学的知識の向上に役立つ書籍をとのお話しがあった。それでは、まず実際の病気についてということで、内臓の病気、すなわち、肝臓、腎臓、消化器疾患、さらに、泌尿器、皮膚性病、産婦人科、精神病、心理学、治療学、栄養学、環境、および、食品衛生学などの初歩の本をおすすめしたところ、かなり多数が今回、附属図書館に入った。これらの図書は、いずれも平易なものであるから、早速にも活用され健康と病気についての理解を深められるようお願いする次第である。

いうまでもなく、すべての文化活動を支えているのは人間の生命である。それは、宇宙に散らばるエネルギーが稀有の確率と気の遠くなるような時を経て、このように人類に結

晶したものであり、失われれば再びそれを担う個体と同じ姿に結晶することはないのである。巨匠トーマス・マンは、結核サナトリウムをえがいた名作「魔の山」の終章に近く、倒れた生命を愛しんで、「Che cosa fai per l'amor di Dio!（これが神への愛のためになされたことか!）」と叫ぶように書いている。学問も、芸術も、われわれのすべての活動も、常にこのように個体に生命を結晶させてくれた神——と呼べるなら——への愛にふさわしいものでありたいと思う。

読書の秋、人口の過剰に悩む日本では望むべくもないが、千葉大学附属図書館の閲覧室が、学問と思索にふさわしい静ひつさに満たされ、今は小さい木立も深くなり、木漏れ日がいづくしむかのように図書館に輝き、芝生にはリスの遊ぶ日々のくことを、限りなき生命への畏敬と愛と、また、生命科学の発展のために祈って止まない。

（保健管理センター所長）

~~~~~  
木下先生のすすめられた本は、3階開架室に備付られています。その一部を紹介します。末尾の数字は分類番号（ラベルの数字）です。どうぞご利用ください。

|                                              |         |
|----------------------------------------------|---------|
| ○橋本正己編 社会変動と住民の保健                            | 498.4   |
| ○新病気と食事の事典                                   | 492.6   |
| ○National Research Council 環境汚染物質の生体への影響 1-7 | 498.4   |
| ○石河利寛 松井秀治編 スポーツ医学                           | 781.9   |
| ○Steigleder 皮膚科学・性病科学                        | 494.8   |
| ○産婦人科診療 Q & A                                | 495.2   |
| ○五十嵐正雄 月経とその異常                               | 495.13  |
| ○小泉明 人間生存の生態学                                | 498.4   |
| ○大熊輝雄 睡眠の臨床                                  | 491.37  |
| ○山下格 情動の精神生理                                 | 493.09  |
| ○稲村博 自殺学                                     | 369.16  |
| ○Blaine編 学生の情緒問題                             | 377.9   |
| ○ウォルフ ストレスと病気                                | 491.349 |
| ○佐藤博他 胃疾患の診断と治療                              | 493.4   |



# 文 献 検 索 雑 感

小 関 健 一

科学関係の仕事にたずさわった方ならば、必ず労力の要する文献調査の経験を持っている事と思う。その手近な方法としては、二次情報誌である Chemical Abstracts による文献検索があるが、年間40万件近くの抄録報文の中から目的とする必要な情報のみを探し出すのは大変な苦勞である。

今年初より千葉大学において、東大センターによるTOOL-IR システムをTSS 端末使用により利用することが可能となり、非常に便利になってきた。100% 満足とは言えないまでも対話型の文献検索が行えるため、短時間に必要な情報を手にすることが出来る様になった。さて端末から出力されてきた情報から更に一次情報誌を必要とする場合、直接著者に依頼することも可能だが、過去にさかのぼって検索した情報に関しては、大学内にある雑誌等であればすぐ複写を取ることが出来る。しかし購読していない場合には、他大学・研究機関等に依頼しなければならない。国立大学図書館に所蔵されていれば、昭和54年度

から新方式による文献複写業務が行われる様になり事務的手続の面からも合理化されたが、それ以外の機関の所蔵文献については従来通りで、複写料金の決済等のために手元に複写物がとどくまでに、かなりの時間を要するのが現状である。利用者の立場から言えば、手元に一次情報誌があることが好ましいが、その全てをそろえることは不可能である。従って、出来るかぎり迅速に手に入れられうるシステムを確立していただきたい。

我々画像工学関係の仕事をする上で、その領域が化学・物理、更に電気・電子などの学問の境界領域にあるため、工学部内を文献さがしのために歩きまわらねばならない場合がある。より多くの一次情報誌を大学にそなえるためには、各研究室等に重複して所蔵している雑誌類を整理する必要がある。それと共に、各雑誌を一か所に集中配架し、自由に閲覧出来、必要な情報がすみやかに複写物となって手元にとどく様な体制を整備確立することが重要である。(工学部画像工学科助手)

## オックスフォード大学図書館

岩 重 政 敏

オックスフォード大学には、カレッジの図書館、学部や研究所の図書館など全部合わせると50以上の図書館があるが、大学(中央)図書館として有名なのは、ボドレアン・ライブラリーである。トマス・ボドレーによって再建された(1598-1603)のでそう呼ばれる。以来4世紀近くの間蔵書も建物も著しく膨脹し、今日では、本館自体がベルトコンベアつきの地下道でつながった新館と旧館その他からなり、それに科学分館、法律分館、インド(ないし東南アジア)関係分館、英連邦関係分館を合わせると、蔵書はおよそ400万冊に達する(1976年現在)。

ボドレアンは、歴史が古い上にイギリスで出版されたすべての新刊書が1部ずつ納めら

れることになっていて、リサーチ・ライブラリーとしての価値が高く、世界中から多数の研究者が訪れるが、貸出図書館でないので老碩学も若い学生ももっぱら閲覧室に通うことになる。閲覧証の交付申請にいくと、「私はここに、本館のいかなる書籍、記録、……をも帯出せず、……しないことを約束します」という文章を朗読させられる。帯出禁止はボドレー以来のことで、チャールズ1世もクロムウェルもそのルールをまげられなかったというのが語り草になっている。

開館時間は(平日)午前9時から午後10時までと長い。開架式の参考図書類も豊富だが、それ以外は係に申し込むことになる。私は、最初の時、「2時間くらいたったら書庫から届



くので受けとりにきて下さい」といわれて意気沮喪し、近くのブラックウェル書店で時間をつぶした。しかし実際はもっと早く届いており、また一度借りたらずーヴして手数を省けることも分り、やがて意欲を回復した。

40年近く働きつづけてきたベルトコンベア（往復約270m）も、ついに過密輸送に耐えられず、この夏休みからオーヴァーホールされることになった。工費は少なくとも10万ポンドといわれる。（教養部 教授）

## 附属図書館本館の増築について

### ——増え続ける蔵書への対策——

吉 岡 千 里

#### 1. はじめに

本年10月開催の第3回運営委員会で、懸案となっていた本館の増築案が承認された。今後はこの計画を学内の関係機関に諮り、明春の着工を待つだけとなった。

むろん新しい増設館（5,177㎡）が姿を現す昭和56年春までには、様々な問題が残されているが、これらのことや増築案の詳細については別の機会に発表を譲るとして、ここでは立案過程で問題にしたこと、特に本学のような昭和24年設置の多くの新制大学が直面している増・改築の問題についてふれてみよう。

#### 2. 増・改築の周期について

現在の本館（4,427㎡）は、昭和43年に竣工しているので、これまで約11か年を経ている。約27万冊の収容能力に対し、約30万点の図書や雑誌類を収納している。今回の増築の目的は学部貸出のものを含め、書庫にあふれている蔵書への対策を第一とした。

一方、年間増加冊数について見ると、昭和53年の我が国の出版件数は約2万6千点（「出版年鑑」）で、本館ではこれらの国内図書や外国図書等を約2万5千点受け入れている。このような増加傾向が今後続くことを予想し、増築案では10年後に約70万冊の収納ができるよう設計されている。

図書が増え続けることは利用者の側から見れば望ましいことである。しかし、容れ物（書庫）、仲介する人（館員）及び保存と利用のための機器・技術の改革（集密書架・マイクロ化・電算化等）が伴わなければ、せっかくの図書は書庫にあふれ、単に死蔵する結果に終るだろう。

再増築を必要とする10年後が、どのような状況に置かれているか予測できないが、情報化、国際化の傾向は一層強化するだろう。従って、年間の出版冊数は増加し、国内及び外国図書の購入は増すだろう。反面、大学のキャンパスは手狭となり、増築の場所を確保できないという事態も予想される。

何よりも、定員増に対する状況は更に悪化すると思われるので、占有面積が増大しても必要なサービスが低下することが大きな問題となるであろう。

今回の増築でも占有面積が2倍以上となるが定員増は見込めないため、現有労力でいかに運用・管理するか苦慮している。

このような状況は多分多くの全国の新制大学が直面している問題である。現在保有している蔵書について検討して見れば、止むを得ない重複購入（指定書、辞書等）があり、情報としての生命を失った技術書類が多数ある。これらの利用頻度の少ない資料をどこか一か所で保管できれば、かなり有利な状況に変わるだろう。そのためには、一校一館の努力でなく、同じような状況にある図書館間の協力体制が必要とされる。

大学図書館は文献複写による相互利用で大きな成果を挙げているが、今後は資料の分担収集や共同保存等についての協力が必要となるだろう。

#### 3. 大学図書館間の協力体制

11月5日付の朝日新聞夕刊に、杉捷夫元立大教授が「あふれる蔵書」という一文を載せられた。その文中に「情報過多の時代のあおりで方々の大学図書館の本があふれて困ってい

る」云々という表現があった。それは、潤沢な購入費で沢山の蔵書があふれているという意味でなく、無理をして本を買っても狭い書庫に同じような本があふれている。お互いの図書館が協力すればこのような事態は避け得るという筆者（元都立日比谷図書館長）の感想である。

いわれるまでもなく、国立大学図書館協議会では、図書館相互協力調査研究班（本館は昭和50～53年まで主査館）を設け、この問題の調査研究を行っている。その一つの対応策として「共同利用図書館」に関する提案（昭和54年総会）があった。

共同利用図書館という中核となる機関が設けられれば、協力体制が大きく発展するであろう。各大学であふれた、あるいは利用しない蔵書を収納するために増・改築を繰返すより、はるかに効率的である。10年後の増築期には、是非この共同化が進められることが切望される。

#### 4. まとめ

限られた紙面のため、十分意を尽くせないが、今後の大学図書館の姿としてはこれまでのような「学生のための学習図書館機能」の

みではなく、6月の学術審議会中間報告にも指摘されている「研究者のための学術情報サービス機能」の充実の実現であろう。

本館としては、現在の本館を改修する際、これを研究者のサービスセンターとして活用できるよう検討を行っている。

その他、今後の諸般の情勢から、身障者の図書館利用について配慮が必要となろう。増・改築の際、そのような学生受け入れのために膨大な改装費を要することも考えられて良いと思われる。

ともかく、容れ物は確保された。これまで諸先任者の努力の結晶として、事務電算化、亥鼻複合分館等、全国の大学に肩を並べて整備充実が計られている。「仏造って」云々という諺があるが、教官・学生にとって、いかに使い易い図書館となるか今回の増築が「魂を入れる」正念場となるであろう。

奇しくも、創学30周年を迎え、大学のシンボルともいえる図書館が新しい姿になるということは極めて意味深いことである。本館がその使命を果たすため、他館の協力以上に学内の関係者の一層のご支援を願うものである。（附属図書館整理課長）

## 共通基本図書購入書目

全学部で拠出している全学共通の共通基本図書購入費により、昭和53年度におきまして下記の図書を購入しました。

これらの図書は本館、亥鼻分館または園芸学部分館に備えつけてありますので、ご利用下さい。（亥、園の表示以外は本館備付け）

### 継続刊行物（和書）

#### 1. 書誌

1. 出版ニュース
2. 出版年鑑（本・亥・園）
3. 日本古書通信
4. 月刊文献ジャーナル
5. 日本雑誌総覧
6. 現行医学雑誌所在目録（亥）

#### 2. 記事索引

1. 雑誌記事索引 人文・社会編

#### 3. 地図

1. 新日本分県地図

#### 4. 名鑑・要覧

1. 著作権台帳
2. 全国大学職員録
3. 千葉県学事関係職員録
4. ダイヤモンド会社職員録
5. ダイヤモンド外国会社要覧
6. 日本官界名鑑

#### 5. 年鑑・白書・統計書 約100種

#### 6. 法令集

1. 六法全書（岩波・有斐閣・三省堂）
2. 法令全書
3. 現行日本法規集
4. 教育法令集

5. 千葉県法規集

7. 資料集

1. 大日本史料
2. 大日本古文書
3. 新聞集成大正・昭和編年史
4. 朝日新聞 縮刷版
5. 日本経済新聞 縮刷版
6. 天理図書館善本叢書
7. 日本古典文学館

8. 図書館

1. 情報管理
2. ドクメンテーション研究
3. 参考書誌研究
4. Library and Information Science
5. 大学図書館研究
6. 書誌索引展望

継続刊行物 (洋書)

1. BIBLIOGRAPHY

1. National Union Catalog.
2. Cumulative Book Index. (本・亥)
3. EBSCO Bulletin of Serials Changes.
4. Books in Print.
5. Verzeichnis Lieferbarer Bücher.
6. Deutsche Bücherverzeichnis.
7. NLM Current Catalog. (亥)
8. Vital Notes on Medical Periodicals. (亥)

2. INDEXES AND ABSTRACTS

1. Bibliographic Index.
2. Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur.
3. Biography Index.
4. Social Sciences Index.
5. Humanities Index.
6. International Political Science Abstracts.
7. Applied Science and Technology Index.
8. Dissertation Abstracts International.
9. Information Science Abstracts.
10. Facts about Nursing. (亥)
11. International Nursing Index. (亥)
12. International Abstracts of Biological Science. (亥)
13. Horticultural Abstracts. (園)
14. Pollution Abstracts. (園)

3. ENCYCLOPEDIAS

1. Encyclopedia of Library and Information Science.
2. Meyers Neues Lexikon.
3. Lessico Universale Italiano.
4. Bol'shaia Sovetskaia Entsiklopediia.
5. Great Soviet Encyclopedia.

4. BIOGRAPHY

1. Who's Who.
2. Who's Who in America.
3. Contemporary Authors.
4. Neue Deutsche Biographie.

5. DIRECTORIES

1. World of Learning. (本・亥・園)

6. GOVERNMENT PUBLICATIONS

1. Monthly Catalog of U.S. Government Publications.
2. Canadian Government Publication Monthly Catalog.
3. United Nations Documents Index.

7. ALMANAC

1. Europa Year Book.
2. Yearbook of World Affairs.

8. LANGUAGE DICTIONARIES

1. Oxford Latin Dictionary.
2. Trésor de la Langue Française.

9. MISCELLANEOUS

1. Landolt-Börnstein Zahlenwerte.....

10. LIBRARY SCIENCE

1. Library Literature.
2. Library Journal.
3. UNESCO Bulletin for Libraries.
4. American Libraries.
5. College and Research Libraries.

単行書 (和書)

1. 文化人類学事典
2. 近世雅人伝
3. 大日本名家全書
4. 幕末維新人名辞典
5. 大日本神名辞書
6. 漁業露和辞典
7. 地方行政区画便覧
8. 看護学大辞典 (本・亥)
9. 図書館用語ハンドブック (講座新図書館学)
10. 音楽演劇芸能に関する10年間の雑誌文献目録 昭40-49
11. 世界伝記大事典 1-5, 別
12. 教育学大事典 1-6
13. 電気工学ハンドブック
14. 産業中毒便覧 (亥)
15. 医学大辞典 (亥)
16. 新和英大辞典 (亥)
17. 標準医語辞典 (亥)
18. 医学英和大辞典 (亥)
19. 医用電子生体工学ME事典 (亥)
20. 図説手術機械のすべて 1-5 (亥)
21. 目で見るベッドサイド検査手技 (亥)
22. 催奇形成等発生毒性に関する薬品情報 (亥)
23. 日本人の体力 (亥)

24. 菌類図鑑 上,下 (亥)
25. 看護法令要覧 (亥)
26. 基本看護手順 1-2 (亥)
27. リハビリテーション体系 5巻 (亥)
28. 薬学図書館総索引 1-20巻 (亥)
29. 滅菌法・消毒法 1, 3, 4 (亥)
30. 日本看護学会集録 6-9回 (亥)
31. 千葉市住宅地図 (本・亥)
32. 国内医学雑誌記事索引 第8巻 (亥)
33. 新・教育心理学事典 (亥)
34. 世界地名大事典 1-8巻 (園)
35. 日本タケ科植物総目録 (園)
36. 現代日本執筆者大事典 1-3 (園)
37. 日本植生便覧 (園)
38. 日本植物誌 顕花篇, シダ篇 (園)
39. 日本統計索引 (園)

#### 単行書 (洋書)

1. Rücklauffiges Wörterbuch der Deutschen Gegenwartssprach.
2. Obituaries from the Times. 1961-70.
3. Duncan's Dictionary for Nurses. (亥)
4. CRC Handbook of Laboratory Animal Science. Vol. 1-3. (亥)
5. Psychiatric Dictionary. (亥)
6. Pathology of Laboratory Animals. 1-2. (亥)
7. Ackerman and del Regato's Cancer. (亥)
8. Year Book of Family Practice. 1978. (亥)
9. Pediatric Respiratory Intensive Care Handbook. (亥)
10. Biographisches Lexikon der Hervorragenden Ärzte aller Zeiten und Volker. Bd.1-6. (亥)
11. Manual of Surgical Nutrition. (亥)
12. Atlas of Nuclear Medicine. 1-2. (亥)
13. Encyclopedia and Dictionary of Medicine, Nursing, and Allied Health. 2nd ed. (亥)
14. Nutrition and Diet Therapy. 2nd ed. (亥)
15. The International Who's Who. 1978-79. (亥)
16. Table of Isotopes. 7th ed.
17. Guide to Reference Books. 9th ed. (園)
18. Hortus Third. (園)
19. Biology Data Book. 2nd ed. Vol. 1-3. (園)
20. Dictionary of British and Irish Botanists and Horticulturists. (園)

## 教官寄贈著書とその紹介

図書館では、これまで本学教官の著書を寄贈していただいておりますが、今後ともご刊行の際は寄贈してくださるようお願いいたします。寄贈された図書は、本誌で広報します。なお、寄贈に關しては受入係担当です。

下記は、昭和54年4月～9月に寄贈された著書とその紹介です。

**江森康文 (工学) 大山正 (人文) 深尾謹之介 (教養)**

色・その科学と文化 江森康文, 大山正, 深尾謹之介編 朝倉書店 昭和54 223p 21cm 757.3 開架

現代の生活は大変カラフルで、あらゆる分野で色が利用されている。また色の関係する現象は単純ではない。色の本質を理解するために、多くの専門分野を総合して正しい知識をわかりやすく執筆したものである。

**福尾武彦 (教育)**

住みよい明日の千葉県をめざして—県民からみた千葉県白書— 千葉県政白書編集委員会編 (編集長・福尾武彦) 千葉県職員労働組合発行 昭54 313p 21cm 318.235 開架  
臨海部を中心にわが国有数の重工業県に発展しながらも生活関連行政が立遅れている千葉

県政の実態、県民生活の現状、県民の要求と県政を記し、今後の県政について提言をもふくませた。

**羽田寿郎 (園芸)**

農業気象学 羽田寿郎ほか著 文永堂 昭53 244p 22cm 613.1 開架

農業気象学の使命である生物の環境を物理的側面から理解し、その知見を作物の生産や貯蔵技術に応用していくことに重点をおいた。

**井上勝也 (理学)**

さびの科学 井上勝也著 三省堂 昭54 192p 19cm (三省堂選書61) 563.1 開架

研究上の課題は、さびるという現象を物質変化として具体的に解明すること、さびを防ぐ基本条件として表面のさび層そのものが保護、遮断性のある構造になる原理を発見することである。

**磯部孝 (工学)**

物理測定と標準 計測自動制御学会測定標準研究専門委員会編 (委員長・磯部孝) 共立出版 昭50 246p 27cm 422 開架

基本物理定数などの値の知識は精微なものとなってきた。高度に精密な物理測定、特に標準に関する実験研究は各種量相互に密接な関



連があり、総合的に広範囲の調査研究が行われた。

計測法通論 眞島正市、磯部孝編 東京大学出版会 昭52 401p 22cm 501.22 開架

各種の計測法を系統的に整理し、いくつかの種類に分別し、同一種類に属するものの代表的なものを選び一般的計測法として編述。

水中弾道の研究 磯部孝著 東京大学出版会 昭50 154p 27cm 559.1 開架

水中にうちこまれた高速投射体の運動という流体力学の特殊分野の問題を、実験的に解き明かした研究の記録・報告書である。

#### 松本泰丈（教養）

日本語研究の方法 松本泰丈編 むぎ書房 昭53 358p 22cm 810.1 開架

言語とくに日本語の理論的研究に関する論文をおさめ、現代日本語の事実をほりさげているなかでであった言語学の理論的、方法的な問題をめぐって考察をくわえたもので、一般言語学を志向している。

この本の姉妹編として、「言語の研究」言語研究会編 むぎ書房 昭54.10 が出版された。これもあわせて読んでいただきたい。（購入予定）

#### 村山元英（人文）

経営海外移転論—土着型近代化の論理— 村山元英著 創成社 昭54 178p 22cm 335.1 開架

著者の提唱する経営海外移転論は日本の企業が海外で定着し、土着するための地域主義・多国籍主義の経営学であり、企業の分散型、定着の現代を創る経営学である。そこに日本型多国籍企業の未来があり、日本人の生き方と夢がある。

日本的多国籍企業論の展開 多国籍企業研究会編著 村山元英ほか著 法律文化社 昭54 401p 22cm 335 開架

多国籍企業に特徴づけられる「米国型」海外投資が日本の企業による海外活動にどれだけ

に存在するのか。あるいは「米国型」多国籍企業も変容をとげるとえ、独自の「日本型」多国籍企業が別途に発展し、海外直接投資の米国型と日本型の両者が並存し、相互浸透の状態を論じた。

#### 坂井昭宏（教養）

デカルトにおける人間の発見 F. アルキエ著 坂井昭宏訳 木鐸社 昭54 309p 20cm 135.1 開架

〔フェルディナン・アルキエ（ソルボンヌ教授）「デカルト」—人と作品—文学の知識叢書

45, アチエーボワウン社 1956年〕の全訳 哲学—現代の哲学的思索のために— 小牧治編 坂井昭宏ほか著 有信堂高文社 昭54 262p 21cm 101 開架

ギリシャ哲学に始まり現代哲学におよび、最終章においては、平和の理論である平和問題の地平、自由としての平和、平和的社会構造の模索、文明への問い、日本の経験をあげて述べている。

#### 田中準（教養）

湖畔の俳人・その他 田中準著 廣文堂 昭54 189p 19cm 911.35 開架

近江の湖畔地方膳所、大津、堅田、彦根には蕉風の俳人、酒堂、曲翠、正秀、乙州、智月尼、季曲、千那法師、許六等がいた。それら俳人と江戸の杉風、路通、由平、東山、信徳、井月など芭蕉およびその周辺のことなどについて書いた。

#### 内間直仁（人文）

千葉県君津地方言語地図 千葉大学人文学部国語学研究室著 昭54 101p 26cm 818.35 書庫

君津郡（小櫃川流域、小糸川流域）の方言調査を4回にわたって行った。すずめ、かぶとむし、とかげ、かえる、しかる、まぶしい、くすぐる、いくつなど、80項目について方言を採集し、地図を作成した。

### あ と が き

図書館では、文献資料と利用者とのパイプ役を果たすよう努力している。その一つとしてこの「図書館の本」を発行してきた。この館

報も通号15号を迎え、今回は図書館の利用者でもある3名の方にご寄稿いただくことができた。学生の皆さんもご意見を寄せられたい。編集委員 佐久間雅久 堀込静香 志賀秀枝 行方美知子

千葉大学附属図書館報

**図書館の本**

No.16 1980. 4

イギリス・ルネサンス期の知体

|              |   |
|--------------|---|
| 験を再現する叢書     | 1 |
| 新規購読外国雑誌について | 4 |
| 図書館を使いこなそう   | 5 |
| 雑誌室が充実しました   | 6 |
| 教官寄贈著書とその紹介  | 7 |

**イギリス・ルネサンス期の知体験を再現する叢書**

The English Experience; its record in early printed  
books published in facsimile.

No.1-901. New York, Da Capo Press, 1968-77.

901 v. in 906. 16-38 cm. (083 書庫)

—— 大型コレクション購入の図書 ——

水之江 有 一

チャップマン訳『ホメロスのイリアス』(1611年)を手にして、「眼前に黄金の領域が広がる」と叫んだのはロマン派の詩人ジョン・キーツであった。時に1816年である。

1979年度大型コレクションとして大学図書館に購入された本叢書は901点からなり、上記の詩集を含んでいる。しかし『1475年から1640年までにイングランド、スコットランド、アイルランドおよび外国で印刷された英国の書籍の表題簡略目録』には約36,000点も収録されており、その数はまだ僅少なものにすぎない。この企画は1967年に始められたばかりで、毎年約70点ずつの割合で収録されている。この方面で現在進行中のものとしては、マイクロフィルム化の方が先行している\*。従来、作品の表題が作品の一部のみ引用によって知られていた「幻の名著」がこの企画によって陽の目を見ようとしている。研究者が海を渡って大英博物館に、オックスフォード大学ボドレイ図書館やケムブリッジ大学図書館に、あるいはワシントンのフォルジャー・シェイクスピア図書館やカリフォルニアのハンティントン図書館に、あるいは思い

も及ばなかった日本国内に、古の書籍を求めて旅をしていた時代はここに終りをつけようとしている。原著書のもつ本物の魅力、特に皮装丁の与える手ざわり、茶褐色の紙片とインクの消えかけた文字などのかもし出す雰囲気は、複製版のもつ機械の味気なさによって完全に失われているかもしれない。しかし複製された活字のもつ意味は、イギリス・ルネサンスのみならず近代社会の成立過程を考えていくうえで重要な資料を再現し、身近に提供してくれることであろう。

イギリスの国民にとってこの叢書に含まれた時代は、近代国家の成立と市民社会の形成期にあたる。ばら戦争が1485年に終結しランカスター家ヘンリーのもとでテューダー王朝が確立する。ローマ教会から独立することによって国際的にも自立していく。女王エリザベスの時代を経て、ジェームズ一世やチャールズ一世のステュアート王朝へと向かう政治的にも文化的にも極めて重要な時期である。国民の視野は国家の隆盛と活動領域の拡大にともない急速に広がり知識の量も増大し、さまざまな知体験を形成していくことになる。

ちょうど第二次大戦後わが国において、欧米の文化が一度に流入してきたように、ばら戦争で荒廃した人びとの心にキャクストンやその弟子たちの印刷し発行する書籍は渇きに会った水のように浸透していった。最初彼らは戦争前の時代を再興しようとした。国内においては『トロイアの歴史』や、国王および国家に関する歴史書であり、チャーサーやリドゲイトの残した古典であった。外国のものではシーザーの『ガリア戦記』、ヘシオドスの歴史書、アリストテレスやボエティウスの作品を翻訳する試みであった。しかし徐々に印刷する側と読者の側の眼は現代へ注がれていき、ルターやカルヴィンが大陸であげた宗教改革ののろしも活字を通して北方の島国に伝わってくるようになる。それに呼応してイギリスであげられるトマス・モアやエラスムスの反論、あるいはヘンリー八世をめぐる宮廷の動向も文書となって人びとの目にふれるようになる。国家と宗教をまきこむ論争の火花は、国教会の成立から清教徒革命に向かうなかで重要な役割を活字に負わせ、記録として数多くの書籍を今日のわれわれに残すことになった。そのなかにはリチャード・フッカーの書『教会政治の法』もあれば、ヘンリー・エインズワースやフランシス・ジョンソンなどによる組合教会主義ブラウン説関係の資料もある。ティコ・ブラーエやマキャベリの著作が翻訳されて、イギリス人の政治、文化・思想に与えた影響も見おとすことはできない。

天体に関する探究心も、実証的な科学や聖書にもとづく宗教観の主張とともに、新しい局面を迎えることになった。それは星の運行によって人間の運命を知ろうとするノストラダムスの占星術から、流星の出現を天文学的に記述した宇宙形状誌、望遠鏡や羅針儀の発展にともない天体観測の結果を克明に報告したカニングムの書、天文学の成果を日常生活に応用した暦書などに至るまで、中世においては神聖にして不可侵の領域とみなされていた天上界に人びとの眼を向けさせることに貢献した。それは人間にとって「救いの場」を天上界から地上へ引きおろす役目も担っていた。人間の知的関心と行動領域は陸地にとどまらず海上にまでもおよび、天体観測の技法は航海術の進歩を促し、緯度と経度の測定により「安全な港」を見

出す技法を船乗りの間に広めていった。このような状況のなかで、船乗りの体験談なり覚え書は初心者への入門書となり案内書となって重宝なものとされたばかりでなく、一般の人びとにとっても知的好奇心を満足させるものになった。

実用の書としては、陸地においても農耕、植物誌、牧畜の飼育や果実の栽培、薬剤とさまざまな方面で出版された。『わがイギリスの空気にあった心地好い花の咲く庭園』と題したパーキンソンの書を始め、肥沃な大地の有り様を伝えるマークス、果実の育成法を伝えるタヴァナー、さらには海外の植民地からもたらされたばかりの珍品たばこの育成に関する「忠告の書」までも出現する。

地上界に対する興味と関心は、人間の肉体までも探究の対象から除外しはしなかった。パニスター著『人間の歴史』は、人間の存在を一個の生命体として取扱い、人体解剖や外科医術に関する新しい情報をもりこみ、人間の視力や頭脳、骨格までもすべて動物学と同じ次元の分析記述の対象としている。一方では人間の内面史を新たな角度から再考しようとする試みも見のがせない。中世の写本にみられたように、この世で善行を重ねれば死後は天上界へ、また悪しき過ちのためには地獄へ堕ちるという宇宙構造と思考様式のなかで、人間の一生をとらえようとはしない。この現世においていかに生きるべきか、という問題の方が過去や来世よりも主眼になっている。その点で王侯貴族の鑑から庶民の鑑まで、理想の紳士像や淑女像を描いたものが現われる。そこには幼時から成年期に渡る教育の書も含まれる。なかでも有名なのはアスカム著『教師』であり、ラテン語学習を重視し、古典の教養を説いている。キリスト教や聖書による学習を説いたカルヴィンやエラスムスの著述も時代精神を反映したものとして、興味をそそる。ところがこの反面、愚行や海賊行為までも題材になっている。これらの悪漢ものは当時の海洋熱と密接に結びついたものであるが、パーサーが語る自伝は彼自身海賊であったことにより、実体験の生々しさが世の注目を引いた。そこには中世における聖人伝や反キリストの物語にみられた亡霊のごとき空虚さは消失している。天上界の事物に代わって異国や異文化に対する関心について言えば、ウォルター・ローリー卿によっても西インド諸島、

ヴァージニア、伝説の黄金国ギアナ、カデスなど世界の海を渡り巡った様子が語られる。遠征に出かける人びとのために、ジェラルドソンによってポルトガル語やスペイン語の辞書や単語集が編まれている。一般の人びとにとっても先進国フランスやイタリアの風物を取り入れることは、貿易商が南洋に西インド諸島に出かけていくのと同じように、流行になった。そのために文法書、参考書、はてはダンスの手引まで作られた。国家にとっては、領土争いが激化していくなかで、鉄砲や武器の使用法など図解入りで説明した案内書が兵士のために作られている。

文学や演劇の面では、シェイクスピアやスペンサーなど幾度も改訂の跡をとどめた傑作の影に隠れて、現代人の眼にはほとんどふれることのなかった作品、例えばパークレーの『愚者たちの船』、ボーモントの『たばこの変異』、ダンの『初期詩集』、ヘイウッド他訳の『セネカ悲劇10編』、ハリントン訳『狂乱のオルランド』など含まれており、当時の文壇の状況を再現する。パークレーにしてもハリントンにしても、彼らは単なる訳者として原本に忠実であったとはとても言えず、自由に手を加え創作に近い形にまで翻案している。このことは大陸で流行中の作品が当時のイギリスの社会にどのように吸収されていったかを物語る興味深い資料となっている。というのも訳に用いられた語法のみならず、訳者がいかなる部分を強調し、いかなる部分を切り捨てようとしたか、しかも翻案された作品を通して読者が何をどのようにうけとめていたかを知る手掛りを与えてくれるからである。

芸術や建築の面においては、もっと明確に時代精神なり時代様式を語ってくれる。ジェームズ一世の発した文書には聖ポール寺院改修を時の建築家イニゴ・ジョーンズに命じたことが記されている。音楽においては、チャンピオンの著作のなかに宮廷音楽に関する記述や楽譜がある。16世紀後半から17世紀中葉の時代は、ローマにおこったマニエリスムがロンドンに渡来した時代に相当する。ステュアート王朝の宮廷文化がどのような人びとに支えられ築きあげられていったか興味のある問題を提供する。

市民生活においては、海外での冒険談や新世界の発見を伝える「喜びにあふれた報告」が時代の

書であった。このような体験記や旅行記と並んで、国内の各地域ごとに編まれた地誌や地図も出版された。実生活に密着した風俗習慣を扱った書、「孤児のための法律」、「結婚した夫婦のための鑑」、「法律家の光」、「議会の特権」、「金貸しの実態」、「税金の歴史」など庶民社会の暮らしと人びとの意識形態を明らかにする。さらに手品やチェスの遊び方、乗馬や鷹狩の術までも読書の範囲に組み入れられていった。

グーテンベルクがマインツで活版印刷を始めたとき、最初に活字になったのは一段42行組の聖書で、所有主の名をとって今日「マザラン聖書」と呼ばれている。この事実が端的に示しているように、書籍の流通を支えていた階層は15世紀の後半においては僧侶階級であり、やがてこれに宮廷人と大学に集う学者たちが加わった。ところが印刷術の発達是一部の知識階級に限定されていた書籍を一般の人びとに解放した。その結果、聖書や礼拝形式をもちこんだ祈とう書など、宗教関係の出版物であり教育の媒体であった書籍が、16、17世紀における読者層の拡大とともに質的に変容する。内容も高度の学問をもちこんだものから日常の話題を扱ったものまでも加わり、教養の書から娯楽の書へと範囲を広げていく。極端な場合には、『愚者たちの船』の冒頭に登場する人物のように、書籍の内容を理解せずに物品的価値の方を重視する者まで現われてきた。今日においても一部にはそういう読者層がみられる。プラントやパークレーとともに嘆かざるをえない。この叢書こそ知識の普及に役立ってほしいものである。

(人文学部助教授)

- \* Early English books 1475-1640, selected from Pollard and Redgrave's short-title catalogue; cross index to reels.  
Ann Arbor, Mich., University Microfilms, 1972.  
336 reels. 35 mm.  
Microfilm(positive)  
Contents: 一 (運用係備付) 目録  
人文学部英文学研究室備付



## 新規購読外国雑誌について

文部省配当の外国雑誌(自然系)購入費は、本学へは予算化されて以来、毎年度 175 万円が配当されてきましたが、昭和54年度、あらたに 125 万円の増額が認められました。この増額分の計画について、昨年10月、各部局あて選定をお願いしました結果、次の雑誌が新規に購入されることとなりました。これらの雑誌は、学内共同利用に供するという方針のもとに、関係部局に所在する各図書館に備えつけられます。

| 備付<br>箇所                                                        | 誌 名 (国名)                                               | 備 考                                                | 備付<br>箇所                                       | 誌 名 (国名)                                                                                         | 備 考   |
|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 附<br>属<br>図<br>書<br>館<br>(<br>西<br>千<br>葉<br>地<br>区<br>)        | Cahiers juridique de<br>L'electricite et du gaz. (FRA) | 人文学部                                               | 亥<br>鼻<br>分<br>館<br>(<br>亥<br>鼻<br>地<br>区<br>) | Journal of Gerontological<br>Nursing. (USA)                                                      | 看護学部  |
|                                                                 | Le Moniteur des Travaux et du<br>Batiment. (FRA)       |                                                    |                                                | Journal of Obstetric Gynecologic<br>and Neonatal Nursing. (USA)                                  |       |
|                                                                 | Bild der Wissenschaft. (DEU)                           |                                                    |                                                | CCQ: Clinical Care Quarterly. (USA)                                                              |       |
|                                                                 | Morbidity and Mortality<br>Weekly Report. (USA)        | Heart and Lung; Journal of<br>Clinical Care. (USA) |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | Journal of Solution Chemistry. (USA)                   | Journal of Neurosurgical<br>Nursing. (USA)         |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | CRC Critical Reviews in<br>Microbiology. (USA)         | 教育学部                                               |                                                | Journal of Theoretical Biology. (GBR)                                                            | 活性研   |
|                                                                 | Ultrastructural Pathology. (USA)                       |                                                    |                                                | Annals of Plastic Surgery. (USA)                                                                 | 附属病院  |
|                                                                 | JETP Letters. (USA)                                    |                                                    |                                                | Hypertension. (USA)                                                                              |       |
|                                                                 | Israel Journal of Chemistry. (ISR)                     |                                                    |                                                | Scanning: International Journal of<br>Scanning Electron Microscopy<br>and Related Methods. (USA) |       |
|                                                                 | Journal of Mammalogy. (USA)                            |                                                    |                                                | Journal of Infection. (GBR)                                                                      |       |
|                                                                 | Auk. (USA)                                             | Journal of Inherited Metabolic<br>Disease. (GBR)   |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | In Vitro. (USA)                                        | Journal of Neuroscience<br>Methods. (NLD)          |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | 地質学報 (中国)                                              | Journal of Radioimmunoassay. (USA)                 |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | Geology. (USA)                                         | Research on Aging. (USA)                           |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | 古生物学報 (中国)                                             | Ultrasonic Imaging. (USA)                          |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | Lithos. (NOR)                                          | International Journal of<br>Biometeorology. (NLD)  |                                                | 園芸学部                                                                                             |       |
| Norsk Geologisk Tidsskrift. (NOR)                               | Field Crops Research. (NLD)                            |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
| Canadian Mineralogists. (CAN)                                   | Science of the Total<br>Environment. (NLD)             |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
| Hoppe-Seyler's Zeitschrift für<br>Physiologischen Chemie. (DEU) | Park Maintenance. (USA)                                |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
| International Journal of<br>Man-machine Studies. (GBR)          | Acarologia. (FRA)                                      |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
| Building and Environment. (GBR)                                 | (園芸学<br>部<br>分<br>区<br>分<br>館)                         | 計                                                  | 51タイトル                                         | 1,319,350円                                                                                       |       |
| Chemistry and Industry. (GBR)                                   |                                                        |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
| Simulation. (USA)                                               |                                                        |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
| Journal of Cristal Growth. (NLD)                                |                                                        |                                                    |                                                |                                                                                                  | 教 養 部 |
| European Neurology. (CHE)                                       |                                                        |                                                    |                                                |                                                                                                  | 医 学 部 |
| Journal of Experimental<br>Zoology. (USA)                       |                                                        |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
| 亥<br>鼻<br>分<br>館<br>(<br>亥<br>鼻<br>地<br>区<br>)                  | Nursing Care. (USA)                                    | 看護学部                                               |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | Pediatric Nursing. (USA)                               |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | Cancer Nursing. (USA)                                  |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | Research in Nursing and<br>Health. (USA)               |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |
|                                                                 | Topics in Clinical Nursing. (USA)                      |                                                    |                                                |                                                                                                  |       |

## 図書館を使いこなそう

特に広くもなく、蔵書数も図書館としては多いほうではありませんが、それでも自分の勉強部屋と違って、千葉大学附属図書館本館は8つの閲覧室、3層の書庫、約45万冊の図書、雑誌から成っています。閲覧者サービスのカウンターも三つあります。初めて来館された方はどこにどんな本があり、どこで何をたずねればよいかさっぱりわからないと思われることでしょう。以下簡単に図書館のご案内をいたします。あとは自分の足で館内をひとまわりして、書架を眺めてください。思わぬ所に思わぬ本が見つかることでしょう。

図書館のしくみを知り使い方をマスターして、ここにある本も、そしてない本も充分に活用してください。

### 1. 各カウンターの仕事

#### 受付カウンター 内線2212 (運用係)

入退館手続き、図書の貸出、返却、貸出に使う利用者カードの発行

#### 参考カウンター 内線2216 (参考調査係)

図書、図書館の利用に関する質問、図書館蔵書の複写、他館への複写申し込み、他館利用紹介状の発行、国立国会図書館への借用申し込み、購入希望図書に関する問い合わせ

#### 雑誌カウンター 内線2214 (学術情報係)

雑誌に関する質問、雑誌論文の探し方、TOOL-IR、JOIS 検索申し込み

ほかに教官に対しては事務室で次の業務を行っています。

**受入係** (内線2207、2208) 研究室備付図書雑誌の購入に関すること、製本に関すること

**整理係** (内線2210) 研究室備付図書の引渡し、返却

**学術情報係** (内線2214) 研究室備付雑誌の引渡し

### 2. 閲覧室、書庫の配置

#### 2階

**指定図書室** 教養課程の教官が指定した、授業に関係の深い図書が、課目ごとにいらんでいます。

**教官閲覧室** 教官用の座席とマイクロフィルム、フィッシュのリーダープリンターがあります。

リーダープリンターの使用は参考カウンターに申し込んでください。

**参考室** 参考図書のうち、書誌、蔵書目録、出版目録、名鑑類がおかれています。電話帳もここにあります。

**雑誌室** 一般教養的な雑誌の54年以降のものがおかれています。雑誌記事を探す索引もあります。

#### 3階

**社会科学科学技術室、人文科学室、文学室** それぞれの分野の一般図書と参考図書がおかれています。文学室には美術書コーナーと小型本ガラスケースがあります。読み終わったら一般図書は書架脇の返本台へ、参考図書は元の場所へ戻してください。場所が狂うと次の人が探せません。必ず守ってください。

**参考図書コーナー** 語学辞書、百科事典、地図、法例集、J I S、年鑑、白書、統計書があります。奥には一般図書の資料集、小中高の教科書、総記の図書があります。

**書庫** 書庫へも自由に入れます。一層は和雑誌、2層は洋雑誌、洋書単行書、3層は和書単行書となっています。

### 3. 蔵書目録の使い方

図書館で何か本を探すとき、主題の見当をつけて書架を端から端まで見わたすことができるのも、開架式図書館のいいところですが、自分の思った主題と違う所に分類されていたり、貸出中だったり、同じ主題の本が書庫や閲覧室にわかれていたたり、同じ閲覧室でも大型本や小型本で別の場所にあったり、あるいは全集に収められている場合には、ある本もみつからないことがあります。多くもない蔵書です、あきらめる前に目録をがっちり調べてある本は徹底的に利用してください。

さて、当館のカード形式の蔵書目録は2階雑誌室には西千葉地区雑誌目録、3階にはそれぞれ和洋別の図書館、研究室、分館の単行書目録があります。よく使われる図書館の目録について、いくつか留意してほしい点があります。

1) 目録カードの手前にある台形のカードには図書の置き場所を示してあります。台形カードの

ないものは書庫にあります。

2) 書名目録は1970年度以降に受入れた図書の目録に入っています。1969年以前に受入れた図書で著者編者が4人以上のものや叢書は著者目録に書名で入っています。1970年度以降に受入れた図書で著者の読み方や西洋人で綴りのわからないものは書名からも探せますが、1969年以前については調べなくてはなりません。人名辞典で調べてもわからない場合は参考調査係におたずねください。

3) 伝記資料や作家論、作品論については被伝者からも探せます。著者目録でひいてください。

4) 独立した著作で全集や叢書に収められたものは個々の著作からも探せます。文学作品は著者

で、それ以外は書名でひいてください。ただし1冊に作品が多数のものや狭い分野を扱った講座のものは省略しています。

5) 分類目録を使う際、言葉から分類番号をみつける手段として、「分類目録索引」という表がカードボックスの側にあります。

図書館蔵書目録でみつからなければ研究室、分館の目録もみてください。それにもなければ参考室で学外の図書館の蔵書目録を調べてコピーを依頼したり、国立国会図書館から借りたりすることもできます。

目録を上手に利用して求める本を探しあててください。

## 雑誌室が充実しました

国内発行の雑誌68タイトルが新たに購読され、雑誌室に展示されています。(※印は3階軽読書コーナー) これで雑誌室には411誌(国内285, 外国126)が常時備付られることになります。このほか直接書庫に収められる雑誌は大学の紀要研究報告、複製雑誌、バックナンバーなどあり、約3000誌が収蔵されています。

### イラストレーション

栄養と料理

エネルギー

エスペラント

海外労働時報

開発と公害

科学史研究

かんきょう

官公庁公害専門資料

気象

教育調査

基督教研究

経営評論

経済学雑誌

経済学文献季報

経済研究

経済評論

経済論叢

月刊現代

月刊ことば

月刊細胞

月刊障害児教育

月刊シルクロード

月刊地球

月刊廃棄物

月刊福祉

月刊陸上競技

現代農業

工業英語

厚生

心の健康

国華

サイコロジー

実業の日本

宗教研究

住民と自治

実験新報

植物と自然

人類学雑誌

新住宅

新都市

生活と環境

青少年問題

生物物理

蛋白質・核酸・酵素

地図

地理学評論

手づくりライフ

テニスマガジン \*

電子技術

都市問題

土木技術

日本の美術

農耕と園芸

発明

ハッピーエンド通信 \*

ぴあ \*

星の手帖

水

留学と会話

歴史研究

歴史地理

歴史と地理

労働法律旬報

Business English

Electric Company

Japan Quarterly

Screen English

## 教官寄贈著書とその紹介

図書館では、これまで本学教官の著書を寄贈していただいておりますが、今後ともご刊行の際は寄贈させていただきますようお願いいたします。寄贈された図書は、本誌で広報します。なお、寄贈については受入係担当です。

下記は、昭和54年10月～55年1月に寄贈された著書(図書館備付)とその紹介です。

### 石川格 (園芸)

図解庭木花木の手入れ12ヵ月 石川格著 誠文堂新光社 昭54 162p 21cm 627.7 開架

固苦しい文章は一切なく、全部絵と解説による手入れごよみ、花ごよみで庭木の一年の状態が一目で判り、特に花木の開花期は生物季節の観測データで地域差が判るようになっている。

### 内海滉 (教育)

心のメカニズム——脳のはたらきを探る—— C.ブレイクモア著 内海滉ほか訳 講談社 昭54

153p 19cm 491.37 開架

英国BBC放送が行った教育講座の中で最も評判のよかった大脳生理学と心理学の分野をまとめたもので、文化、歴史、社会機構などあらゆる一般の人びとの日常生活の面が、本書の中で扱っている現象と深いつながりがありそのまま役立つ。

身近な医学——医学は何を解決できるか—— W.

パウノウスキー著 内海滉、稲垣義明訳 講談社

昭53 212p 19cm 490.4 開架

健康な人々のために現代医学の概要を紹介、とりわけ心と身体のバランスやシステムについて懇切に解説してある。また高齢者特有の悩みや精神医学、妊娠、出産などの身近なテーマについても解説が加えられている。

### 小郷寛・美多勉 (工学)

システム制御理論入門 小郷寛・美多勉共著 実教出版 昭54 216p 22cm 501.9 開架

工学の多くの分野、社会、経済学などの共通基礎とも利用されるシステム制御理論を平易に解説したもので、設計法として利用できるように配慮した。大学学部・工専の学生およびシステム制御理論を利用しようとする技術者の入門書に適している。

### 木下安弘 (医・保健)

XYZからの心電図入門——QRS—T解説の手引き——I. Hoffman 著 木下安弘・小川道一訳 地人書館 昭52 75p 18cm 開架

著者が豊富な知識と経験を基にして、高価なベクトル心電図の装置がなくてもごく普通のスカラー心電図からベクトルの動きが必然的にわかっていくように書かれた。単なるスカラーの又はベクトルだけの心電図入門書ではなく、本来一つであるこの両者を時に応じ自由自在に組み合わせ、考え方の基礎がのみこめるよう懇切平易に解説された書である。

薬物相互作用の臨床 L. E. Cluff, J. C. Petrie 編

木下安弘ほか訳 地人書館 昭54 240p 27cm

492.3 開架

現在欧米の臨床薬理学者がその豊富な臨床の知識と経験を持ち寄って、薬物による相互作用について現実に直面する臨床の諸問題とこれを取りまく複雑な医療環境における医療品の取扱い方などの面からとらえた書である。

### 中森義宗 (教養)

パッラーディオの建築 ジェームズ・S・アッカーマン著 中森義宗訳 彰国社 昭54 211p 19cm

523.6 開架

ルネサンス建築がめざした機能性、堅牢な構造、美的外観などの目標は建築家パッラーディオにおいてきわまり、又理論面でも国際的に広く長期にわたり影響を与えた建築家は少ない。没後400年を控えパッラーディオ熱は高まっているが我国ではほとんど彼の紹介はなされていない。本書は、彼をさまざまな面から描き出そうとするもので初心者用に組まれているので入門書として最適である。

### 村山元英 (人文)

企業文化論の提唱 名東孝二編著(4・5章：村山元英執筆) 新評論 昭54 238p 20cm 335 開架

これまでの定説であった企業経営の本質観——〈営利本位説〉——をより妥当性の広い一般理論への発展をひとつの課題として提起する。ここでは三つの形、地域化、人間化、社会貢献度をもって企業文化論の内容を表現している。

日本の経営の構築 村山元英ほか編著 ビジネス教育出版社 昭54 359p 22cm (叢書・現代経営学の課題・1) 335 開架

日本の日本的経営観でなく、マネジメント経営を正しく理解すること、さらにそれをわが日本に導入し根付かせ、日本で芽生えから日本の経営に育成し、熟成の域でどのようにして育成・教育すべきかをとりあげたものである。

わが家の日米文化合戦 村山元英著 PHP研究所 昭54 236p 19cm 361.6 開架

国際経営論を専門とする著者が、アメリカ人の奥さんとすごした15年の記録であり、著者は日米の生活文化の違いを農耕民族と狩猟民族、伝統の文化と自由の文化に求めるが最も興味をひかれるのは、著者夫妻が二重言語教育を試みた4人の子どもの成長過程である。

### 永田喬 (工学)

イメージバースペクティブデザイン——経験的作図法と科学的作図法のかけ橋——永田喬著 美術出版社 昭54 209p 30cm G757.2 開架

作図の科学としての「図学」的論理と作図者が描こうとする意図の諸条件を同時に満たす事を目標とし、経験と科学的方法を結びつけ意図を表現すること作図と造形的思考活動を同時に可能にする図法についてのべている。



## 昭和55年度 閲覧業務日程予定表

| 区 分                                     | 4    | 5 | 6 | 7     | 8                   | 9    | 10    | 11               | 12                  | 56 1 | 2     | 3                  |
|-----------------------------------------|------|---|---|-------|---------------------|------|-------|------------------|---------------------|------|-------|--------------------|
| 平 常 開 館<br>9:00—16:30<br>9:00—12:00     | 1(火) |   |   |       | 9(土) 25(月)          |      | 31(金) | 6(木)             | 23(火)               | 6(火) | 28(土) |                    |
| 時 間 外 開 館<br>16:30—20:00<br>12:00—16:30 | 7(月) |   |   | 19(土) |                     | 1(月) | 31(金) | 6(木)             | 23(火)               | 6(火) | 21(土) |                    |
| 休 館 日                                   |      |   |   |       | 11(月) 23(土)<br>図書検閲 |      |       | 1(土) 5(木)<br>大学祭 | 24(火) 5(月)<br>年末 年始 |      |       | 2(月) 31(火)<br>移転準備 |

55年度は上記のように開館する予定です。種々の質問への回答や文献探索案内、文献複写、書庫内図書と雑誌バックナンバーの閲覧は16時30分(土曜日12時)で終了しますが、時間外(夜間)開館期は貸出返却等は20時(16時30分)まで行っています。

## 本を貸りるには

1. 利用者カード交付手続票(マークカード)を出してください。
2. 利用者カードをもらってください。  
卒業年月まで使いますので大切に扱ってください。
3. 借りたい本と利用者カードをカウンタ係員に出してください。このときすでに3冊(4年生8冊、院生10冊)借りていると貸り出せません。  
返却は本をカウンタ返却窓口へもってくるだけでよいです。

このように貸出返却カウンタにコンピュータ端末が備えつけられて新しい方式が始まって1年た

ちました。利用する方にとっては便利になったことと思います。その利用しやすさのあらわれでしょうか、貸出冊数がこれまでよりずっと多くなり、前年(53年度)に比べ45%の伸びとなっています。これほど多くの本が利用されることになって、職員一同うれしい悲鳴をあげています。

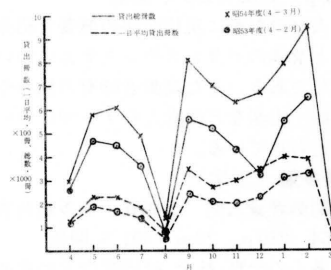
このディスプレイ端末を使って自分の借りているのは何冊で、いつ返すのか、書架にない貸出中の本はいつ返されるのかという問合せや、貸出予約もできます。

ですが、期限内に本を返さない方が何人かおられます。期限を守らないことは、遅れた日数分他の本が貸りられないばかりでなく、その本を貸りたいと待っている人にも迷惑になります。期限を守ようお願いいたします。

利用者カードは学生教職員の約80%の方に発行しております。

## 利用者カード発行状況 (昭和54. 4～55. 3)

| 所属   | 79年入学 | 78年入学 | 77年入学 | 76年入学 | 留年生等 | 小計    | 院生等 |
|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-----|
| 人文学部 | 293   | 207   | 223   | 218   | 18   | 969   | 8   |
| 教育学部 | 570   | 490   | 526   | 514   | 26   | 2126  | 13  |
| 理学部  | 155   | 137   | 122   | 126   | 24   | 564   | 52  |
| 医学部  | 115   | 75    | 41    | 33    | 20   | 284   | 8   |
| 薬学部  | 81    | 59    | 59    | 57    | 1    | 257   | 15  |
| 看護学部 | 60    | 58    | 45    | 38    | 1    | 202   | 2   |
| 工学部  | 601   | 400   | 453   | 392   | 28   | 1874  | 143 |
| 園芸学部 | 200   | 149   | 61    | 15    | 2    | 427   | 6   |
| 教職員  |       |       |       |       |      | 1046  |     |
| 総計   |       |       |       |       |      | 7996名 |     |



## オンライン文献サービス

JOIS (JICST Online Information Service)を開始しております。理工学・化学・医学関係のデータベースをオンラインで検索できるものです。詳細はパンフレットを用意しておりますので、お申し出ください。

## 人事異動 (4月1日付)

次の方が新しく着任されました。

沼田 真 (図書館長)

## 非 公 開

## 増築工事について

図書館増築工事が始まって皆様には大変ご不便をおかけしています。4階建てで、竣工は来年2月の予定、完成後は現在のほぼ2倍になり、9月には新館で業務開始の予定です。しばらくの間、ご迷惑をかけますがご協力よろしく申し上げます。

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.17 1980. 7

|              |   |
|--------------|---|
| 本の思い出        | 1 |
| 「田中文庫」が語りかける | 3 |
| 資料紹介         | 4 |
| 雑誌論文を探すには    | 6 |
| 教官寄贈著書とその紹介  | 8 |

## 本の思い出

沼田 真

私は父の勤めの関係で戦前から千葉に住んでいたが、その最後の住居は、現在の千葉駅前東京電力千葉支店のあたりにあった。当時の私のささやかな蔵書もその家においてあり、応召して水戸の連隊にいた私は時々帰宅しては何冊かの本を持ち帰ったり、欲しいものを注文したりしていた。しかし戦局があやしくなった昭和19年に思いきって茨城県の祖父の蔵にトラックで運んだ。千葉市空襲の折に私の家は焼け、父も焼夷弾の直撃で亡くなってしまった。復員してしばらく農家の一室を借りて2年ほどを過したが、その時戦災をまぬがれた私の蔵書はまさに旱天の慈雨のごときものであった。戦前から私はゲーテの植物学やA・フォン・フンボルトの業績にとりつかれていたが、集めたいろいろな文献をよみつつ、生物学史、生物学基礎編、生態学方法論を考えるのが、当時の最大の楽しみであった。蔵書が助かったおかげで、復員後の生活の苦しい時にも心はまことに豊かであった。その後、昭和22年に「生物哲学概論」（校正刷ができて未刊）、23年に「生物学論」、24年に「ゲーテの植物学」（論文）などを書き、28年には「生態学方法論」がまとめられた。この間にはミネソタ大学のクーパー教授（当時）が、ス

イスのリューベル、フランスのブロン・ブランケの研究所などの文献が入手できるように計らってくれた暖かい配慮を忘れることができない。

このころはまた古本屋に珍しい本がたくさんでる時代で、アメリカのクレメンツ、デンマークのラウンゲアその他、私が大きな影響を受けた生態学者の1900～1930年代の本やモノグラフは大方そのころ集められたものである。中でもクレメンツがもう一方の雄のカウルスに贈呈した署名本には胸をおどらせたものであるが、どうしてこういう本がころがっているのか不思議でたまらず、お節介にも古本屋を次々とたずねてそのもとを調べたことがあった。するとシカゴ大学でカウルスの同僚であった日本人の植物学者山之内繁雄氏が進駐軍顧問として日本にこられ、何かの折に売り払われたものであることがわかった。

その他、石川千代松、山羽儀兵氏らの蔵書が売りに出された時に購入したこともあるし、私の蔵書についての思い出はつきない。シャクセルの「生物学における理論形成の基礎」とか、ユクスキェルやベルタランフィーの「理論生物学」はそのころ手にいれたものであった。神田の古書展で18世紀の生態学創始時代

のイギリスの本（ここには「自然の経済」というダーウィン流の考え方が早くもでていて面白いが、英語の綴りや字体で現在と異なるものがある）を探しだしたが一体どんな人がこういう本を購入して日本にもち帰ったのか（あるいは他のルートもあるかもしれぬが）、不思議でたまらない。

1963年ヒマラヤへいったとき、行きも帰りもカルカッタにしばらく滞在したが、そのオックスフォードという書店にいったところ、古い本がほこりをかぶっている書棚があった。それを調べてみると今では容易に手に入らない文献がぞくぞく出てきて胸がおどった。20～30年前に仕入れた時の値段がついていたが、きいてみるとその値段でうというので尚のこと興奮したことを思い出す。このごろ「ヒマラヤ紀行」が訳出されて評判になっているJ.D.フーカーの数十年前の小冊子もその時にみつけた。

シンガポール植物園図書室の貴重書の棚をあけてみせてもらったら、進化論の古典「動物哲学」で有名なラマルクの「フランス植物誌」があったり、リオデジャネイロの図書館で、植物生態学の古典、デンマークのヴァーミングの初版本をはじめてみたのものなつかしい思い出である。

3年ほど前インドネシアのボゴールの図書館へいったところ、フリの外人である私が自由に入れて、しかもカードで17～19世紀の生態学の古典をみつめて申しでると10分ほどで現物があらわれるのには驚いた。私からすれば最高の貴重書に類するものが簡単に借り

られるのである。1日しか余裕がなかったので必死になってメモをとってきたが、これはドイツ、オランダ時代の遺産らしい。ヨーロッパならともかく、日本ではまず見られないすばらしい文献を所蔵していた。しかも、いとも簡単に利用できるのも、本当にびっくりした。

最近私は中国科学院の図書館をみる機会があったが、きくと文化大革命の時に約1/6の本が紅衛兵などによってもち出され、今まで補充・修復に大変だったという。しかし現在のはじつによく文献をそろえているのに感心した。

本にまつわる私の思い出をとりとめもなく書いているときりがないので、この辺でひとまずペンをおくこととしたいが、座右に本さえあれば孤独ということはない。本はまことに終生の友であり、本を書く人の勉強や苦勞を思うと、世の中にこんなに安いものはないと思う。

\* \* \* \* \*

「図書館報」に何か書くようにいわれて、本にまつわる思い出で責めをふさごうと思ったら、図書館長新任の弁をかくのだと注意してくれた人がいる。しかし図書館協議会の議事録みたいなことを力んで書いてみたところで何の面白味もあるまい。図書館は要するに本を愛し、これを利用する人たちのものだと思う。いささか私的な話に流れすぎたかとも思うが、いい図書館をつくり上げていく願いをこめて、あえて挿話的な一文を草した。

（附属図書館長）

## 田中文庫の設置について

故田中英明教授の蔵書 1,040冊は、ご遺族の厚意により、本館へ寄贈されました。内訳は、和書 703冊、洋書 337冊です。本館では田中文庫と命名し、これを書庫内の一部に設置しました。7月1日現在、和書の整理を完了しました。秋までには、洋書の整理も終え目録を作る予定です。なお新館落成の際は、本文庫は、コレクション室に移される予定です。



## 「田中文庫」が語りかける

村山元英

故田中英明教授が集められた図書に驚きの目をみはった。蔵書には、その人の歴史が静かに語りかけるものがある。亡き先生が蔵書の中に生きていた。

古本屋が血眼になって探している、馬場敬治著『組織と技術の問題』（昭和16年）もでてきた。先生の名著趣味がほうふつとする。半世紀になる日本経営学会の潮流を感じさせる名著のコレクションに、故田中教授の学問への基本的姿勢が滲みでる。

恩師の学問を継承しようとする意気込みも亡き先生の蔵書から感じとれた。故田中教授は、慶応義塾大学、小高泰雄博士（昭和44年没）の門下生で、恩師の著書を、細心の注意をもって、とりこぼしなく収集されていた。ドイツ経営学の巨大な潮流に沿って、経営経済学、会計学、企業論、産業論に関する先駆的研究者の一人である小高教授の著書が、亡き先生の遺産として、千葉大学に残された。本学に経営学関係図書が少ないだけに、このような名著の基本図書と、価値ある特殊図書の御寄贈は、言葉にできない感激を生みだした。

田中蔵書の特色は、それだけではない。「労務管理」と「生産管理」と「経営管理総論」の講座を担当されていた先生は、主として昭和40年代以降のその分野における蔵書の中を急速に広げられていた。もちろん、その頃の先生は、田中工業（社長は実兄の田中聖賢氏で、千葉工業大学の理事をされている）の専務取締役をされていて、それまでの実務経験を素材にして、いよいよ本格的に、田中理論の形成期に向かわんと情熱を燃やしていたにちがいない。総じて、この三分野におけるノウハウ書よりも、理論書が多いのに驚かされた。先生は残念だったにちがいない。これから何かをまとめてみようという気構えが、そこにも、静かに語りかけてくる。

先生は、ドイツに出かけては、得がたい良書を集めておられた。アメリカからも、高価な本を取りよせていた。一流趣味の先生の収書図書には、屑がない。ペンを誰よりも愛され、シューベルトを魂で愛された先生は、蔵書にも、金に糸目をつけなかった。E・グーテンベルグから、E・グラッホラにいたるまでのドイツ経営経済学の名著の中に、K・マルクスの「資本論」（1953年版）もしっかりあるので面白い。もちろん、ドイツの最近の経営学をつくりかえている。意志決定論学者、E・ハイネンの著書も、そのコレクションにおさまっていた。

アメリカからの蔵書には、科学的管理の創始者、F・テーラーから、最近の条件理論を唱えるH・クンツにいたる、経営管理の流れをオーソドックスに追い求める先生の姿勢が反映していた。ところどころに組織論関係の好著もその流れに散りばめられ、評論家、P・ドラッカーの著者にまでも気を配って、田中蔵書は成り立っていた。

先生の最も得意とする「生産管理」の分野から、先生は、経営の中の人間性と社会性を求めて、脱出の努力を試みられてきた。その闘いが、田中蔵書のもう一つの流れをつくりだしている。企業の職能過程論についての本と併行して、企業の社会的責任論をめざす関係の蔵書も数多い。「田中」経営学が求めたものは、決して、重箱のはじをつつくようなものではなかった。御自分の給料をかえりみず、しかも御自分の生命のとぎれることさえもかえりみず、遠大な研究心にかりたてられるままに先生は、名著を買いあさってこられた。もののけにとりつかれたように。それは誰のためのものだったのだろうか。なにやらものかなしいかぎりである。

（人文学部助教授。）



## 資 料 紹 介

### National Union Catalog

1. 1956 through 1967. 125巻 Totowa, N.J.  
Rowman and Littlefield, [c]1970-1972.
2. 1968-1972. 115巻 Ann Arbor, Mich.,  
J. W. Edwards, 1973.
3. 1973-1977. 135巻 Rowman and  
Littlefield, 1978.
4. 1978. 16巻 Washington, D. C.,  
Library of Congress, 1979.
5. 1979- Library of Congress.

アメリカの議会図書館（以下LCと略す）を中心としたアメリカとカナダの図書館の総合目録で、図書、パンフレット、地図、逐次刊行物を含んでいる。加盟館は1956から1972年までは約950館、1973年からは約1100館となっている。巻数でわかるとうり、膨大な数の資料が載っている。蔵書目録であるから、著作権取得のためLCに納められたものはもちろん、期間中に加盟館で受入れた外国の出版物も載っている。LCは一定の収書方針のもとに外国出版物を組織的に集めているので、収録点数はむしろ外国のもののほうが多い。

発行頻度は月刊をもとに季刊、年刊、5年刊と累積版が作られ、新しい情報を得る便と、少し時間がたった時点での探しやすさとの、両方の要求にこたえてくれる。閲覧室には、1956-1967のみあり、それ以降のものは事務室にある。

構成は基本的には著者目録で、個人名、団体名、会議名、国名、都市名等のアルファベット順となっているが、著者が4人以上のものや、書き下しの論文集等で書名が見出しとなっているものもある。参照が豊富で、本に記載されている著者名と目録上採用した著者名の形が違う場合、編者がいっても見出しとなっていない場合、団体名、会議名、個人名、何が見出しになっているか紛らわしい場合、共著者がいる場合等、それぞれから本来の記入へと導いてくれる。しかし、普通の意味での書名索引はついていない。個々の記入は千葉大図書館と同じ目録規則によっているし、ローマ字以外の文字の翻字法も同じなので、使う上でとまどうことはないであろう。

使いみちとしては、総合目録本来の使い方である、所蔵先を調べて複写を依頼するといったこと

のほか、著者目録であることからある著者のその期間中の著作目録としても使える。各国の出版物が載っているので、翻訳されたものもわかる。また著者名、書名、出版者、出版年、シリーズ名といった書誌的事項の確認にも使うことができる。何かに引用された文献の書誌的事項が不完全だと当館で所蔵していても、その文献を目録で探せない場合がある。わかっている手懸りで探して見つからなければ、このNational Union Catalogや書名で引けるCumulative Book Index 等の手段で当たってみる。会議録は探しにくい資料の一つであるが、会議名、主催団体名、編者名、書名を調べるのにこの目録は威力を発揮する。これでみつけた新たな手懸りで、当館の蔵書目録や、日本の主な図書館52館の洋書の総合目録である国立国会図書館編の「新収洋書総合目録」に当たってみると、所在がわかることもある。

とにかく、収録範囲が広く、点数も多いので、いろいろ使いみちのある、頼りになる目録である。

### ロシア語の百科事典

Энциклопедический Словарь.

Лейпциг, Ф. А. Брокгауз; С.-Петербург, И. А. Вфрон, 1890-1907.

本巻82巻 補巻4巻

革命前の百科事典で、ペテルブルグのエフロンとドイツの Brockhaus が共同で出版した。当時の一流の学者達によって執筆されており、出版開始から一世紀近くたった今日でも、革命前ロシアを知るために利用されている。

Большая Советская Энциклопедия.

ソ連邦中央執行委員会幹部会の決議によって刊行されるようになった百科事典で、いうまでもなく社会主義的観点で貫かれている。1926年の初版以来、今日まで二度版を改めているが、それぞれの時代を反映した編集方針によっており、旧版も資料的価値を失っていない。例としてスターリン(1879-1953)の項目を比べてみると、その時代性が明らかになる。初版では記述が実に44ページほかに1ページ大の写真が14枚、2版は6ページ、1ページ大の写真1枚、3版は1ページ半、写真の大きさは並の人と同じになっている。評価も2

版ではまだ最上級の形容詞を使って最も重要な活動家、マルクスレーニン主義のすぐれた理論家となっているが、3版は指導者の一人、すぐれた理論家、宣伝家と表現を変えている。各版ともソ連邦に関することが1巻にまとめられている。

初版 65巻 別巻ソビエト連邦 Москва, Советская энциклопедия, 1926-1947.

項目数約6万5千項。記事に署名がある。

2版 51巻 索引2巻 Москва, Большая советская энциклопедия, 1950-1958.

項目数約9万6千。記事に署名はない。

3版 30巻 索引未刊 Москва, Советская энциклопедия, 1970-

項目数約10万

なお第3版の英訳として Great Soviet Encyclopediaがある。全30巻のうち23巻まで受入れしている。巻ごとの翻訳なので、たとえば英語のAで始まる語は各巻に散在しており、利用には索引が必要である。

## 地形図

|         |             |       |
|---------|-------------|-------|
| 日本      | 1 : 25,000  | 4401面 |
|         | 1 : 50,000  | 1249面 |
| イギリス    | 1 : 50,000  | 204面  |
| 西ドイツ    | 1 : 50,000  | 562面  |
| スイス     | 1 : 50,000  | 78面   |
| フランス    | 1 : 50,000  | 1107面 |
| オランダ    | 1 : 50,000  | 112面  |
| アメリカ合衆国 | 1 : 250,000 | 627面  |

上記のものはいずれも一枚ものの官製地形図である。日本のものは3階南側窓側にあって自由に見られるが、外国のものの利用は参考カウンターに申し込んでいただきたい。

それぞれの地域の地形の特色が鮮やかに表現されていて、見事であり、見あきない。旅行の準備、調査研究のためばかりでなく、文学を読む際傍に置いて見ると、さらに想像力がふくらんで楽しいものである。

以下、特色のある何ヶ国かの地図をご紹介します。

**日本** 後に述べる外国のものと比べると、ひどく地味で、見る地図というより目をくつつけて読む地図といった感がある。5万分一には4色刷もあるが、色を面として使っているのは水色の水面だけで、緑色の細い線で表わされている植生界など

よほど注意しないと気がつかず、色が生かされていない。

当館では昭和20年代の初期から2、3回にわたって5万分一を更新しているので、旧版ご利用の方は申し出てほしい。なお明治時代からの官製地図を、部分的ではあるが、地域ごとに時代を追ってまとめたものに、最近完結した「日本図誌大系」全12巻がある。

**イギリス** 大型で日本の地形図の約3倍あり、色数も7色刷で賑やかである。道路の情報が詳しく、等級別に青、赤、黄と色わけしてあり、また人と馬しか通れない道も区別されている。市街地の道路も詳細に描かれている。旅行者のために、観光の見どころ、キャンプ場、インフォメーションセンターの表示もあり情報が盛り沢山である。反面土地利用の区別は大まかで、畑地も牧草地も荒地も同じく白だし、森林も針葉樹、広葉樹の区別がつかない。

地形図のの区切は、他の国と違って緯度、経度をもとに機械的に切るのではなく、都市部がうまく納まるようにしてある。従って隣の図と重なる部分がある。

**スイス** スイスの地図の美しさと精緻さは定評がある。原板をペン型の彫刻針でひっかいて描いたその特色である高い山々の表現は素晴らしく、岩はだ、氷河、峰々の影のさまは、単なる図式化された地図ではなく、芸術作品といえよう。

**オランダ** メルカトル図法で知られるメルカトルを生んだ国であり、16,7世紀からヨーロッパ各地へ地図を輸出してきた伝統をもち、図面の見やすさ、地形の表現の詳しさはさすがである。地形で特色あるのは干拓地で、等高線のほとんどない平らな地面に無数に水路が走っている。また海岸線や川岸に黒い線でくっきり描かれた堤防はこの国の水との戦いを語ってくれる。

**アメリカ** 当館の他の国の地形図とちがって、国土の広大さ、人口密度の点から、25万分一の縮尺のものを所蔵している。標高の表示もフィートで他と異なっている。地形に変化があり、図面何枚にもわたってレース模様のような湖沼が無数に散らばるアラスカの湿原地帯、サンゴが枝を張ったようなミシシッピー川のデルタ、図面の端から端まで真直ぐに貫くハイウェイ、ちょっとした町の郊外には、二、三ヶ所もみられる飛行場、やはり広大な国だということが、見てとれる。

## 雑誌論文を探すには……二次資料ガイド

あの雑誌に載っているかしら、いやこの雑誌かな、いつだっけ？、何という人が書いていたのだろう、これこれに関する論文を探しているのだけど……etc、このような場合、二次資料——索引誌折録誌、速報誌——を探すことをおすすめします。

### Dissertation Abstracts Internationalその他 …学位論文の二次資料…

学位論文は独創的な研究内容のものが多く研究資料としての価値が高いが、本来流通を目的としないために資料探索が難しく従って入手も難しくなっている。しかし学位論文の二次資料を利用すればある程度の調査はできる。これについて詳しく知りたい方は、『ドクメンテーション研究』vol. 28, No.12 (1978) の寺村由比子氏の「学位論文の二次資料」を一読下さい。ここでは当館所蔵(雑誌室備付)の Dissertation Abstracts International と Comprehensive Dissertation Index. Five-Year Cumulation について簡単に紹介します。

#### \*Dissertation Abstracts International (DAI)

当館で所蔵しているのは

Sec. A : The Humanities and Social Sciences

月刊 vol. 31 (1971) 以降

Sec. B : The Sciences and Engineering 月刊

vol. 31 (1971) 以降

Sec. C : European Abstracts 季刊

vol. 39 (1979) 以降

Michigan 州 Ann Arbor の University Microfilms International (UMI) から季刊で発行。

Sec. A と B は UMI が収集しているアメリカとカナダの 400 以上の大学、研究機関の、Sec. C はヨーロッパの 18ヶ国約 100 大学、研究機関 (各々収録大学、機関のリストが各号に載っている) の博士論文の抄録誌。主題順に配列されテーマから論文を検索することになるが、各号にはキーワード索引と著者名索引が付されている (年間索引もある)。原論文のコピーは各抄録のオーダーナンバーにより UMI に注文する (代理店は紀伊国屋) と入手できる。料金は下記のとおりである。なお、Sec. C については UMI から入手できるものは少ない。

| 複写料金 (1 件当りの料金) |        | 船便 | 航空便     |
|-----------------|--------|----|---------|
| ・ゼロックス (ソフトカバー) | ¥7,400 |    | ¥9,300  |
| ・ゼロックス (ハードカバー) | ¥8,900 |    | ¥10,800 |
| ・マイクロフィルム       | ¥4,300 |    | ¥5,100  |
| ・マイクロフィッシュ      | ¥4,200 |    | ¥4,500  |

#### \*Comprehensive Dissertation Index (CDI)

Five-Year Cumulation 1973-1977 19 vols.

“CDI 1861-1972. Ann Arbor, University Microfilms International, 1972, 37 vols” は過去 112 年間にアメリカ、カナダで授与された全博士論文を網羅する索引誌であるが、当館では DAI を 1971 年より所蔵し、このたび CDI 1861-72 のサブメントの 5 年間の累積版を受入れた。

1-16 巻は主題索引篇、17-19 巻は著者名索引である。CDI に収録されている学位論文のうち DAI に収録されているものにはその巻号、オーダーナンバー等が記載されている。

なお、日本の学位論文を調査するには『日本博士学位論文索引』(雑誌室・参考室備付け) が利用できる。

#### Current Contents……目次速報誌

当館では今年 (1980) から下記の全 7 シリーズを購入している (雑誌室備付)。

- Agriculture, Biology & Environmental Sciences.
- Art & Humanities.
- Clinical Practice.
- Engineering, Technology & Applied Sciences.
- Life Sciences.
- Physical, Chemical & Earth Sciences.
- Social & Behavioral Sciences.

Pennsylvania 州 Philadelphia の Institute of Scientific Information (ISI) から週刊で発行。

雑誌の出版社と特別に結んだ契約により校正刷の段階で提供された目次から写真製版した速報誌で、航空便で利用者へ送られる。Current Contents はこれに掲載された雑誌と相前後して到着しているので、当館及び学内の各研究室で購入している雑誌だけではなく、関連分野の他の雑誌収録論文をも即座に知ることができる。あたかも新刊雑誌の目次を次々と繰るがごとく、現在の研究の動向をす速く身近な場所で知るのに最適な資料といえよう。なお巻末には Subject Index と Author Index & Address Directory が付いていて、著者との直接交渉の道もひらかれている。

国内の目次速報誌としては、『月刊文献ジャーナル』(富士短期大学出版部発行) があり、国内の大学紀要の目次を収録し、索引はなく、Current Contents ほど便利に作られてはいない。

## 雑誌記事索引(人文・社会編) 累積索引版

あるテーマに関する論文・記事を探すための基本的な資料である、雑誌記事索引(人文・社会編)が創刊された昭和23年から49年まで、月刊～季刊であったものの累積版。この27年間の莫大な採録論文をまとめたため、年代別(期)と主題別(シリーズ)に区切って刊行されている(第4期刊行中)。あるテーマの週及的検索には従来では221冊をも探さねばならなかったのが、累積版では4冊ですむという効率のよさである。主題別(=分類)になっているので、各冊冒頭の目次と相関索引をひいて適確なテーマ・項目を探すといふ。その他に著者名索引と収録誌名一覧が付されている。第1期2期には、総合索引として件名編、著者名編が刊行されている。当館では、次を所蔵している。

|              |                                                                       |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 第1期(昭45～49年) | } 11シリーズ<br>(政治・行政、法律、経済、産業、社会、労働、教育、文化、哲学・宗教、歴史・地理、文学・語学、芸術・芸能・スポーツ) |
| 第2期(昭40～44年) |                                                                       |
| 第3期(昭30～39年) |                                                                       |

第4期(昭23～29年) 刊行中

総合索引件名編(昭40～49年)

総合索引著者名編(昭40～49年)

## 雑誌記事索引 人文・社会編, 科学技術編

医学・薬学編 国立国会図書館編集

日本における雑誌論文を探す場合の基本的な資料である。医学・薬学編は昭和54年より科学技術編より独立した。現在は電算機処理で年4回刊行され、速報性に富む。

採録誌は、市販の雑誌のほか、大学・専門機関の研究報告・紀要類も含む国会図書館へ納本されたもの、人社編1865、科技編1323、医薬編276誌を対象としている。人社編にあっては、発行誌数の4～7割をカバーしていると推定される。各号にその誌名、巻号、発行年月の一覧が付されている。

ある主題に関する論文を探すには、主題目次により掲載頁を知り、その中(論題の五十音順)を通覧して論文を選択してゆけばよい。

また各巻には年間の著者名索引が付き、著者からの検索(誰々の書いた論文は何か、それはどこに発表したか——業績追跡調査、書誌の情報調査)ができる。

人文社会科学の分野では、昭和23～49年の累積版を併せて利用すると、迅速かつ効率よく検索できる。当館では、次を所蔵している。

人文・社会編 第7巻(昭29)以降

科学技術編 第5巻(昭29)以降

(16巻までは自然科学編)

医学・薬学編 第30巻(昭54)以降

科学技術文献速報 日本科学技術情報セン

ター(J I C S T)編・刊 半月刊～月刊

雑誌記事索引が全分野を対象とし、書誌の事項だけを記述した索引誌であるのに対し、科学技術分野に限定した抄録つき索引誌である。

特徴として1)対象資料と採録記事の豊富なこと。国内3400、海外50ヶ国5100種の逐次刊行物のほか、一般に入手困難な技術レポート題(主として米政府レポート)、会議資料など広範囲にわたる。これら資料から採録する記事は、基礎的な研究結果の報告にとどまらず、応用技術の報告や紹介記事、解説的記事に至るまで幅広く網羅的である。2)カバー範囲が広いこと。基礎数学、天文学、生物学、医学を除く理工学のほぼ全般に及んでいる。3)論題と抄録が日本語で書かれていること。4)速報性がある。5)週及的検索には年間索引が利用できる。6)原資料はJ I C S Tの申込むことによって入手可能。などがあげられる。

分類順になっているので、目次(大小の分類項目の案内)、キーワード索引によって手懸りをつかんで、文献を探す。このとき、日本語による論題と抄録は文献選択の助けとなるだろう。キーワードとは主題をあらわす「ことば」で、論文・抄録の一件には3～7個のキーワードが含まれている。ここで用いるキーワードは、J I C S Tシソーラス(統制語彙表)に登録されているディスクリプタ(索引語、検索語)である。

各冊にはキーワード索引、各年には著者名索引、主題索引を付して検索の便をはかっているが、昭和40年以降については機械可読のデータベースが作られており、端末機による即時検索(オンラインサービス)もできる。

当館の所蔵は次のとおりである。

|                 |            |
|-----------------|------------|
| 物理・応用物理編        | 1巻(昭33)以降  |
| 電気工学編           | 1巻(昭33)以降  |
| 土木建築工学編         | 1巻(昭33)以降  |
| エネルギー編          | 1巻(昭54)以降  |
| 原子力工業編          | 20巻(昭55)以降 |
| 化学工業編(外国編)      | 1巻(昭33)以降  |
| 化学工業編(国内編)      | 38巻(昭39)以降 |
| (1～48巻:日本化学総覧)  |            |
| 環境公害編           | 6巻(昭55)以降  |
| 管理・システム技術編      | 9巻(昭46)以降  |
| 機械工学編           | 1巻(昭33)以降  |
| 金属工学・鉱山工学・地球科学編 | 1巻(昭33)以降  |

J I C S T科学技術用語シソーラス1975年版

J I C S Tシソーラス主題カテゴリー別索引  
1975年版



## 教官寄贈著書とその紹介

図書館では、これまで本学教官の著書を寄贈していただいておりますが、今後ともご刊行の際は寄贈していただきますようお願いいたします。寄贈された図書は、本誌で広報します。なお寄贈については受入係担当です。

下記は、昭和55年2月～4月に寄贈された著書(図書館備付)とその紹介です。

**青木薫(教育)**

アメリカの教育思想と教育行政 青木薫著 ぎょうせい 昭54 253p 22cm 371.2 開架

教育史を専攻する専門家の教育史研究ではなく、あくまでも教育研究のためのアメリカ教育の歴史的研究であり、教育経営研究のために何らかの示唆を得ようとしたものである。

教育行政要説 村山英雄 高木英明編著(7章執筆:青木薫)ぎょうせい 昭52 246p 22cm 373.2 開架

本書の特徴は、第一に「教育行政とは何か」という問いに答えるため、いろいろな面から明らかにしようとし、第二にわが国における教育行政を国際的視野に立って展望するよすがとするために諸外国(米・英・独・仏・ソ)の教育行政制度を概観した。第三に教科書として教育行政の諸側面をできるだけ簡潔に要領よく説明しようとした。

**多田顕(教養)**

石田梅岩の思想一心と儉約の哲学—吉田紹欽、今井淳編(多田顕:分担執筆)ペリカン社

昭54 274p 20cm 158 開架

日本が今日世界の指導的地位にまで達するに至った理由の一つは、早く江戸時代の民衆の間に石田梅岩によって代表される現実的にしてしかも、合理的な世界観が普及し、その社会に経済倫理が確立されていたことにある。武士に対する町人の道徳を確立させた学門(心学)の開祖である梅岩を今日の日本思想史学のレベルでとらえた梅岩心学の大系の研究書である。

**田中国昭(工学)**

革新するエレクトロニクス—源流から未来へ—

田中国昭、高橋清共著 工業調査会 昭55

295p 19cm (K book, 7) 549 開架

トランジスタが生まれた科学のおよび技術的背景やそれらの遠因について時間的な流れに

沿って、二つに分け前半では時間の流れを軸として電気に関する科学的認識がどのように進みエレクトロニクスの確かな基盤がどう築かれたかを述べ、後半では全面的に展開する現在のエレクトロニクスが「それを支える科学」「新しい原理によるデバイスやセンサ」「実用化に向かいつつある最新技術」などいくつもの軸を中心に、いかにシステムティックにからみあっているかを多面的に取りあげた。

**西巻正郎(工学)**

オーディオ用語事典 西巻正郎〔等〕共編

オーム社 昭52 333p 19cm 参考

オーディオ機器に直接関係する用語だけでなく音響工学の基礎に関する用語、放送録音に関する用語、音楽に関する用語など現在実際に使われているオーディオに関係ある言葉できるだけ取り上げ説明を行ったもので学術上の標準用語・専門用語だけでなく俗語や専門家の間で使う略語をも含んだ他に類例をみない用語事典である。

電気音響振動学 西巻正郎執筆 改版

コロナ社 昭53 268p 22cm (電気通信学会大学講座 9) 540.8 開架

電気音響装置の中で音と電気の間の変換を持つ素子であるマイクロホン、ピックアップ、受話器の基礎になる音響系の振動とそれらの系と電気回路との間のエネルギー変換をおもに扱っており改版にあたり聴覚に関する発展を少し追加し、音響物理に関する部分を一括するとともに電気専攻者に便利な形とし、単位を国際単位系に統一し電気音響機器の発展した部分を改め超音波応用の概略を加えた。

**湊幸衛(工学)**

中国色名総覧 監修:湊幸衛 カラープランニングセンター 昭54 128p 30cm 757.3 参考

中国色名の個々の色が日本のどの色にあたり米国のどの色名にあたるかが一目でわかり、さらに修正マンセルによる見やすい色名地図で色名の位置が示されているので科学諸分野及び産業における中国関係文献に記載されている色名については本書によつて的確にその色を知ることが出来る。中国色名の収録数は625、日中米三ヶ国語色名対照辞典となっている。

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.18 1981. 1

|             |   |
|-------------|---|
| 新館の完成を前にして  | 1 |
| 「田中家文庫」について | 5 |
| 教官寄贈著書とその紹介 | 7 |

## 新館の完成を前にして

沼田 眞

1981年は千葉大学附属図書館の歴史において画期的な年になる。いうまでもなく西千葉キャンパス中央部にある本館の増築の完成である。1968年に現在の本館が完成してからもう12年になるが、その間キャンパスの中心部にあって、二階の閲覧室に直通する重量感のある階段とともに学生諸君に親しまれてきた。

しかし今度西隣の新館が完成すると、現在の本館（旧館）の大部分の図書はモダンな新館の方に移されて、新館が学生諸君の「学習図書館」として新しく発足することになる。今まで教官や大学院学生が主として利用する研究用図書は、各学部、学科、研究室などの図書として分散していた。そのある部分はやはり今までのように研究者の手近にあってワーキング・ライブラリーとしての機能を果たすであろう。しかし一方では外国雑誌などの異常な値上りと経常的な研究予算の伸びなやみの中で、図書館に集中して利用すれば重複した雑誌はとらなくてすむので経費的に大きく節約でき、その分で更に新しい雑誌をとることもできる。また雑誌のバックナンバーのようなものは文献として極めて重要であっても、各学部や研究室で保管するのには大きなスペースがいる。利用度の少ないものは中央に集めておいた方が互いに有利であろう。そのような観点から研究用の図書、雑誌の一部を集中管理するために、旧館は「研究図書館」として新生改装されるはずである。

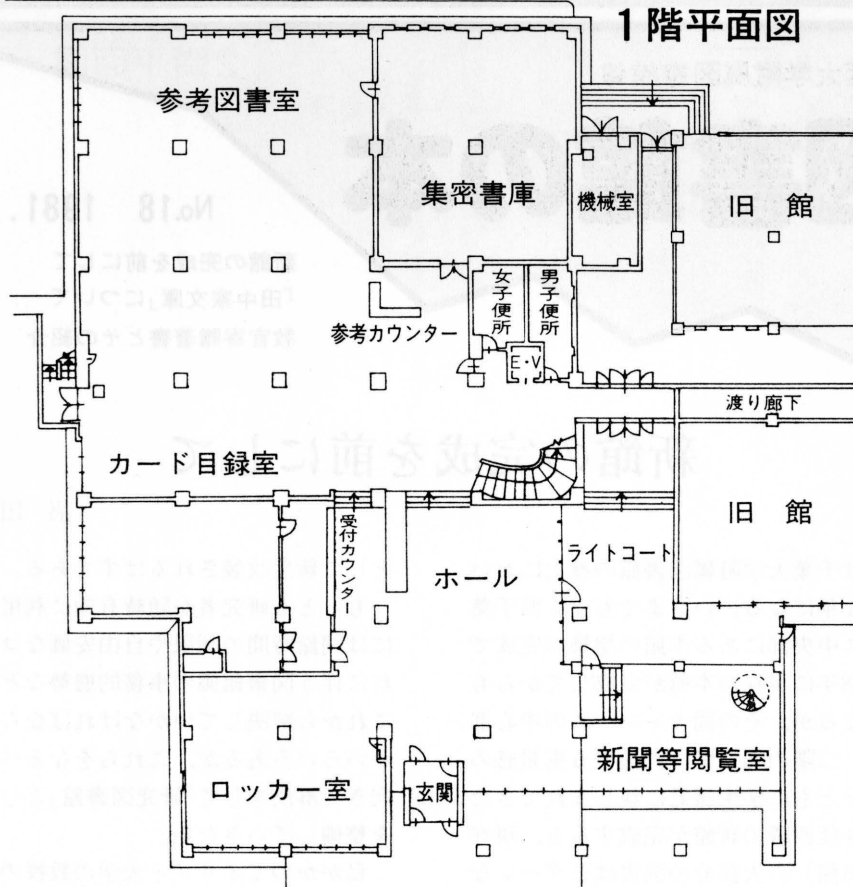
もっとも研究者が随時有効に利用するためには開館時間の制限や自由安価なコピー、それに伴う図書館側の事務的態勢などについてこれから解決していかなければならない問題がいろいろあるが、これらをなるべく早く前向きで解決をして「研究図書館」としての機能を整備していきたい。

私がかつてイリノイ大学の教授の家に滞在していた時、夜十時ごろ今晚どうしてもみたい本があるので大学図書館にいつてくるといって車で出かけ、間もなくその本をもって帰ってきたが、そういうふうに役に立つ図書館にしたい。昨年暮に日南市にある服部植物研究所のユニークなライブラリーをみせてもらったが、標本とともに蘚苔植物に関する世界的に貴重な文献を移動書架に収め、火災予防のため研究所の建物から孤立させてあり、禁煙を厳守していた。スウェーデンの研究機関では十年前にすでに、入口で身分証明書をさしこむと自動的にドアがあき、それが記録されるようになっていたが、ぜひとも人手をあまりかけずに有効に利用できる図書館にしたい。

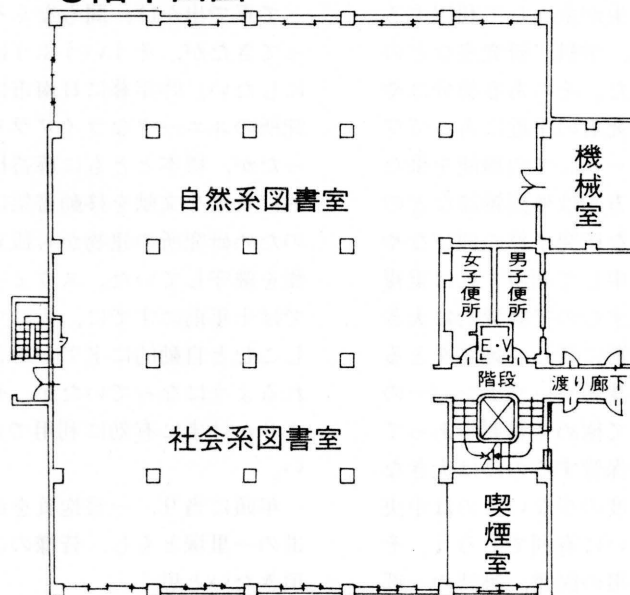
年頭に当り、一言抱負を述べて、今後の躍進の一里塚ともし、皆様のご助言、ご鞭撻を頂きたいと思う。

(附属図書館長)

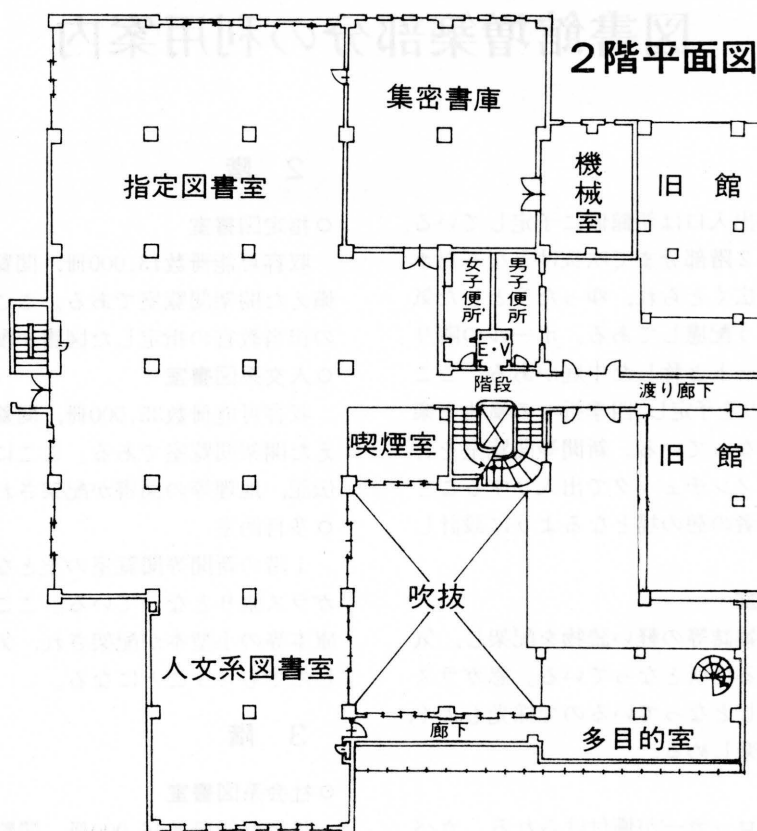
### 1階平面図



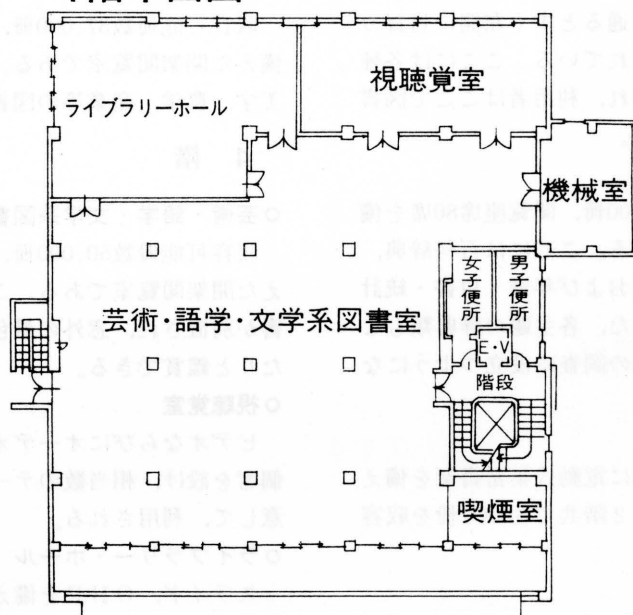
### 3階平面図



## 2階平面図



## 4階平面図





## 図書館増築部分の利用案内

### 1 階

一般学生の出入口は新館側に予定している。入口を通ると2階部分まで吹抜けとなったホールがかなり広くとられ、ゆったりとした気分になれるよう配慮してある。ホールの隣りにはライトコートと称した中庭がある。ここは庭園風の造りを予定し、四季折々の風物を楽しめるようになっている。新聞等閲覧室を含めこの一帯はノンチェックで出入りすることができ、利用者の憩いの場となるように設計してある。

#### ○新聞等閲覧室

新聞および雑誌等の軽い読物を配架し、気軽に利用できる場所となっている。窓ガラスは2階まで通しとなっているので採光もよく、窓外の眺望も楽しめる。

#### ○ロッカー室

738 人分のロッカーが備付けられる。カバン等の袋物はこのロッカーに納めて受付を通ることになる。

#### ○カード目録室

受付カウンターを通るとすぐ左側に目録カードケースが並べられている。ここには各種の目録カードが置かれ、利用者はここで図書の有無を調査できる。

#### ○参考図書室

収容可能冊数14,000冊、閲覧座席80席を備えた開架閲覧室である。ここには百科辞典、地図、書誌・目録類および年鑑・白書・統計書が配架される。また、各主題の辞典類もここに配架され、各種の調査に役立つようになっている。

#### ○書庫

1階と2階の一部に電動式集密書架を備えた書庫があり、1・2階共で約18万冊を収容できる。

### 2 階

#### ○指定図書室

収容可能冊数13,000冊、閲覧座席160席を備えた開架閲覧室である。ここには教養課程の担当教官の指定した図書が配架される。

#### ○人文系図書室

収容可能冊数35,000冊、閲覧座席88席を備えた開架閲覧室である。ここには哲学、歴史伝記、地理等の図書が配架される。

#### ○多目的室

1階の新聞等閲覧室の上となり、南側は総ガラス張りとなっている。ここには新書・文庫本等の小型本が配架され、気軽に読書を楽しんでもらうことになる。

### 3 階

#### ○社会系図書室

収容可能冊数46,000冊、閲覧座席120席を備えた開架閲覧室である。ここには法律学、経済学、教育学等の図書が配架される。

#### ○自然系図書室

収容可能冊数37,000冊、閲覧座席128席を備えた開架閲覧室である。ここには自然科学工学、農学、産業等の図書が配架される。

### 4 階

#### ○芸術・語学・文学系図書室

収容可能冊数50,000冊、閲覧座席80席を備えた開架閲覧室である。ここには大型の美術書が別置され、窓外の景色を眺めつつ、ゆったりと鑑賞できる。

#### ○視聴覚室

ビデオならびにオーディオ再生装置を備えた個席を設け、相当数のテープ、レコードを用意して、利用される。

#### ○ライブラリー・ホール

スライド、OHPを備えた多目的の集会室となる。

## 「田中家文庫」について

田 中 康 一

私は蔵書家でも愛書家でもない。若い頃は本探しに血道をあげ、本棚を飾り立てて嬉しかった一時期もあるにはあった。ところが戦争が激しくなって疎開のすべもなくなり、近くの古本屋へ行って、無料進呈するから焼かないで済むようにして欲しい、と頼んだところ、主人に『店の本さえ始末できないのにこれ以上は貰っても要らない』と拒わられた。仕方なく、教え子に手伝いを頼み、二人で背負えるだけ背負って群馬県の山奥の知人宅へ預けに行ったのが20年3月10日、その一ヶ月後の4月13日に残りの本を全部焼かれて了った。それ以来余計な本を集めることの空しさを感じ、本探しの熱はすっかり冷えて了った。

しかし戦後教壇生活が再開し、学会などに関係するようになると、必要な本は買わねばならず、仕事次第では探さねばならず、その上諸方から寄贈される本や研究誌などがだんだん増えて、とうとうバラック建の書庫まで足の踏場もない程になった。

昨秋、小春日和のある日偶々書庫の中に入って見たら妙なことに気がついた。著者の署名のある本が沢山混じっていることは予想していたが、確かにあった筈の本が何処にも見つからず、逆に、借りた覚えのない人や学校の蔵書印の押してある本がチョイチョイ出てくるのである。これは私の生きている間にキッチンと整理し、所有主の判明したものは返却して置かねばならない。そう思って整理を始めたら、今まで気付かなかった本に次々と思出が甦り愛情が生じてくる。このままだといずれ私の没後、古本屋に目方で売られるか、チリ紙と交換されるからであろう。それでは私の愛着は兎も角、署名入りで贈って下さった方々に申訳が立たないことになる。

そこで思い付いたのは目ばしいものだけでも私と縁の深い千葉大学図書館に寄贈することである。そう思ってまず専門のドイツ関係の本のリストを作って受入係長に見せたら、

いっそのこと『コレクション』とされたら如何ですか、というアドバイスをうけた。「コレクション」となるとなまじっかな分量では恰好がつくまい。そう思って本棚を眺めると何から何まで「コレクション」に入れたくなってくる。更に私の生家（宮城県三陸沿岸で代々医を業とした）に、チリ地震津波の際流出を免がれた古本が若干ある筈だがあれも序に保存して貰いたい。そんなこんなを考えた末私は、四部門から成る「総合」田中文庫という構想を立てて見た。先ず第一は、日本で出版された初等から高級書までのドイツ語関係書をまとめる（文学関係は差当り除外。）次に国外（主としてドイツ）で出版された文学語学書等を一部門とする。第三には先祖伝来の医書その他を古書部門として加えたい。私の甥で田中家十一代目の当主もこの趣旨に賛成してくれている。これ等三部門に入りたい書籍は、いやしくも大学図書館である以上一応皆千葉にもそろっているかも知れない。図書館蔵とダブらないものといったらホンの教える程しかあるまい。しかし図書館というものは貴重な本を一部づつ具えて置けばいいというものではないだろう。特に固有名の付く文庫なら、その人の生涯と関係の深いものはいくらダブついていても、また平凡な雑本でもこれに加えて差支えないものと考え。そうした我楽多的なものの中に、何時の時代か誰かの研究に役立つ若干のものがキラリと光っていたらそれで個人文庫の意義は充分とっていいのではあるまいか。その観点から次に、いささか手前味噌になるかも知れない若干のことを書き添えさせていただく。

第一部門の中に、大正初期の雑誌や教科書が含まれている。曾て私は、明治大正時代のドイツ語教育を研究するため、それらの入手に大へん骨を折った。もし将来同様な研究を志す人が現れるとしたら、今日まだ入手容易な初級本をまとめて置くことも無意味ではな

いだろう。また何気なく見過ごされている本の中に、英語学から数十年おくれたと云われる日本のドイツ語学の濫觴と関係ある若干の書が含まれている。これもいずれは貴重本になる日が来るだろうと思う。

第二部門の中には、見る人によっては、ナンダこんな物、と思われるものも少なくないかも知れない。これらもしかし、ある時期の私とドイツという立場から容易に棄て難いものなのでこの部門に納めて置いた。またありふれた本や短い抜刷の類であっても、Borchert, Eggers, Fromm, Gundert, Kuhn, Wittsack, Zwirner, 等世界的に著名な学者が署名入りで贈って下さったものは、私ならずとも貴重書に加えたくなるであろう。

第三部門は田中家に昔から伝わったものだが、前述のように津波で泥海に流れ出したのを拾い集めたのだから端本が多く、海嘯時の泥が今でもこびりついて頁がめくれっぱなしである。数年前の夏郷里の知友に助けられて整理して見たが、素人には各巻の価値も不詳だし整理技術も覚束ないので、一応の分類をただけで放置してある。しかし藩幕時代から明治初年にかけて、交通不便な陸の孤島の僻陬の地で、本を入手することがどんなに困難な業であったか、その祖先の労苦を思えばこのまま放置するに忍びない。そこで今度田中の名の付く文庫が出来るのを機に、現存する約450冊をその古書部門として立て、国立大学図書館の力で充分な手入れと整理分類をして載し、後世に残すことを考えたのである。学問的な価値の程は兎も角、こうすることが子孫としての務めだ、と甥も私も信じた次第である。

さて、以上の他に、第四のExtra部門として音聲関係のものを若干入れた。私は43年の退官時に、「古ドイツ語の音聲記録」を主とした百数巻のテープを寄贈したが、あの仕事の副産物として集めた何枚かのレコードがある。中には稀らしいものも入っているが、それより貴重なのは今度あらたに付け加える10数本の録音テープである。前にも一寸ふれたように私は37年頃大正時代のドイツ語教育のこと

を調べる必要があった。その際、教科書等を集めるほか、生き証人として、当時まだ御在世中だった我が国ドイツ語界の長老方を歴訪し、ドイツ語教育に関する思い出話を拝聴録音したのである。一人一人のお名前は省略するが、我が国ドイツ語界に偉大な足跡を残した方々のナマのお声を後世に残せた意義は(いささか自讃めくが)決して小さいものではないと自負している。例えば当時八十歳だった石倉小三郎先生が、対談の中で名訳「流浪の民」をものされた頃に話が及び、張りのあるお声で「ブナの森の葉がくれに云々」と歌われたお声が後世に残ることになったのは、見方によっては歴史的な意義をもつと云ってもよいのではないか。

なお、テープは古くなると音聲が悪くなったり消えたりする。(そのため、前記「古ドイツ語」に再録用のマザー音盤も添えてある)。それで長老達のお声が果してこのまま残せるかどうか心配していたところ、幸い出版書肆行人社が再録の仕事を引受けてくれ、最新の技術を駆使してまずオリジナルからマザーテープをおこし、それから日用向のカセットテープを作成してくれた。これで、管理さえ充分ならば半永久的に大先輩達のお声が残るわけである。図書のコレクションの中にテープが入るのは一寸異例かも知れないが、図書館側の配慮で、今回の音盤とテープを、43年に寄贈した「古ドイツ語」とひとまとめにし、「総合」田中文庫「音聲部門」とでも名付け永く保存して戴ければ望外の幸いである。「総合」文庫というのは熟さぬ言葉でもあり、少々オーバーな表現であるが、この文庫には異質のものが組合わされているのと、もう一つ田中文庫があると聞いたので区別する便宜上つけた名前である。本来なら総合より複合の方が当たっているかも知れないが、口調は総合の方がよさそうである。もちろん別によい名があったらそれに変えても差支えない。最後に題名についても一言したい。この文庫には異質の部門が集まっているので、初めは「総合」と「複合」とかいう名を考えた。しかし、実質的に最重要なのは第三の古書部門である。

ここには田中家累代の「いのち」が息づいている。そこで語呂は少々悪いが「田中家文庫」と呼ぶことにした。発想順で第三部門としたが、正式には古書部門が第一で、他の三部門

はいわばその随伴的役割しか果たしていないというのが、この文庫名を使った所以である。  
(元附属図書館長)

## 教官寄贈著書とその紹介

附属図書館備付 昭和55年4月～8月受入分

### 小原二郎 (工学)

物から人への発想—インテリアの人間工学—  
小原二郎著 玉川大学出版部 昭55 232 p  
19cm (玉川選書 117) 509.6 開架  
「原点を物の側から人間の側に移し、対象を見直すことによって、従来とは別な価値体系を発見できる。」人間工学のインテリアへの適用を通して気のついたことをまとめたもの。

### 水野修孝 (教育)

歌劇 天守物語—Opera Tenshu—Story—  
原作・泉鏡花 作曲・水野修孝 台本・金沢三郎・まへだ純・水野修孝 日本音楽著作権協会 141 p 43cm G766.1 開架  
劇場用・映画用・テレビ用いづれにも使用可能な天守物語のオペラのスコア。

### 村山元英 (人文)

国際的経営の構築 山崎清編著 (第5部執筆：村山元英) ビジネス教育出版社 昭55 328 p 22cm (現代経営学の課題 2) 335.1 開架

国際化の流れの正面に据えつけられつつある日本企業の多国籍化のなかに新しいパラダイムを求めるといふ共通の希求をもった4人の論者による共同作業。

### 大江 茂 (工学)

写真撮影技法—その理論と実際— 大江茂・安居院猛著 共立出版 昭55 219 p 21cm 743 開架

写真レンズでの光学式をはじめ、今まで殆んど書かれていない被写界深度、カメラのアオリ等の理論と実際について写真用語を用い平易に解説。

### 小郷 寛 (工学)

電気磁気演習 第2版 尾本義一・小郷寛著 共立出版 昭55 257 p 19cm (共立全書 18) 427 開架

電気磁気の理論を各種の演習問題を通して記述。

### 福与人八 (工学)

時と周波数—精密時間計測の基礎と応用—  
P・カルタショフ著 福与人八・大浦宣徳・

倉持内武訳 講談社 昭55 272 p 22cm 535.2 開架

過去20年間に開発された測定技術に対する知識を示し、人類の文明の曙以来知られている天文時に、原子時系がとって代れるという事実を述べる。

電子計測 改訂版 福与人八・小林肇・泊川一之著 実教出版 昭55 306 p 22cm 541.5 開架

正しい計測器の使い方・使い安い計測器とは・どのような計測器をいかに使用するかなど、具体的問題を取り上げている。

### 城丸章夫 (教育)

体育と人格形成—体育における民主主義の追求  
城丸章夫著 青木書店 昭55 242 p 20cm (青木教育叢書) 780 開架

国民の体育・スポーツをする権利・体育教育と民主主義軍国主義との関係等をふまえ、人格形成と体育の関係を考察。

### 沼田 真 (理学)

都市生態学 中野尊正・沼田真・半谷高久・安部喜也著 先立出版 昭54 129 p 21cm (生態学講座 28) 466.08 開架

都市生態学の学問としての位置づけ、都市そのものの都市環境下における代謝および生活を記述。

### 須賀恭一 (工学)

身近な化学—人類の夢を追って— W・リックスナー／G・ウェクナー著 須賀恭一・岩淵晋訳 講談社 昭54 242 p 19cm 430 開架

たくさんの人に化学をもっとよく理解してもらうため、セッケンで洗うとなぜきれいになるか等、身近な話題を選んで解説してある。  
香料の化学 須賀恭一・渡辺昭次著 講談社 昭54 (初47) 167 p 22cm (講談社現代の化学シリーズ 16) 576.6 開架

香料に関連する有機化合物の合成研究を通して、その化学構造を示して「におい」についての科学的探求を行なう。



## 卒業生の方へお知らせ

1. 昭和56年3月卒業予定者の方で図書館から館外貸出を受けている方は2月28日までに必ず返却して下さい。
2. 3月卒業予定の学生で卒業後も図書館を利用したい方は、卒業証明書又は教職員の紹介状を持って参考調査係へ申込下さい。閲覧証を発行します。

## 本館コンピューター増設

懸案となっていた、本体の増設と「図書受入・予算管理用」端末が、56年1月設置された。これは、55年度特別設備として要求していたものが認められたもので、昭和53年設置し、すでに稼動している「閲覧用」「雑誌管理用」端末と合せた本館の機械化計画の一環をなすものである。

この端末機を利用し、図書受入業務は電算化される予定である。56年4月から使用される予定になっているが、計画通りシステム化されれば、業務近代化に大きな力となるものと期待されている。

## 図書館運営委員会報告

第1回 55.5.1 (木)

議題

- ①昭和56年度附属図書館概算要求について

報告事項

- ①昭和55年度特別設備費について
- ②本館増築の進捗状況について
- ③図書館業務電算化の進捗状況について
- ④第36回関東地区国立大学図書館協議会について
- ⑤昭和54年度附属図書館予算及び歳出決算について

第2回 55.9.4 (木)

議題

- ①昭和55年度共通基本図書購入費等について

②昭和55年度附属図書館予算について  
報告事項

- ①附属図書館本館の増築に伴う図書館サービスの改善に関する小委員会第1回会議について

- ②昭和55年度特別設備費について

第3回 55.11.26 (水)

議題

- ①旧館の改修計画について
- ②改修後の旧館の運営について
- ③千葉大学生物・医学情報図書館設立準備委員会について

報告事項

- ①附属図書館本館の増築に伴う図書館サービスの改善に関する小委員会第2回会議について

- ②共通基本図書選定委員会について

## 委員名簿

館長／沼田 真 事務局長／小島和太郎 亥鼻分館長／萩原弥四郎 園芸学部分館長／福富久夫  
人文学部／前田康博・下村由一 教育学部／椎名萬吉・内海 滉 理学部／坂上澄夫・吉田英信  
医学部／林 豊・桑田次男 附属病院／渡辺昌平・中島博徳 薬学部／北川晴雄・力久忠昭 看護学部／平山朝子・野口美和子 工学部／花岡忠昭  
江森康文 園芸学部／福富久夫(再掲)・太田富貴雄 教養部／岡崎邦博・小川 劭 生物活性研究所／林 誠・竹尾漢治

## 編集後記

この号より編集委員が変わりました。前の編集委員に劣らぬようがんばります。

新委員：吉岡 飯島 和田(ひとみ)

市東 庄司

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.19 1981. 4

|              |   |
|--------------|---|
| 新館部分写真       | 1 |
| ドイツ語の学習について  | 2 |
| 国立大学大型資料購入一覧 | 4 |
| 共通基本図書購入書目   | 5 |
| 教官寄贈著書       | 7 |



## 増築なった附属図書館

附属図書館新館増築部分は、昭和56年2月に完成した。鉄筋コンクリート4階建て、延べ5,170m<sup>2</sup>。

なお、新館の開館は9月に予定されています。

## 「ドイツ語の学習について」

横 田 ち 魚

大学にはいり、新たに外国語を習い始める時は、誰でも楽しいものだと思う。二年間勉強した後、テレビから、あるいは街中で、ふと耳に飛び込んでくる外国語を「ああ、これはドイツ語だ」と確認ができ、それが簡単な日常語ならば、その言葉の意味もわかり、必要の時にはすぐに自分の意志も、わづかなことならば伝えられる——あるいは、与えられた活字のドイツ語は、歌詞などでもすぐ声にして読むことができ、辞書を手にすれば、その意味までわかってしまう——こういうことを想像して、楽しくない人間がどこにいるだろう。ああ、それなのに二年目の学年末が近づく頃、この学習がとてつもない不幸、不愉快の巨大な塊りになることが、ときに、たまたま生じるのは一体どうしたわけか、考えて欲しいと思う。

外国語の学習法にはいくつもの道があろうが、すでに大人である大学生が始める場合には、まず、ひと通りの文法を心得るのが、なんといっても能率のよい方法である。(本学教養部ではこれを多くの場合、一年二・三ヶ月かけて終らせる。これと並行して、読み物にあたる学習も始めから行う。)外国語に限らず、なんでも稽古ごとはそうかもしれないが、ドイツ語の学習も、はじめのうちは急ピッチでどんどん上達する。(二年間の学習はこの急上昇の直線グラフを、なかばくらいまで登ろうとするものである。)そのあとは、学習している本人が、上達を実感し難いような、勾配のゆるやかな上昇線になる。この部分では、もう教師はつかず、一人でこつこつと力をためてゆくのがふつうである。そこで教える方の側としては、教養部二年間に学習者が学習法を身につけ、後に必要の時はいつでも、自分で力を増してゆくことができるよう、その下ごしらえをするのが目標である。

「下ごしらえ」とは具体的にどういうことをか話そう。名詞、動詞の語形変化の仕方、

語を置く順序、文脈のみつけ方、こうしたものは、てっとり早く文法として習うが、これだけでは「下ごしらえ」とはならない。「下ごしらえ」というのは一言でいえば、「ドイツ語づく」ことであり、ドイツ語の力を雪だるま式にふやしてゆける状態(日本語の場合、私たちはすでに久しい以前にこの状態にある)にまでもってゆく軌道の、そのはじにひよいと乗ることである。「ドイツ語づく」ためには何をすればよいのか。生理的観点からいえば、目と耳と口と手を使うことである。学習的観点から分けてみれば、(1)声に出して読むこと。どういう音を出すのか、耳でよく聞きとり、それを再現する。文を音読する時には、ドイツ人がゆっくり話すていどの速度はぜひ必要で、他方、その意味内容を(日本語に置きかえることをせず)同時に感じているようになるところまで(最初から完全にそれを要求することはできないが)次第にもってゆく。こうして声に出して読む練習をすることは、結果的に、聞きとりのためにも役立つ。(2)手で書くこと。文を書き写す。速度と正確さが要求される。単語の綴りを一つ一つ考えながらのろのろと書くのではなく、反射的に手が動くようになるくらいまで書く。(3)短文の暗記。ドイツ人が書いた自然なよいドイツ語の文章の中から、短文をカードに書き集め、折にふれてそれを暗記する。以上の三点が基本であり、これはいつまでたっても必要な方法である。(1)と(2)はやさしいことだが、実際には、思うよりもだいふ時間とエネルギーのかかる作業である。しかし、ドイツ語がガラスの向うの飾り棚にあるものではなく、また、わかったような、わからないような、もうろうとしたものでもなく、じかにわが手の中にあり、直接感じとれるものとなるためには、どうしてもこの作業が必要である。(3)は非常にたいへんそうに見えるが、実際にやってみると、考えているより明らかにことである。



以上で全部です、といえ、何か足りない気がするかもしれない。つまり多読・精読・読解は？翻訳は？会話は？どうするのかと。多読・精読は少し進んでから（ことに、はじめに述べた独学の段階にはいってからは）大いに活用するのがよい。翻訳というのは独和と和独の両コースがあるわけだが、これとドイツ語を身につけるということとは、同じ事ではない。「ドイツ語の意味内容がほんとうによくわかっていることが必要である」という点においては全く共通しているが、共通点はそれだけで、本質的には別の仕事だ。独和の場合は、いかにしてわかりよい日本語、原文の調子を伝え得る日本語に移すか、が問題となる。和独となると、日本人には独和よりも難かしいはずだ。日本語を遂一ドイツ語に置きかえようとすれば、ドイツ人の使わない意味の通じないドイツ語文が、いとも簡単に出来てしまうからだ。それよりは、少々の不

如意はあっても、暗記した手持ちのドイツ語短文を用いて、その場をしのぐ方がよい。「会話」——こればかりはチャンスがぜひ必要である。ドイツ人のドイツ語をつねに耳にし、ドイツ人と話をしなければならないという状況に身を置くことが必要である。しかし上に述べた方法で勉強をし、ドイツ語づいていれば、会話慣れは（日常会話は）意外にらくなものであると思う。

ところで、「ドイツ語づく」ためのすべてを授業中にすることは、時間のうえから不可能である。従って当然のことながら、授業時間外に復習、暗記と練習をしてもらわなければならない。ひとたび単位を取ることにきめたならば、時間とエネルギーをかけて頑張る欲しい。どういう辞書、参考書を、何のために、どのように使うべきかは、必要に応じてそれぞれの先生にきいて欲しい。

（教養部教授・ドイツ語）

## 第2 外国語に関する所蔵資料

——辞典・入門書・語学テープ——

### ドイツ語

- 木村・相良独和辞典 博友社
- 最新コンサイス独和辞典 三省堂
- 岩波独和辞典 岩波書店
- 現代独和辞典 三修社
- 大独和辞典 博友社
- 独和言林 白水社
- 大学ドイツ語講座1-6 相良守峰
- ドイツ語の第一歩 岩崎英二郎
- 藤田最新ドイツ語入門講義 正・続 藤田五郎
- 新ドイツ語入門 倉石五郎
- 関口新ドイツ語大講座 上・中・下 関口存男
- 関口初等ドイツ語講座 上・中・下 //
- ドイツ文法 グリースバッハ、シュルツ
- 標準ドイツ語 常木 実
- 新教授法に基づくドイツ語入門 藤田五郎
- 森川ドイツ語入門 森川晃郷
- 生きたドイツ語入門 小塩 節
- 新講現代のドイツ語 常木 実

○リングフォンドイツ語コース カセット・テープ

○カセット・ドイツ旅行会話3時間 //

### フランス語

- スタンダード仏和辞典 大修館
- 新仏和中辞典 白水社
- コンサイス仏和辞典 三省堂
- NHKフランス語入門 丸山圭三郎
- フランス語の基本構文 朝倉季雄
- 教養のためのフランス語 古橋義之
- リングフォンフランス語コース カセットテープ

### ロシア語

- 博友社ロシア語辞典 博友社
- 岩波ロシア語辞典 岩波書店
- コンサイス露和辞典 三省堂
- 新ロシア語入門 石山正三
- ロシア語初級コース 1-3巻
- NHKロシア語入門 佐藤純一
- リングフォンロシア語コース カセット・テープ

（参考調査係）



# 国立大学大型資料購入一覧

文部省は昭和53年度より国立大学における教育研究の進展を図るために、全国共同利用資料として、大型資料の購入費を国立大学に配付した。この購入費の配付を受けた大学および購入された資料名は下記の通りである。資料を購入した大学は整理して学内外の研究者の共同利用に供することが条件の一つとなっている。

なお、これらの資料の内容等については、購入大学より目録等が送付されているものもあるので、御覧になりたい方は参考調査係へお尋ね下さい。

## 昭和53年度

| 大学名   | 資料名                                                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北海道   | ○ボリス・スヴァーリン・コレクション<br>○18世紀ロシア研究叢書<br>○英・独・仏語によるソ連・東欧研究コレクション                             |
| 小樽商科  | ○フランス革命期刊行文書および研究書コレクション                                                                  |
| 弘 前   | ○経済学古典コレクション                                                                              |
| 東 北   | ○ハンサード英国議会討論報告<br>○米国政府刊行物・議会議事録                                                          |
| 福 島   | ○19～20世紀ロシア・ソビエト研究                                                                        |
| 筑 波   | ○心理学、精神病学書コレクション                                                                          |
| 千 葉   | ○ドイツ議会議事録ならびに議会資料                                                                         |
| 東 京   | ○マザラン誌コレクション<br>○アラブ文化・アラブ学研究コレクション<br>○オーストラリア総合法令集・判例集体系（連邦・各州）<br>○インドネシア関係文献マイクロフィッシュ |
| 東京外国語 | ○アラビア現代史料<br>○ブラジル・コレクション                                                                 |
| 東京学芸  | ○ドイツ教育学集書                                                                                 |
| 東京芸術  | ○音楽学学位論文集                                                                                 |
| 東京商船  | ○「キャラバンマリタイムブック                                                                           |

## ス」コレクション

|        |                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 東京水産   | ○チャレンジャー号探検記                                                                       |
| 一 橋    | ○フランス経済学コレクション                                                                     |
| 金 沢    | ○フランス法律判例コレクション                                                                    |
| 名古屋    | ○フランス、官報及び議事録<br>○ハンサード英国両院本会議録<br>○インド立法関係史料集                                     |
| 愛知教育   | ○コロンビア大学教育学叢書                                                                      |
| 京 都    | ○アイルランド大学出版局英国議会資料シリーズ<br>○フランス国民議会議事録<br>○ドイツ帝国議会議事録<br>○台湾国立中央図書館善本漢籍<br>○イタリア史誌 |
| 大 阪    | ○アメリカ政府所蔵日本国政文書<br>外務省、内務省、法務省<br>○中国方志叢書                                          |
| 神 戸    | ○ロシア・ソ連で出版された日本関係文献<br>○合衆国議会公聴会記録                                                 |
| 岡 山    | ○ドイツ帝国統計書                                                                          |
| 広 島    | ○ハンサード英国議会討論報告<br>○戦争と平和に関する文献目録                                                   |
| 香 川    | ○ニューヨーク証券取引所上場会社年次営業報告書                                                            |
| 福岡教育   | ○英国教育史研究資料                                                                         |
| 九 州    | ○故シャルル・ペラ教授旧蔵書<br>○ドイツ連邦議会「戦後分」議事録                                                 |
| 九州芸術工科 | ○ロイド・モーガン教授建築学関係コレクション                                                             |

熊 本 ○英国議会議事録1801-1899年

## 昭和54年度

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 北 海 道 | ○ドイツ法制度・実定法関連コレクション |
| 弘 前   | ○初期英語文献協会出版物        |
| 東 北   | ○米国判例体系<br>○英国古書集成  |
| 山 形   | ○上杉文書               |
| 筑 波   | ○マックス・ベッソン・ジャポニ     |

## カコレクション

- 埼 玉 ○現代政治学基本文献集  
 千 葉 ○イギリス知体験  
 東 京 ○英国政府刊行物  
     ○民国時代公文書資料  
     ○舌耕文芸関係資料  
 東京学芸 ○英国教育学文献集成  
 お茶の水女子 ○女性の歴史  
 横浜国立 ○中国方志叢書  
 新 潟 ○欧州各国公式経済統計資料  
 富 山 ○承政院日記  
 静 岡 ○国際連盟関係コレクション  
 名 古 屋 ○ホップスを中心とするイギリス  
     思想史原典コレクション  
 京 都 ○台湾中国国立中央図書館善本漢  
     籍  
     ○フランス国民議会議事録  
 京都教育 ○教育情報センター文献資料

大阪外国語 ○北欧歴史と民間伝承コレク  
 ヨン

神 戸 ○ロシア・ソ連で出版された日本  
 関係文献

神戸商船 ○近世の廻漕史料（東北編）

奈良教育 ○アメリカ主要大学教員養成関係  
 学位論文集

鳥 取 ○四部分類叢書

岡 山 ○ドイツ歴史史料集成

広 島 ○米国国勢調査報告書

山 口 ○四庫全書珍本

愛 媛 ○大日本古文書正倉院編年文書

九 州 ○米国判例体系  
     ○欧州各国公式経済統計資料

○石崎文庫蔵本

長 崎 ○巨大企業・経済集中関係資料

熊 本 ○旧幕府引継書

鹿児島 ○シボガ学術探検報告

## 共通基本図書購入書目

全学で提出している共通基本図書購入費により、昭和54年度において下記の図書を購入しました。

これらの図書は本館、亥鼻分館または園芸学部分館に備えつけてありますので、ご利用下さい。  
 （亥、園の表示以外は本館備付）

### 継続刊行物（和書）

#### 1. 書誌

1. 出版ニュース
2. 出版年鑑（本・亥・園）
3. 日本古書通信
4. 月刊文献ジャーナル
5. 学術雑誌総合目録
6. 現行医学雑誌所在目録（亥）

#### 2. 記事索引

1. 雑誌記事索引 人文・社会編
2. 医学中央雑誌 累積版（亥）

#### 3. 地図

1. 新日本分県地図
2. 千葉市住宅地図

#### 4. 名鑑・要覧

1. 職員録
2. 全国大学職員録
3. 千葉県学事関係職員録
4. ダイヤモンド会社職員録
5. 全国各種団体名鑑
6. 医学研究者名簿（亥）

#### 5. 年鑑・白書・統計書 約100種

（詳細は館報No.14を参照）

#### 6. 法令集

1. 六法全書（岩波・有斐閣・三省堂）
2. 法令全書
3. 現行日本法規集追録
4. 教育法令集追録
5. 千葉県法規集追録

#### 7. 資料集

1. 大日本史料
2. 大日本古文書
3. 新聞集成大正・昭和編年史
4. 朝日新聞 縮刷版
5. 日本経済新聞 縮刷版
6. 天理図書館善本叢書

#### 8. 図書館

1. 情報管理
2. ドクメンテーション研究
3. レファレンス
4. Library and Information Science
5. 大学図書館研究
6. 書誌索引展覧

継続刊行物 (洋書)

1. BIBLIOGRAPHY

1. National Union Catalog.
2. Cumulative Book Index. (本・亥)
3. EBSCO Bulletin of Serials Changes.
4. Books in Print.
5. Verzeichnis Lieferbarer Bücher.
6. Deutsche Bücherverzeichnis.
7. NLM Current Catalog. (亥)
8. Vital Notes on Medical Periodicals. (亥)
9. British Books in Print.
10. British National Bibliography.
11. New Serial Titles.
12. Ulrichs International Periodical Directory. (本・亥・園)

2. INDEXES AND ABSTRACTS

1. Bibliographic Index.
2. Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur.
3. Biography Index.
4. Social Sciences Index.
5. Humanities Index.
6. International Political Science Abstracts.
7. Applied Science and Technology Index.
8. Dissertation Abstracts International.
9. Information Science Abstracts.
10. Facts about Nursing. (亥)
11. International Nursing Index. (亥)
12. International Abstracts of Biological Science. (亥)
13. Horticultural Abstracts. (園)
14. Pollution Abstracts. (園)
15. Reader's Guide to Periodical Literature.
16. Education Index.
17. Abstracts of Hygiene. (亥)
18. Child Development Abstracts and Bibliography. (亥)
19. Psychological Abstracts. (亥)
20. Science Citation Index. (亥)
21. Library & Information Science Abstracts. (亥)

3. ENCYCLOPEDIAS

1. Encyclopedia of Library and Information Science.
2. Meyers Neues Lexikon.
3. Lessico Universale Italiano.
4. Bol'shaia Sovetskaia Entsiklopediia.
5. Great Soviet Encyclopedia.

4. BIOGRAPHY

1. Who's Who.
2. Who's Who in France
3. Contemporary Authors.

4. National Cyclopedia of American Biography.
5. International Who's Who. (本・亥)

5. DIRECTORIES

1. World of Learning. (本・亥・園)

6. GOVERNMENT PUBLICATIONS

1. Monthly Catalog of U.S. Government Publications.
2. United Nations Documents Index.

7. ALMANAC

1. Europa Year Book.
2. Yearbook of World Affairs.
3. Statesman's Yearbook.

8. LANGUAGE DICTIONARIES

1. Middle English Dictionary.
2. Trésor de la Langue Francaise.

9. MISCELLANEOUS

1. Landolt-Börnstein Zahlenwerte……

10. LIBRARY SCIENCE

1. Library Literature.
2. Library Journal.
3. UNESCO Bulletin for Libraries.
4. American Libraries.
5. College and Research Libraries.
6. Advances Librarianship.
7. Bulletin of the Medical Library Association (亥)

単行書 (和書)

1. 日本書籍総目録 1979
2. 国立国会図書館著者名典拠録
3. 研究者研究課題総覧 人文・社会科学編, 自然科学編 (本・亥・園)
4. 文政・天保国郡全国當大名武鑑
5. 江戸時代日本国絵図選要 その1, 2
6. 角川日本地名大辞典4
7. 日本歴史地名大系 20
8. 経営管理研究実務文献要覧 1968-1977
9. 社会学研究文献要覧 1965-1974
10. 文化人類学研究文献要覧 1945-1974
11. ドイツ文学研究文献要覧 1945-1977
12. 科学技術用語大辞典
13. 病院要覧 1979 (亥)
14. 学術雑誌総合目録 1979 (亥)
15. 医療衛生要覧 1979 (亥)
16. 児童福祉六法 昭和55年版 (亥)
17. 人口動態統計 昭和53年下 (亥)
18. 実務衛生行政六法 1979 (亥)
19. 看護文献抄録集 1975-1976 (亥)
20. 厚生統計協会統計資料 24, 25 (亥)
21. 日本看護学会集録 第9-10回 (亥)
22. リハビリテーション白書 (亥)
23. 老人福祉関係法令通知集 昭和54年版 (亥)
24. 社会学小辞典 (亥)

25. 社会福祉六法 昭和55年版 (亥)
26. 社会保障年鑑 昭和54年版 (亥)
27. 障害者六法 (亥)
28. 哲学事典 (〃)
29. 全国市町村要覧 昭和54年版 (亥)
30. 英中日土壌学用語集 (園)
31. 現代日本執筆者大辞典 4 (園)
32. 気象ハンドブック (園)
33. 日本経済統計資料総合目録 農林業統計編 (園)
34. 日本のシダ植物図鑑 第1巻 (園)
35. 食品加工技術ハンドブック 改訂版 (園)
36. 食品鑑別・検査法ハンドブック (園)
37. 食品工業統合事典 (園)
38. 図説 世界の昆虫 第1巻 (園)

#### 継続刊行物 (洋書)

1. Dewey Decimal Classification. 19th ed. Vol.1-3.
2. National Union Catalog. 1968-72.
3. Dictionaries Encyclopedias and Other Word Related Books. Vol.1-2.
4. The Professional Librarian Series.
5. Main Trends of Research in the Social and Human Sciences.
6. International Encyclopedia of the Higher Education. Vol.1-10.
7. McGraw-Hill Encyclopedia of Science and Technology. Vol.1-15.
8. Acronyms, Initialisms and Abbreviations. Dictionary. 6th ed. (本・園)
9. Engelsk-Norsk Ordbok, Norsk-Engelsk Ordbok.
10. Grande Dizionario Della Lingua Italian. Vol.10.
11. A Dictionary of Literature in the English Language. 1940-70.
12. Reference Sources in England and American Literature.
13. British Writers.
14. American Writers.
15. American Men and Women of Science. 14th ed. Vol.1-8. (亥)
16. Anatomia Hvmani Corporis. (亥)
17. Bibliography of Nursing Literature. 1850-1979. (亥)
18. Exercitationes de Generatione Animalium. (亥)
19. Exercitationes Anatomicae de Motu Cordis et Sangvinis in Animalibus. (亥)
20. Hospital Abstracts. (亥)
21. Index for Roentgen Diagnosis. 3rd. ed. (亥)
22. Pharmacological and Chemical Synonyms. 5th ed. (亥)
23. Philosophi et Medici Bononienses e Regia Societate Opera. (亥)
24. Proceedings in Print. 1978. (亥)
25. A Source Book of Nursing Research. 2nd ed. (亥)
26. Tabulae Anatomicae. (亥)
27. Agricultural Research Index. 6th ed. (園)
28. Encyclopedia of Plant Physiology. (園)
29. Dictionary of Biology; English-German-French-Spanish. (園)
30. International Encyclopedia of Statistics. Statistics. 1979. (園)

### 教官寄贈著書

図書館では、これまで本学教官の著書を寄贈していただいておりますが、今後ともご刊行の際は寄贈していただきますようお願いいたします。寄贈された図書は、本誌で広報します。なお、寄贈については受入係担当です。

下記は、昭和55年10月から昭和56年3月に寄贈された著書 (附属図書館備付) です。

#### 小林清衛 (教養)

シェイクスピア史劇試論 小林清衛著  
学術出版会 昭和55 54P 22cm 930.28開

#### 原田敬一 (人文)

M L A 新英語論文の手引き 米国現代語学文学協会編 原田敬一訳 北星堂書店 昭和56 158P 21cm 830.4開

#### 野沢栄司 (看護)

思春期の心理と病理 野沢栄司著 弘文堂  
昭和56 243P 19cm (<心の健康> ブックス 5)  
371.47開

#### 村山元英 (人文)

異文化理解への道 - 「仮宿の思考」 - 村山元英著 サイエンス社 昭和56 281P 19cm  
361.6開

#### 浅井 晃 (理学)

初等統計学 (原書第4版) P. G. ホーエル著  
浅井晃・村上正康共訳 培風館 昭和56 325P 21cm 418.8開



## 昭和56年度 閲覧業務日程

| 区 分 (月) | 4    | 5 | 6 | 7     | 8          | 9     | 10    | 11                   | 12         | 57 1  | 2     | 3                |
|---------|------|---|---|-------|------------|-------|-------|----------------------|------------|-------|-------|------------------|
| 開 館 日   | 1(火) |   |   | 18(土) |            | 1(火)  | 31(土) | 6(金)                 | 24(木)      | 11(月) |       | 13(土)            |
| 時間外開館   | 1(火) |   |   | 18(土) |            | 1(火)  | 31(土) | 6(金)                 | 24(木)      | 11(月) | 20(土) |                  |
| 休 館 日   |      |   |   |       | 20(月) 移転作業 | 31(月) |       | 大学祭<br>2 5<br>(月)(木) | 25(金) 年末年始 | 9(土)  |       | 15(月) 31(木) 図書整備 |

昭和56年度は上記のように開館する予定です。今年度は新館への移転作業があるので夏休み期間はほとんど休館となります。なお、9月に新館開館を予定していますが、開館後の一般出入口は新館側となります。

時間外開館は平日16:30~20:00、土曜日12:00~16:30となっておりますが、この時間には書庫内図書の閲覧、文献複写等は行なっていませんので注意して下さい。

## 故田中英明教授御遺族に叙勲

既報(図書館報No.17)したように「田中文庫」設置の基となった故田中英明教授の蔵書寄贈に対し、紺授褒章が授与された。これは蔵書寄贈に対し、図書館として御遺族の厚意に報いるよう上申ししていたものである。この紺授褒章の伝達式が1月22日、図書館において行われ、御遺族の田中美穂氏に図書館長より手渡された。

## 委員会報告

## ○附属図書館本館の増築に伴う図書館サービスの改善に関する小委員会

第1回 55. 7. 23 (水)

## 議 題

- ①研究図書館の機能の大巾拡充について
- ②視聴覚関係サービスのあり方について
- ③旧館の改装及び新旧両館の設備について

第2回 55. 10. 20 (月)

## 議 題

- ①附属図書館旧館(現本館)改修計画について
- ②増築に伴う図書館サービス改善に関する

## るアンケートについて

## 委 員

|           |         |
|-----------|---------|
| 館 長       | 沼 田 真   |
| 亥 鼻 分 館 長 | 萩 原 弥四郎 |
| 園芸学部分館長   | 福 富 久 夫 |
| 人 文 学 部   | 下 村 由 一 |
| 教 育 学 部   | 椎 名 萬 吉 |
| 理 学 部     | 吉 田 英 信 |
| 薬 学 部     | 力 久 忠 昭 |
| 教 養 部     | 岩 重 政 敏 |
| 学 識 経 験 者 | 小 原 二 郎 |
| "         | 守 屋 秀 夫 |
| 事 務 部 長   | 杉 山 裕   |

## ○共通基本図書選定小委員会

第1回 55. 9. 18

## 議 題

## ①昭和55年度共通基本図書の選定について

## 委 員

|           |         |
|-----------|---------|
| 館 長       | 沼 田 真   |
| 亥 鼻 分 館 長 | 萩 原 弥四郎 |
| 園芸学部分館長   | 福 富 久 夫 |
| 人 文 学 部   | 下 村 由 一 |
| 教 育 学 部   | 椎 名 萬 吉 |
| 教 養 部     | 小 川 劭 誠 |
| 生物活性研究所   | 林       |

## —お詫び—

編集部の手違いにより、第18号に誤りが生じました。正誤表によりお詫びして訂正いたします。

## 正 誤 表

| 誤    |                  | 正         |
|------|------------------|-----------|
| 6 頁右 | 30 行目 「総合」田中文庫   | 田中家文庫     |
|      | 31 行目から 「総合」文庫…… | 削 除       |
|      | 39 行目まで …差支えない。  |           |
| 6 頁左 | 12 行目 Eggers     | Eggers    |
| 5 頁左 | 33 行目 されるからであろう。 | されるかであろう。 |
| 5 頁右 | 23 行目 置ければ       | 置けば       |

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No.20 1981. 10

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 意識の変革……………                        | 1 |
| 「ドイツ」の精神的基礎としての<br>中世ゲルマン資料集…………… | 2 |
| イタリア史料集成……………                     | 6 |

## 意識の変革

東 米 吉

キャンパスを歩いていると、前をゆく女子学生達のこんな会話が聞えてきた。

「千葉大には今まであまりなかった珍しい建物ができだね。」

「ほんとね、図書館ですって。」

「まあ！ でも千葉大らしくない感じがあって いいんじゃない。」

ちょっと いい気分である。思わず頬の筋肉がゆるんでくる。だが考えてみると、さあこれからが大変だぞと云う想いである。新しい革袋には新しい酒を入れなければ納まるまい。

現在、大学図書館界では学術審議会の“今後における学術情報システムの在り方について”(答申)に論議が集中し、大学図書館として如何に対応してゆくかが重要な課題として研究されている。この答申の内容については既にご承知のこととは思いますが、いま、そのねらいを極めて大まかに述べれば、わが国の学術研究の振興を図るためには、その基盤条件として、学術情報流通体制(システム)の整備が必要であり、その新しいシステムは、新たに設ける「学術情報センター」を中枢機関とし、今までに既に相当量の情報の蓄積のある各大学図書館すべてを基礎部分として、一つの大きな枠組の中で、巨大な学術情報図書

館を構成しようとするものである。そして、この全国に分散はしているが膨大な学術情報資料を所蔵する巨大図書館は、コンピュータとデータ通信網の利用によって、何処からでも多くの研究者が同時に、迅速に、しかも必要な会話を交しつつ利用することが可能なシステムを目指すものである。図書館に関係する部分について、更に具体的に云うならば、(1)主要な二次資料データベースの利用によって必要とする学術情報の存在を迅速に検索する。(2)検索した情報を閲覧できるように、全国を通じた一次情報資料の所在目録を作成し、原論文などを提供する。(3)そのため、世界に発生する主たる学術情報資料は、一部は洩れなく国内に収集するなどが、その内容である。

ところで、この新しいシステムが強く望まれる背景には、学術情報の氾濫とも云うべき激増の中で、研究者は希望する情報により一層迅速の確に接する必要に迫られる反面、自己の所属する機関内だけで、それぞれ各個にその必要を充すことは、現下の厳しい諸条件の下では、殆んど不可能になってきつつあること。一方、多数の遠隔地に散らばる情報機関の間の円滑な協力が、コンピュータとデータ通信の技術を通して可能なものとなり、研究

者の中広い要求にも対応できる体制を作る得るようになったと云う現実がある。

それでは、この新しいシステムが適切に動き出せば、研究者、図書館双方にどんな便益がもたらされるであろうか。まず、研究者にとって(1)自己の研究に必要な分野や領域を指定して置きさえすれば、図書館などを通じて必要とする情報や資料などは、自動的に、定期的に入手できる。(2)巨大な量となっている過去のデータの中から、必要なものを迅速に容易に引き出すことができる。また図書館にとっても、(3)サービスの基礎となる資料の受入、目録の作成から、閲覧、参考業務まで全般にわたる業務の処理に、高能率の機械化ができることとなり、その処理過程でおのずから全国的総合目録が形成されて、各大学図書館のそれぞれの資料の相互利用の促進が図られることになる。このように、ある意味ではこれまでに考えられなかった虹色の世界を期待させる、この新しい学術情報システムは、いま各大学図書館に対応のための一大転換を迫りつつあると云うべきであろう。

この一大転期に遅れをとらぬための準備としては、上述の学術情報システムと整合性のある、各大学学内学術情報システムの整備、そのための業務の標準化、システム化、その上に成り立つコンピュータ化による学内外協力体制の確立、情報媒体の多様化に応じた職員資質の向上などなど、いくつも挙げられようが、最も根本的なことは、図書館員はもとより研究者をも含めた、学術情報に対する「意識の変革」ではないだろうか。

すなわち、学術情報はもともと人類が永年にわたり築き上げた貴重な資源であり、しかも共有されるべき資源である。したがって、それはまた共通に利用されるべきものである、とする「意識の変革」である。事実、資料の共同収集、共同利用なくして、この夥しい量の学術資料の効率的利用は極めて困難となりつつある。

もっとも、共同収集、共同利用と云うと、大学においては、直ぐ図書図書館への集中か、部局図書室への分散か、集中か分散かの

問題とされ易いが、これは決して一刀両断、集中が良くて分散が悪い、あるいはその反対であるとするような簡単な問題ではないのである。それぞれの大学における諸条件を踏まえ高度な見地よりの柔軟な判断が求められる処であり、その判断の根底に横たわるものこそ上述の「意識の変革」なのである。

しかし、人間は本質的に余り変革と云うことを好まない面があるのではないか、例え、事実を突きつけられてもなお仲々に意識の変革は引き起されないのではないか、と考へたりもする。

ともあれ、「意識の変革」なくして、この新しい学術情報システムを十分に機能させることは至難の業であろう。

千葉大学の女子学生が明るく云ったように、今までに見かけなかった新図書館の建物に適しい、資源共有、共同利用と云う「意識の変革」を、われわれもまたその内容として、新しく対処してゆかなければならないと思うのである。そして、それが真の新しい図書館として千葉大学の研究教育に役に立つ、良質のサービスを提供する途であると考えるのである。

(附属図書館 事務部長)



# 「ドイツ」の精神的基礎としての 中世ゲルマン資料集

Monumenta Germaniae Historica:

Scriptores (in folio), t.I-XXX,

Leges (in folio), t.I-V,

Diplomata (in folio), t.I

—1980年度購入の「大型コレクション」—

高橋清徳

I 1980年度購入の「大型コレクション」  
として本学図書館に所蔵されることになった  
この資料集は、専門家の間で「モヌメンタ」  
あるいは「エム・ゲー・ハー (M. G. H.)」  
と略称されているもので、1826年以来現在ま  
で継続刊行されており、すでに総数 200巻を  
越える膨大な規模の中世ゲルマン資料集の一  
部である。

さて、この資料集のどの巻でもよい、任意  
の一冊を手にとって繙いてみられたい。そう  
すれば、その序文の冒頭に“Sanctus amor  
patriae dat animum.” (「聖なる祖国愛は魂  
を与える」) という標語が掲げられているのを見  
出すであろう。これは、この資料集刊行の  
発案者カール・フライヘル・フォン・シュタ  
イン (Karl Freiherr vom Stein, 1757-183  
1) が、この資料集が担うべき役割に熱い期待  
をこめて選んだものである。

周知の通り、ロマン主義運動は、前近代の  
文学や伝説、そして歴史に対する関心を喚起  
したが、ドイツ史の本格的研究が始まるには、  
さらにナポレオン戦争という試練が必要であ  
った。「ドイツ」と呼ばれる地域には、中世  
以来の政治的分裂の結果、18世紀に至っても  
じつに大小 300余の領邦国家がひしめきあ  
っており、これらの諸国家を総括する「神聖ロ  
ーマ帝国」も名目のみの存在であった。した  
がって「ドイツ」の精神文化は、統一的祖国  
を基礎とした国民的なものとならず、コスモ  
ポリタンの性格が濃厚だったのである。この

立場からすれば、フランス革命は理性の勝利  
として歓迎されるわけである。これに対し、  
ティルジット条約 (1807年) を契機に、文化  
的・政治的ナショナリズムが明確な形で台頭  
し、事情が大きく変ることになった。同条約  
は、特にプロイセンにとって大きな衝撃であ  
った。すなわち、同条約によって領土は大幅  
に削り取られて半分以上となったばかりでな  
く、プロイセンの工業にとって重要なウエス  
トファーレンの炭鉱地区を失い、莫大な賠償  
金を課せられ、そのうえ15万のフランス軍の  
駐留を認めさせられたのである。

かかるプロイセンにあったシュタインにと  
って、フランスによる占領からの解放と国家  
をたて直すための内政改革が焦眉の課題と意  
識された。外国からの独立が何にも優先して  
達成さるべき課題なのであるが、そのために  
は国民の中に祖国愛を目覚めさせ独立のため  
の勇氣と自信を与えることが不可欠だと彼は  
考えた。たんに権力に盲従するだけの人民か  
らは愛国の熱情も国家への献身も期待できな  
いからである。かくして、国家を担いいうる国  
民を創出するために、シュタインは、農民を  
封建的な人格の隷属から解放し、都市住民を  
自治的市民とする改革を断行したのである。

1813年、プロイセン全土に広がった蜂起を  
背景として、ナポレオンからの解放がかちと  
られた。しかし、ウィーン会議の結果はシュ  
タインが求めた統一と自由からは程遠いもの  
であった。シュタインは、これを契機に政治



から完全に引退し、余生を「モヌメンタ」の刊行に捧げることになるのである。

シュタインは、引退から少し後に次のように書いている。「私は引退以来、〔国民の中に〕ドイツの歴史に対する趣味を育て、歴史の研究を容易にし、それによって共通の祖国とわれわれの偉大な祖先への愛の保持に貢献しようと望んできた」かかる考えに基き、彼は歴史資料集の刊行を思い立った。まず、彼は政府、議会に計画を提案したが何らの支持も援助も得られなかった。そこで彼は、1819年、多額の資金を提供してGesellschaft für Deutschlands ältere Geschichtskunde (古ドイツ史研究協会)を設立し、準備のための論議や通信を掲載する機関誌を刊行することとした。

この企画は広く有力な支持者を得ることができた。参加者、援助者を見ると、アイヒホルン、シュロッサー、ヴィルケン、ダールマン、ラウマー、ヘーレン、ニーブール、フンボルト、ヤコブ・グリム、ゲーテ等がいる。しかし、実際に資料編纂という困難な仕事を担当する人間は仲々見つからなかった。いかに熱意があるとはいえ、シュタイン自身は学問の素人にすぎないのである。だが間もなくハノーヴァーの文書官ゲオルク・ハインリッヒ・ペルツ (Georg Heinrich Pertz, 1795-1876) なる人物を得ることに成功し、1826年にはこの事業の大綱が発表された。それは、Scriptores (史家) 篇、Leges (法律) 篇、Epistolae (書簡) 篇、Diplomata (国王文書) 篇、Antiquitates (古事) 篇の五つの部門からなる壮大なものだった。

資料編纂作業は、最初の二部門から着手され、1826年にこの資料集の最初の巻 (Scriptores, t. I) が、続いて第2巻 (Scriptores, t. II) が、そして1835年にはLeges, t. I が公刊された。以後、刊行は順調に進み、約50年にわたったペルツ在任中に25巻もの刊行が実現したのである。今回本学図書館に所蔵されることになったコレクションは、この25巻 (つまり、この刊行事業初期の25巻) ——ペルツ自身の編纂になるもの22巻 (Scriptor-

es, t. I—XII, XVI—XXIII; Leges, t. I et II)、他の人の手になるもの3巻——すべてを含んでいるという点で特色あるものと言えよう。その後、この事業はヴァイツをはじめ有能な人々に担われて今日に至っている。

II 本資料集に収録された資料に関してはいずれ利用者のために目録が作成されるであろうから、詳細はそちらに譲り、概略を記すにとどめたい。

Scriptores篇には、中世の史家たちの手になる種々の「史書」が収録されている。それらは種類から言えば、Historia, Chronica, Annalesなどの歴史記述およびVita (伝記) などである。因に、「ヒストリア」は歴史事実を原因結果の連関においてとらえたものであり「クロニカ」は事実を時間の系列に並べたものであり、「アナーレース」は事件の単なる記録であると区別されるが、もちろん中世の史家達はそれらを厳格に区別していたわけではない。地域的には、東欧も含めてほぼヨーロッパ全域の資料が、時代的には中世全体にわたって資料が集められている。

Leges篇収録の資料は、次の如く分類するのが利用上便利だと思われる。

(1) フランク諸部族法典: Lex Ribuaria (リブアリア人の法典)、Lex Francorum Chammavorum (フランク部族の小支族カマウィー人の法典)

(2) 上部ドイツの諸部族法典: Leges Alamannorum (Pactus Alamannorum および Lex Alamannorum を中心としたアラマン人の諸法)、Leges Baiuvariorum (バイエルン部族法典の第1、第2、第3テキストおよび追加諸条項)

(3) 下ドイツの諸部族法典: Leges Saxonum (Capitula de partibus Saxoniae, Lex Saxonum, Capitulare Saxonicum などザクセン人の諸法)、Lex Thuringorum (アングェルン人およびヴァルネン人すなわちテューリンゲン人の法典)、Lex Frisionum (種々のフリーゼン法の集録および判告)

(4) 東ゴートの諸法典: Edictum Theode-

rici regis (テオドリック王法典。主としてローマの諸法源を編集したもの)

(5) 西ゴードの諸法典: *Lex Romana Raetico-Curiensis* (クールレティエン地方の法で *Lex Romana Visigothorum* を基礎として形成されたもの)、*Remedii Curiensis episcopi capitula* (クールの司教レメディウス編の法律書)。

(6) ブルグントの諸法典: *Leges Burgundionum* (グンドバード王の法典=*Lex Gundobada* および同王によって、ローマ人を対象として発布された *Lex Romana Burgundionum*)

(7) ランゴバルド人の法典: *Leges Langobardorum* (ロタリ王によりはじめて体系的に成文化されたランゴバルド人の部族法である *Edictus Rothari*, 追加勅令、バヴィア法律学校で作られたランゴバルド法の法令集である *Liber Papiensis*, この法令集に註釈を加えて作られた法律書である *Lonbardae*)

(8) 王法: 500年から1313年に至る歴代の王が発布した勅令・命令などの単行法令が包括的に収録されている (t. I, II)。

以上 *Leges* 篇 5 巻には、ゲルマン諸部族の法典の主要なものがすべて収録されており、また勅令類は、中世のほぼ全体がカバーされていると言ってよい。これに収録されていない法典もあるが、これについては法経学部「法学科図書室」(仮称) 所蔵の *Germanenrechte* 叢書 (1934年以降ワイマールで発行) に収録されていることがあり——たとえばゲルマン人最古の法源である *Lex Salica* (サリー人の法典) ——両方をあわせ用いれば、部族法典に関してはほぼもれなくカバーしうる。なお、*Germanenrechte* 叢書は、原文にドイツ語訳を対訳の形で付している。もちろん、この訳は試訳でしかなく研究の際に依拠できるようなものではないが、教材として利用するには便利であろう。

III この資料集のどれをとってみても、たとえば原文に付された詳細きまる註をみただけで、編者たちが手書本の探索、その解説、

テキストの復元・確定といった作業にどれほど多くの時間と労力を注ぎ込んだか、また仕事の完成には不撓の持続的な精神力を必要としたであろうことが想像できよう。

たしかに資料は歴史像形成の最も確実かつ不可欠の基礎である。しかし、本資料集収録の資料のすべてはラテン語もしくは中世語であり、編者の序文もまたラテン語で記されている。だから、かかる資料集はそのままではとうてい国民の愛国心を涵養する糧とはならず、少なくとも学者による研究および教育によって媒介されねばならなかったであろう。

ともあれ、本資料集によってドイツにおける歴史研究は確実な実証的基礎を与えられ、本格的発展をみることになる。つまり、この資料集によって「ドイツ」の精神的故郷であるゲルマンの中世を、確かな基礎をもって語る事が可能になったのである。しかし、資料は、いわば加工を待っている材料なのであるから、われわれの「モヌメンタ」も、シュタインの意図とは別に多様な視角からの利用が可能であり、学内外の多くの研究者の利用が期待される。

〔参考文献: M. Pacaut, *Guide de l'étudiant en histoire médiévale*; Mitteis-Liebert, *Deutsche Rechtsgeschichte*; G.P. グーチ「近代史学史」(上)〕

(法経学部助教授)

## 参 考

### 本館備付

234.04 Monumenta Germaniae historica: inde ab anno M815 Christi quingentesimo usque ad annum millesimum et quingentesimum. Auspiciis Societatis Aperiendis Fontibus Rerum Germanicarum Medii Aevi. Edidit Georgius Heinrichus Pertz. Scriptorum. T. 1-30. Hannoverae, Impensis Bibliopolii Aulici Hahniani, 1826-1934. 30 v. in 32. 34-46 cm. Original or reprint ed.

### 法経—法備付

*Germanenrechte: Texte und Übersetzungen.* Bd. 1-2, 4-12. Weimar, H. Böhlau, 1934-39. 11 v. 21-23 cm. (Schriften der Akademie für Deutsches Recht)

### 教養—芸備付

*Rerum italicarum scriptores; raccolta degli storici italiani dal cinquecento al millesimosecento.* Ordinata da L. A. Muratori. Nuova edizione riveduta ampliata e corretta con la direzione di Giosue Carducci, Vittorio Fiorini & Pietro Fedel. Fasc. Città di Castello, Editore S. Lapi, 1900-59. [Torino, Bottega d'Erasmo, 1968-76] 193 v. 32 cm. Original or reprint ed.

## イタリア史料集成

Rerum italicarum scriptores

—一般教育設備費による—

中 森 義 宗

ムラトーリ Lodovico Antonio Muratori の名をヨーロッパ歴史学に貢献した学者名リストから逸することはできない。18世紀の前半、彼はイタリアの中世に関しての文献を渉猟して、爾後の史学研究者へ基本資料を提供したからである。彼によって初めて膨大な原資料が利用可能の状態に整理されてイタリアの中世研究への足掛りが与えられ、従来の素朴な口伝や伝承にもとづく修史はようやく近代化への道を拓かれたといえよう。

イタリア史学は、すでに14世紀にはヴィルラーニが、次の世紀にはリウイウス等古典古代作家にならった初期ヒューマニストたち(ブルーニやブラッチョリーニ)が、そして16世紀初頭にグイッチアルディーニやマキャヴェッリなどが、着々と近代史学を確立しつつあったけれども、所詮彼らはその極限された社会と時代の史家の域を出ることはなかった。それは一層透徹した洞察力、批判的、客観的な識見をもったムラトーリのごとき人を俟たなければならなかった。

真の文献の価値を認識して、過去のおびただしい記録の集積をきびしい知的操作でもって偏頗なく整理し配列することは、並大抵の知性では不可能である。ムラトーリはそれを実現した類いまれな史家で、イタリア中世研究に都市共同体、すなわちコミュニオンがもつ重要性を刮目した最初の人である。ムラトーリは1672年10月21日モデナ公国のヴィニョラに生まれた。ベネディクト修道会士でモデナ公文庫の司書職にあったベネデット・バッッキーノの下に歴史の批判的研究法を学ぶ一方、1688年侍祭となり、1694年カルロ・ボルロメオ伯により司祭に任じられて、ミラーノのアンプロジアーナ図書館に勤務。その間に、同図書館所蔵の写本中にこれまで無視されていた重要な文献を発見して、これを編集し「秘史」2巻(1697~98のち1713年に2巻追加)を刊行した。同書に対する評価は高く、1700

年モデナ公リナルドは公国の公文書館長に彼を招いた。時にコマッチョの領土所有権をめぐるエステ家と教皇庁とが係争する事件が起こり、ムラトーリはこの法律問題解決の必要上、古書を漁るうち中世の法令や社会問題に関係するに至った。こうした古文書の調査検討から、当時「野蛮、未開」の暗国時代として片づけられていた中世にも、すでに近代国家の萌芽が見出せることに気づいた彼は地方の好事家の協力を得て、ついに「中世諸事件の著者たち」*Rerum italicarum scriptores* いわゆる「中世イタリア史料集成」28巻(1723~51)を世に問うことになる。本双書は紀元500~1500年の約1000年に及ぶ、イタリアの年代記、日記、書翰、法令等の文書を網羅し、中世社会を解明するには必須のものとなった。ついで75の論文を含む「中世イタリアの遺物」*Antiquitates italicarum medii aevi* (1783~43)を刊行、その第3巻(1740)にはアンプロジアーナ図書館で発見したいわゆる「ムラトーリの断片」すなわち新約聖書正典の成立に決定的段階を画した注釈つきのリストを含む紀元180年頃の断章によって、聖書研究の分野に大きな寄与を行なっている。また通史「イタリアの年代史」*Annali d'Italia* 12巻(1744~49)を著したが彼の晩年には教皇庁に占める信頼と学界に博した名声が嫉視されて彼の著作に異端の傾向を見出したベネディクトゥス14世が、ムラトーリを無神論者と判定したなど中傷が行なわれたので、ムラトーリは教皇に直訴することによってこれを打消している。

1750年1月23日モデナで没し、彼が多年教区の司祭長をつとめたサンタ・マリア・ディ・ポンポーザ聖堂へ葬られた。(のち1774年サン・タゴステイーノ聖堂へ移される。)

ムラトーリの中世資料を識ったのは、もう10年にもなろうか。メディチ家について資料

を漁るうち「チオンピの乱」の記録が収載されていることに注目し、シエナでの海外研修から帰国後、同市関係の図書の参考文献にムラトリが度々引用されているのを見たことに発する。思えば、美術史が歴史学の一分野であり今日のような学際的研究の盛んな時代に関連浅からぬ文献資料について黙過することはゆ

るされない。しかも、ルネッサンスが近世の曙というよりも、中世の黄昏と見る学説の有力となりつつある当今、イタリア中世研究に欠くべからざる本双書は当研究室に取揃えることがまた次の世代への刺激と考え、漸くその目的を達成できたというのが実情である。

(教養部教授)

## 共同利用のための図書館 資料(図書・雑誌)に関 する調査を実施

本館では、新館を学習図書館として業務開始したことに伴ない、旧館を研究者のための図書館として活用を図る基礎資料を得るため西千葉地区各学部に対して標記調査を依頼した。

調査結果は、各学部が9月30日までに部局内の回答を回収・整理のうえ、10月9日までに館長あて部局としての回答が寄せられることになっている。

本館では、この調査結果を集計・分析し、旧館2階(雑誌)、3階(図書)に収納する図書館資料の収集・利用計画を策定することになっている。

## 図書館運営委員会報告

### 第1回 昭和56年4月30日(木)

#### 議 題

①昭和57年度附属図書館の概算要求について

②昭和56年度共通基本図書選定委員会について

#### 報告事項

①昭和56年度特別設備費について

②改修後の旧館(現本館)の運営について

③千葉大学生物医学情報図書館設立準備委員会について

### 第2回 昭和56年7月17日(金)

#### 議 題

①旧館(現本館)に配置予定の図書館資料について。

②昭和55年度決算及び昭和56年度予算に

#### ついて

#### 報告事項

①第28回国立大学図書館協議会総会について

②第18回千葉県大学図書館連絡会について

③千葉大学年史関係資料収集計画について

## 運 営 委 員 会 名 簿

昭和56年4月1日現在

館長／沼田真 事務局長／萩原博達 亥鼻分館長／萩原弥四郎 園芸学部分館長／福富久夫、文学部／小山正明、水之江有一 教育学部／椎名萬吉、鶴沢正勝 法経学部／前田康博、柿原和夫 理学部／坂上澄夫、吉田英信 医学部／降矢震、本田良行 附属病院／山口豊、中島博徳 薬学部／北川晴雄、中川昌子 看護学部／平山朝子、野口美和子 工学部／花岡忠昭、坂本勝比呂 園芸学部／太田富貴雄 人文学部／小山正明(併)、前田康博(併) 教養学部／岡崎邦博、小川劼 生物活性研究所／林誠、竹屋漢治

## 昭和56年度共通基本図書選定委員会

昭和56年9月17日(木)

#### 議 題

①昭和56年度共通基本図書の選定について

②共通基本図書の見直しについて

## 委 員 名 簿

館長／沼田真 亥鼻分館長／萩原弥四郎 園芸学部分館長／福富久夫 文学部／小山正明 法経学部／柿原和夫 工学部／花岡忠昭 生物活性研究所／林誠



## 9月1日新館で閲覧業務開始

本館では、夏期休業期間中に旧館から図書等の移転作業を行ない、その間、利用者に御不便をかけていましたが、館員や関係者の努力で、9月1日予定通り開館することができました。

新館開館日の入館者第1号は、理学部 浅井君でした。

新館の利用法は、従来と変更ありません。新たに、AV資料室等が設けられましたので新館入口に用意してある入館案内等を参考にしてください。

なお、旧館は、内部を改修し、研究者が利用し易い図書館として、装いを改め再開館の予定です。

## 第16回国立大学図書館 協議会賞を受賞

本年6月、那覇市で開かれた第28回国立大学図書館協議会総会において、本館が昭和53年から導入し実用化している、図書館業務電算化のうち、「雑誌管理業務の電算化による改善——オンライン方式による所蔵ファイル呼出方式の改善——」の業績が認められ表彰を受けた。

この賞は、わが国の大学図書館改善に文字通り挺身中急逝された、故岸本英夫東大館長の、大学図書館に尽された功績を後世に伝えるため設けられたもので、現職大学図書館員の活動における功績や優れた研究業績に対して与えられる奨励賞である。

なお、本館は昭和50年に同賞の前身である岸本奨励賞を「図書館で学ぶために」という小冊子発行によって受賞している。

## 絵画「群生の美」の寄贈

本県佐原市在住の洋画家、萩原譲治氏から標題のような絵画50号の寄贈を受けたので、新館2階に展示し、入館者に鑑賞していただくことにしている。

## 千葉大学学術雑誌総合目録 1981年版作成

本学が所蔵する総ての学術雑誌約11,000種の誌名・所蔵巻号・備付場所を示す目録を館員の努力と関係者の援助により完成し、校内教官や大学の図書館等に配布した。

1970年版を作成した時に比較すると、今回は所蔵誌数がほぼ倍増しており、本学の研究体制の急激な整備が進んでいることを示している。

## 医学古書目録予備版を作成

本学が所蔵する貴重な東洋医学古書コレクションの予備版を本学医学部有志を中心とする「東医研グループ」の協力により完成し、関係者に配布した。

このコレクションは、医学部移転等のため昭和52年から、本館が預り、整理していたが、亥鼻分館仮書庫が、元医学部基礎棟に設置されたのに伴ない、10月中旬、亥鼻分館に移され利用されることになっている。

非 公 開